

図面目録

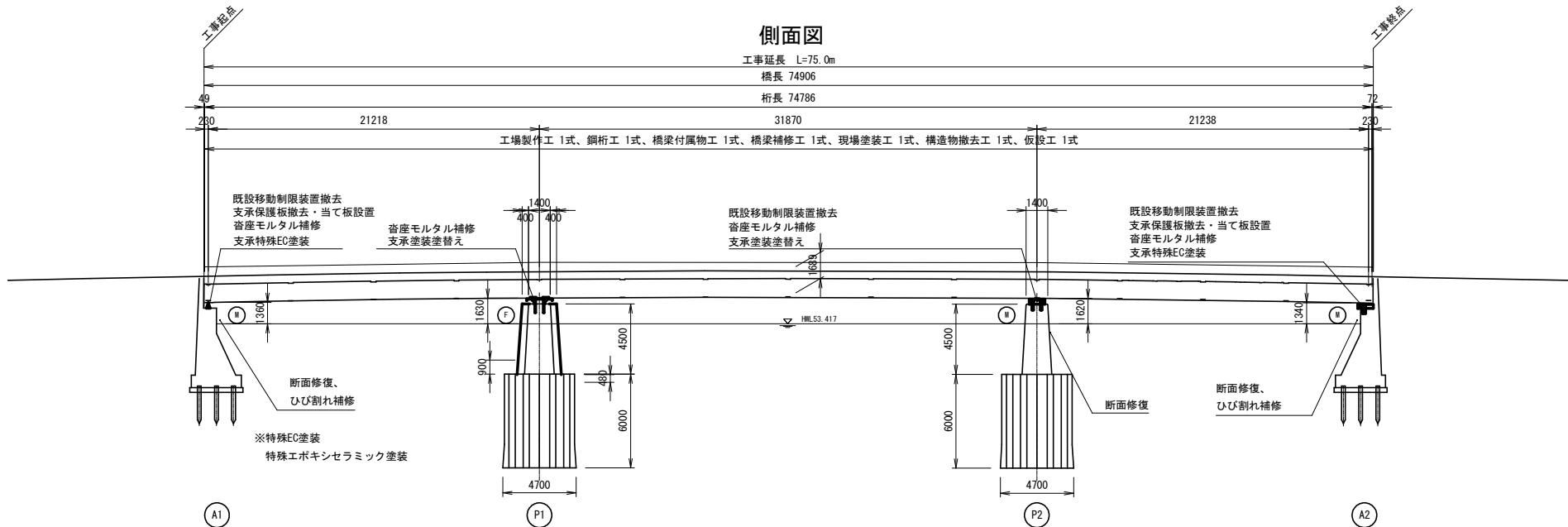
番 号	橋りょう名	図 面 名 称		備考
1	葵橋	補修一般図		
2		鋼部材補修詳細図	端ダイヤフラム当て板補修	
3・4			主桁・縦桁ブラケット当て板補修	
5・6			桁端縦桁ブラケット ピン支持+RC台座補修	
7			支間部縦桁ブラケット ストラット補修	
8			支承保護版撤去・当て板設置	
9		鋼板接着部樹脂再注入図		
10		排水管補修図		
11		高欄・ガードパイプ補修図		
12		コンクリート部材補修図	第1径間 桁下 左側	
13			第1径間 桁下 右側	
14			第2径間 桁下 左側	
15			第2径間 桁下 右側	
16			第3径間 桁下 左側	
17			第3径間 桁下 右側	
18			A1橋台	
19			P2橋脚	
20			A2橋台	
21			補修要領図	
22			沓座モルタル 補修図	
23		表面保護・水切り設置工図		
24		塗装塗り替え図	外面塗替え	
25・26・27			内面塗替え	
28			支承塗替え	
29		既設移動制限装置撤去図		
30・31		参考図 (吊足場・施行ヤード図)	循環式ブラスト	

葵橋 補修一般図

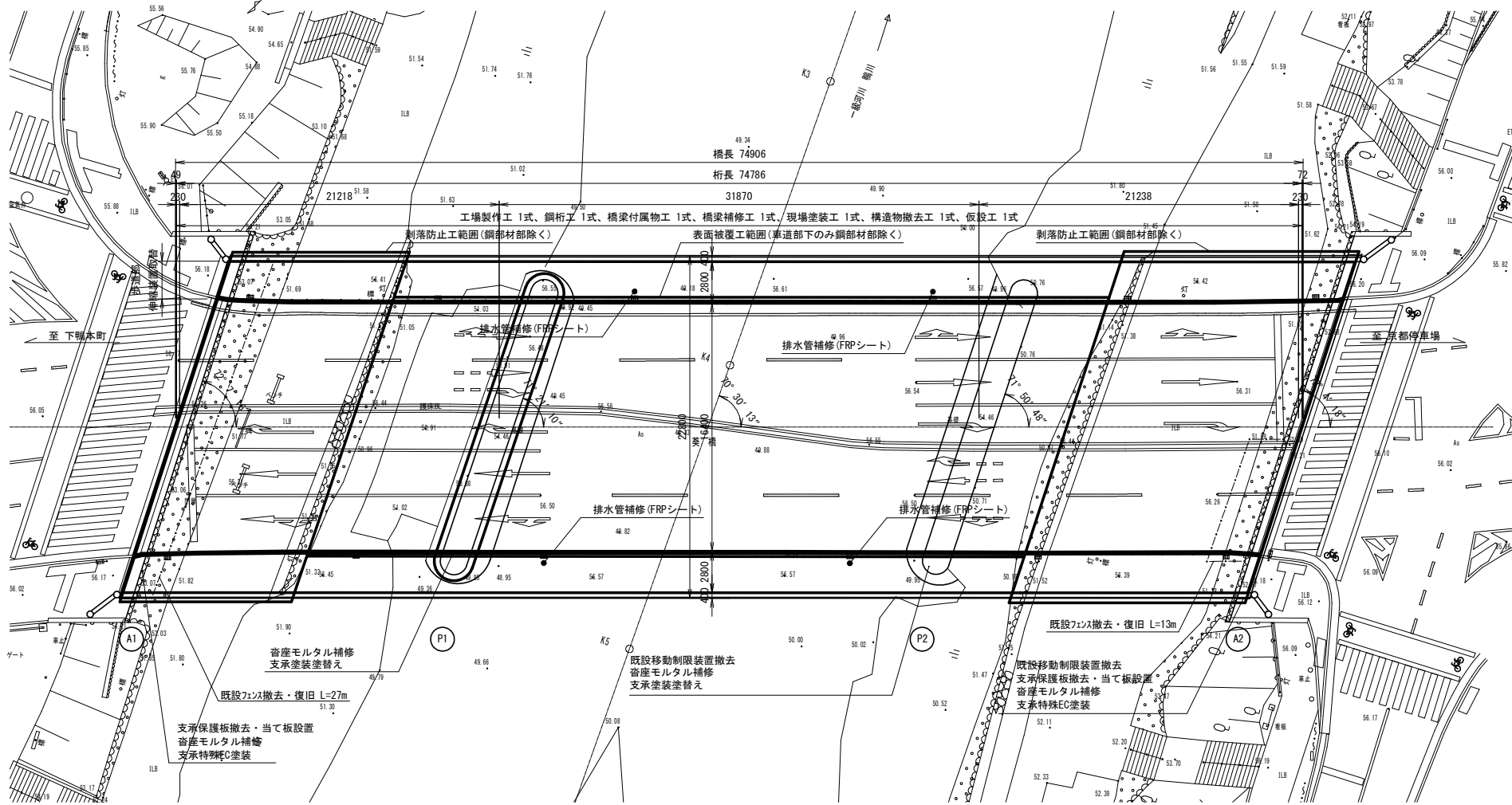
S=1:200

側面図

工事延長 L=75.0m
橋長 74906
桁長 74786



平面図



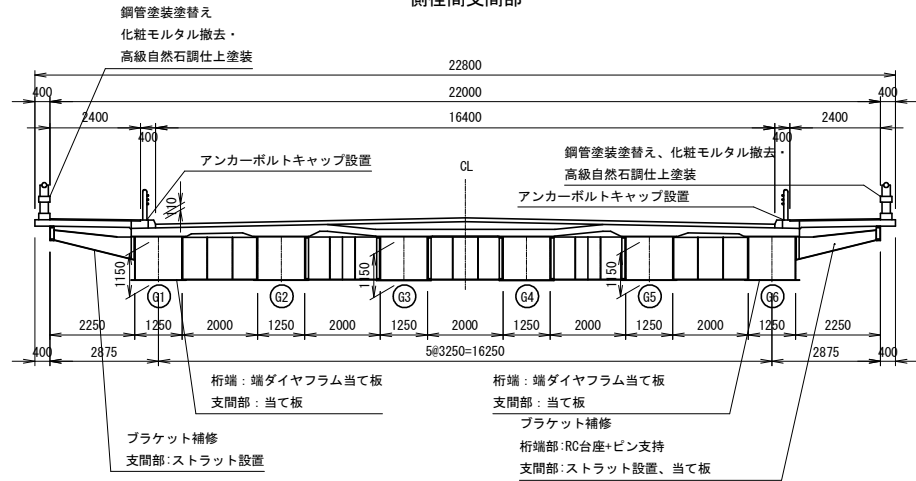
補修内容

- (1) 鋼部材当て板補修、ブラケット補修
- (2) 鋼部材塗装塗替え、支承塗替え、支承保護板撤去・当て板設置
- (3) 表面保護工(表面被覆工、剥落防止工)
- (4) 鋼板接着部樹脂再注入工
- (5) ひび割れ補修、断面修復工
- (6) 排水管補修工(FRPシート)
- (7) 高欄化粧モルタル撤去・高級自然石調仕上塗装
- (8) ガードパイプアンカーボルトキャップ設置
- (9) 既設移動制限装置撤去

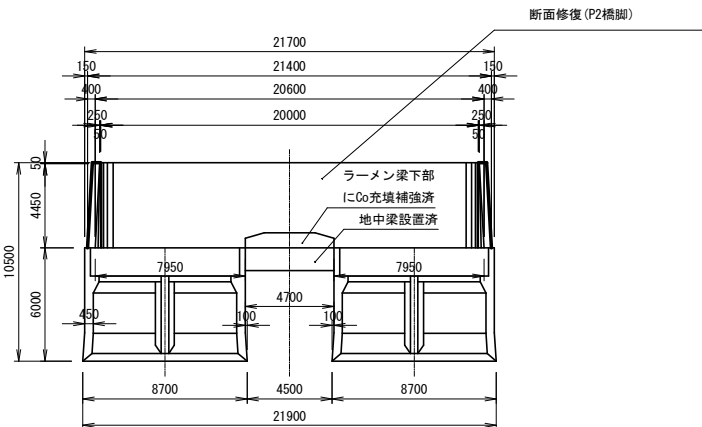
断面図

S=1:100

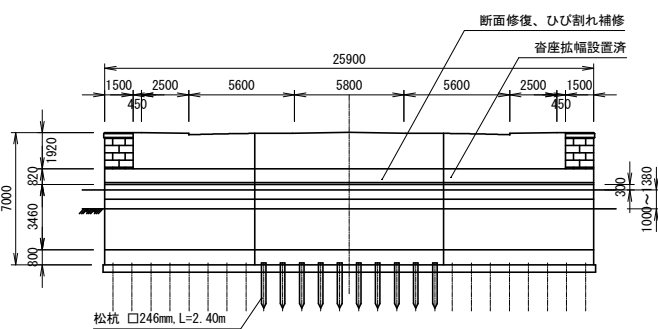
側径間支間部



橋脚正面図



橋台正面図



注)

- (1) 側面図・平面図は、点群測量結果を基に作図している。現地寸法等の確認が必要である。
- (2) 橋台部の沓座拡幅、P1橋脚以外の支承部の移動制限装置も設置済みで、部分的に主桁の当て板補強や床版下面への鋼板接着も施されている。

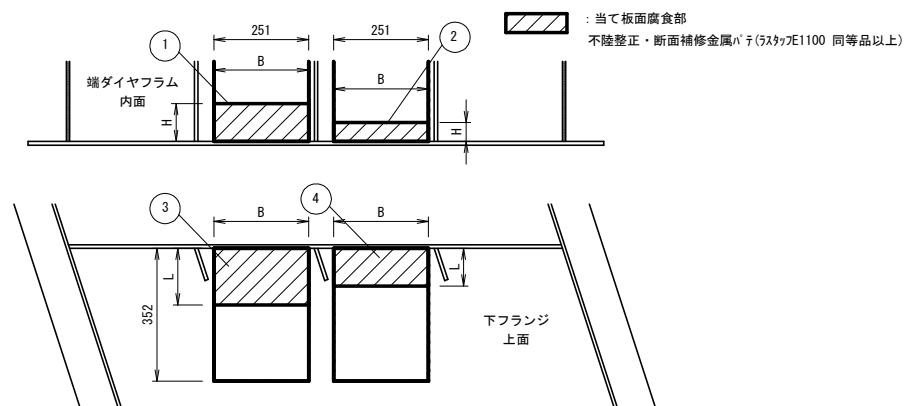
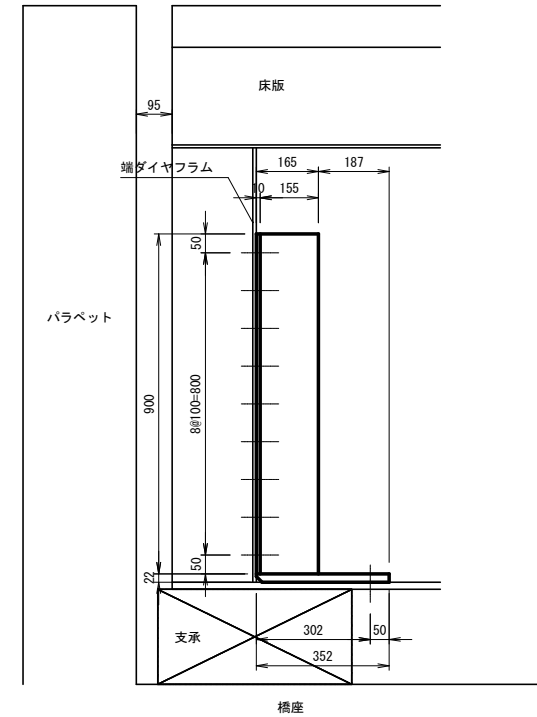
工 事 名	(総合評価) 葵橋補修 (その1) 工事		
工事場所	京都市左京区下鴨宮河町他 地内		
図 面 名	葵橋 補修一般図		
事業年度	令和 8年 6月		
縮 尺	図示	図面番号	1 / 31
京都市建設局 土木管理部 橋りょう健全推進課			

S=1:10

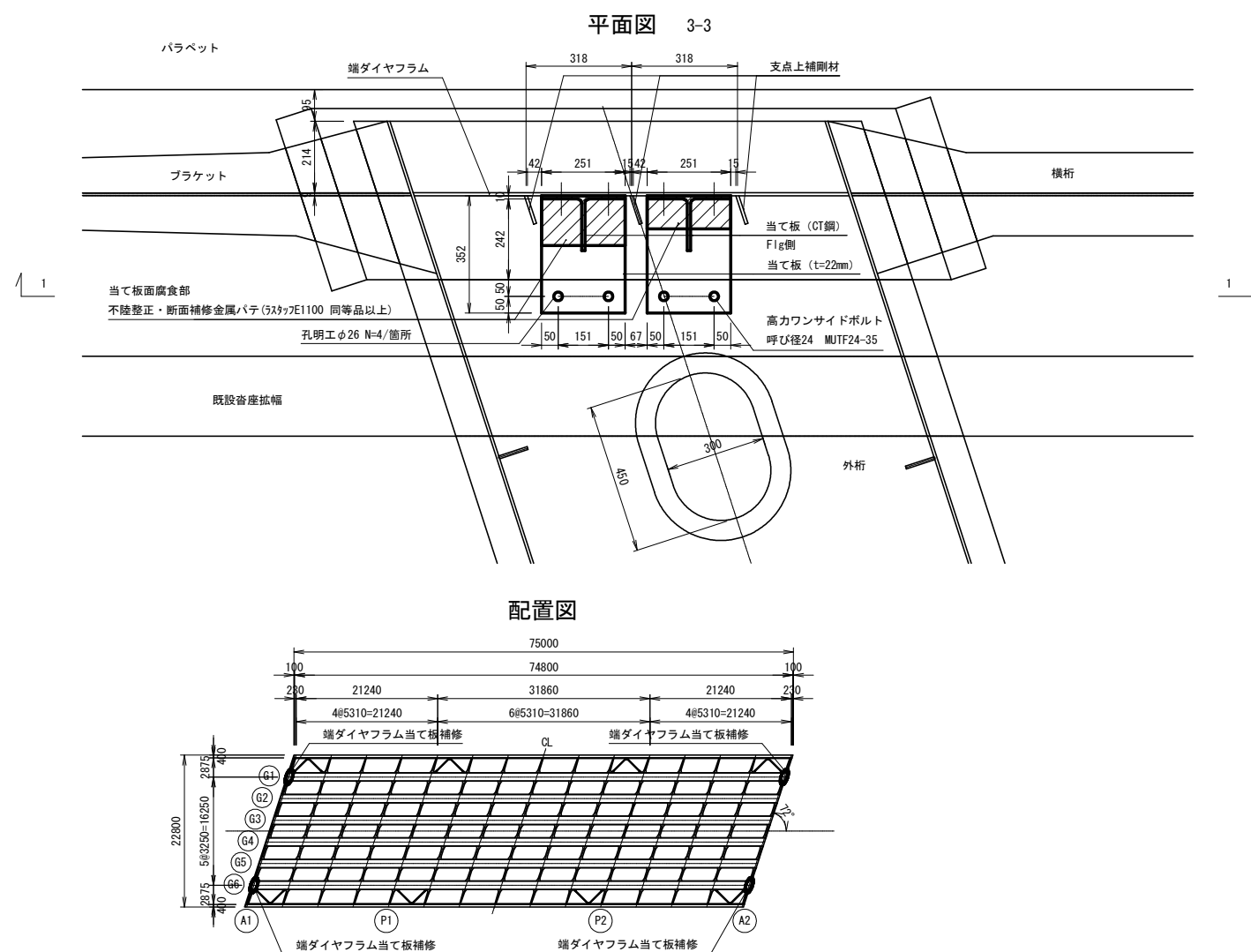
側面図 2-2

1-1

2-2



工 事 名	(総合評価) 菱橋補修 (その1) 工事		
工事場所	京都市左京区下鴨宮河町他 地内		
図 面 名	鋼部材補修詳細図 (1/7)		
事業年度	令和 8年 6月		
縮 尺	図示	図面番号	2 / 31
京都市建設局 土木管理部 橋りよう健全推進課			



金属補修パテ数量表

※補修厚 t は、板厚の半分としている。

位置	No.	B (mm)	H・L (mm)	t (mm)	A (m ²)	V (m ³)	備考
A1部G1	1	251	100	4.5	0.025	0.00011	
	2	251	100	4.5	0.025	0.00011	
	3	251	100	5	0.025	0.00013	
	4	251	50	5	0.013	0.00007	
A1部G6	1	251	100	4.5	0.025	0.00011	
	2	251	100	4.5	0.025	0.00011	
	3	-	-	-	-	-	なし
	4	-	-	-	-	-	なし
A2部G1	1	-	-	-	-	-	なし
	2	251	100	4.5	0.025	0.00011	
	3	-	-	-	-	-	なし
	4	251	50	5	0.013	0.00007	
A2部G6	1	251	150	4.5	0.038	0.00017	
	2	251	100	4.5	0.025	0.00011	
	3	251	352	5	0.088	0.00044	
	4	251	352	5	0.088	0.00044	
				計	0.42	0.0020	

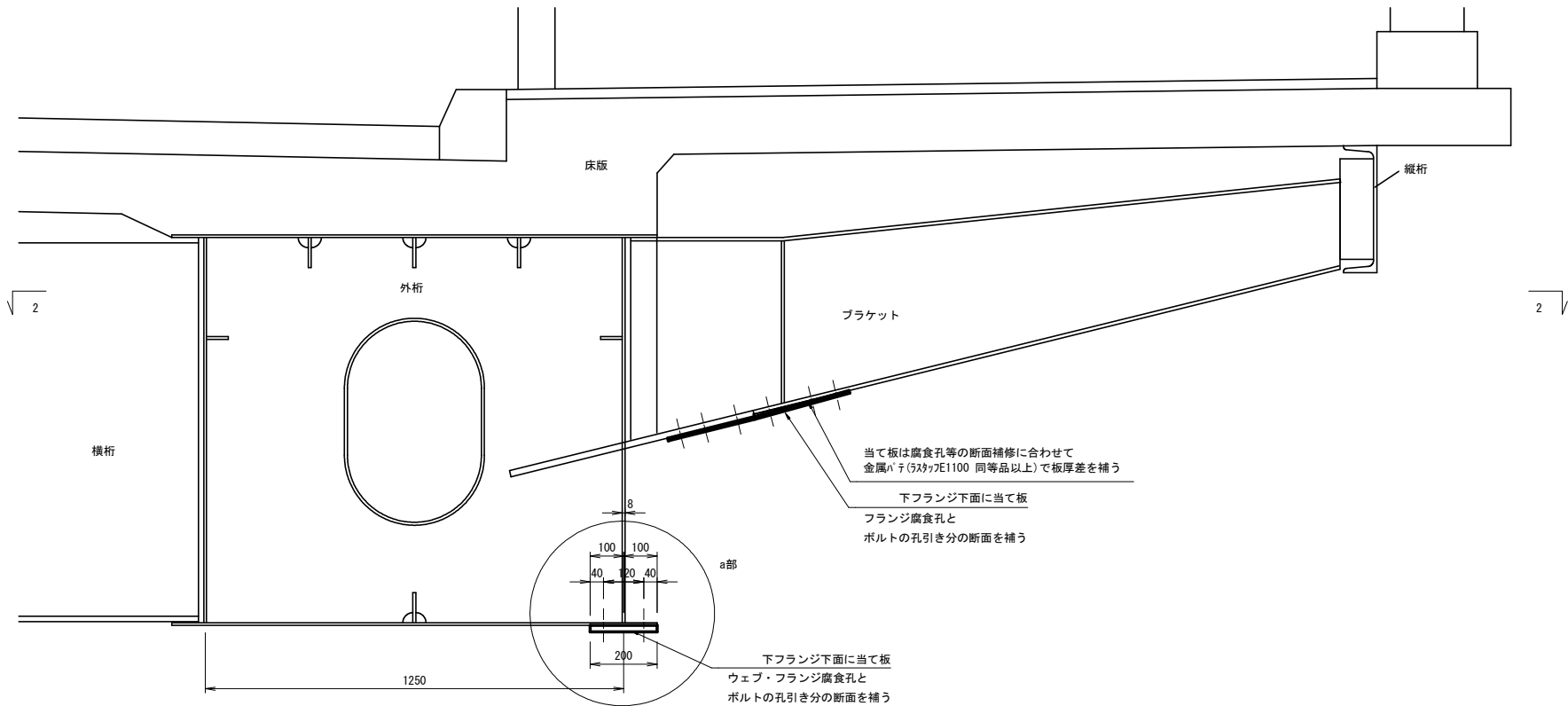
鋼部材補修詳細図(2/7)

S=1:10

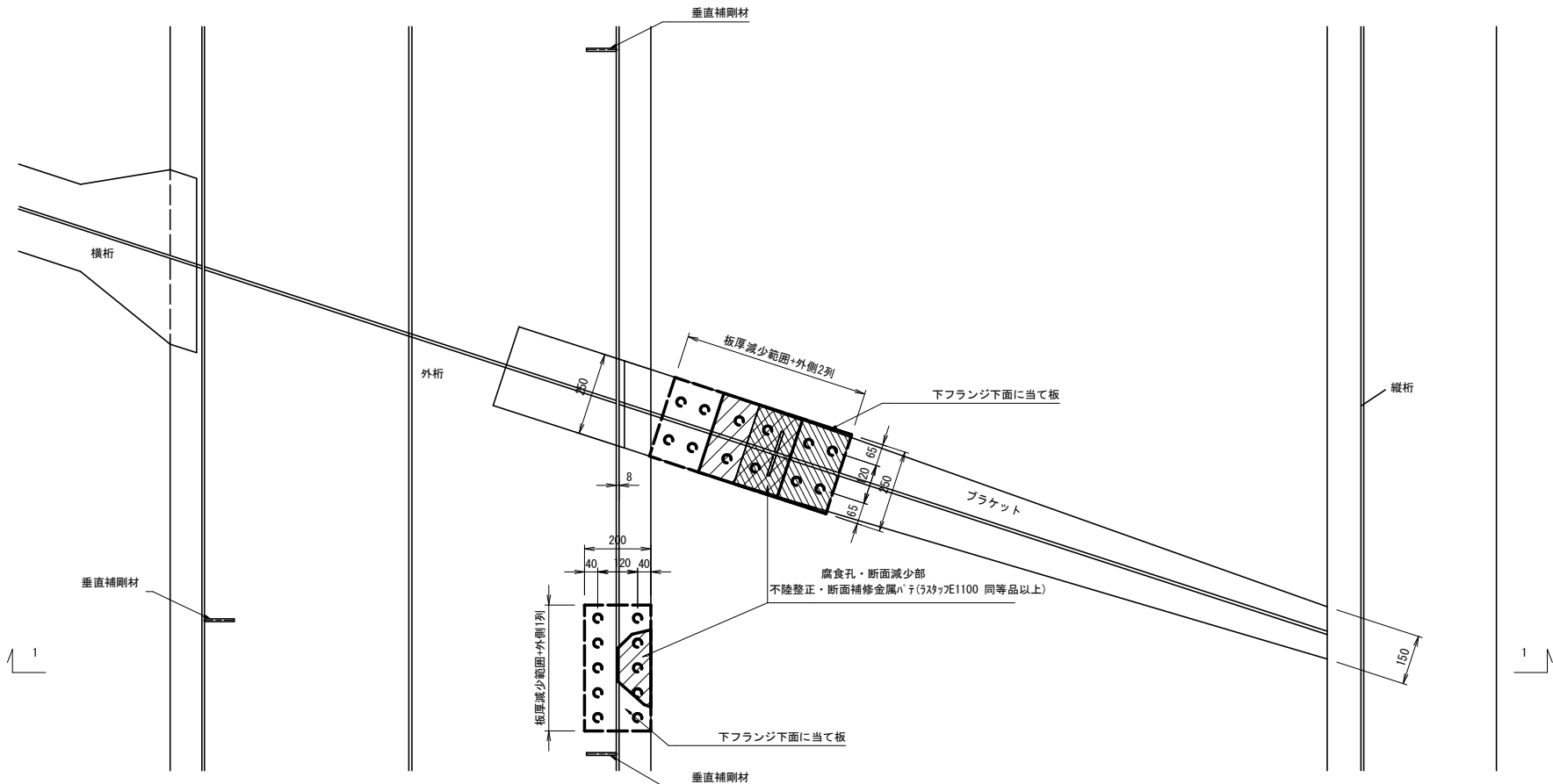
主桁・縦桁ブラケット当て板補修(1/2)

N=5

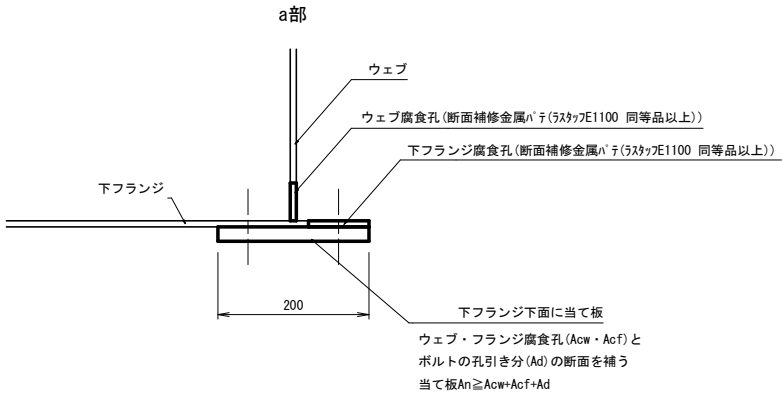
断面図 1-1



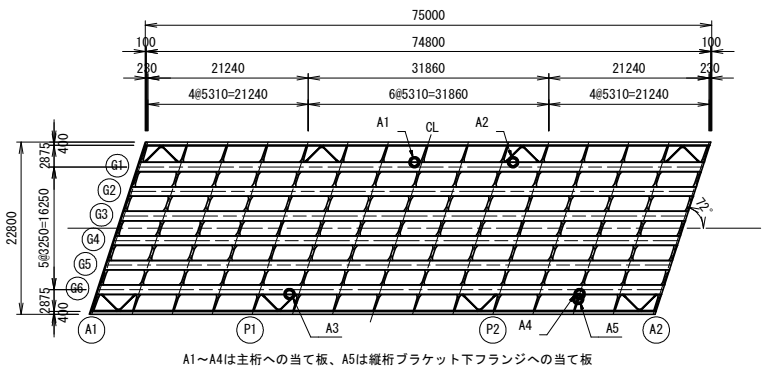
平面図 2-2



当て板概要図 S=1:5



配置図



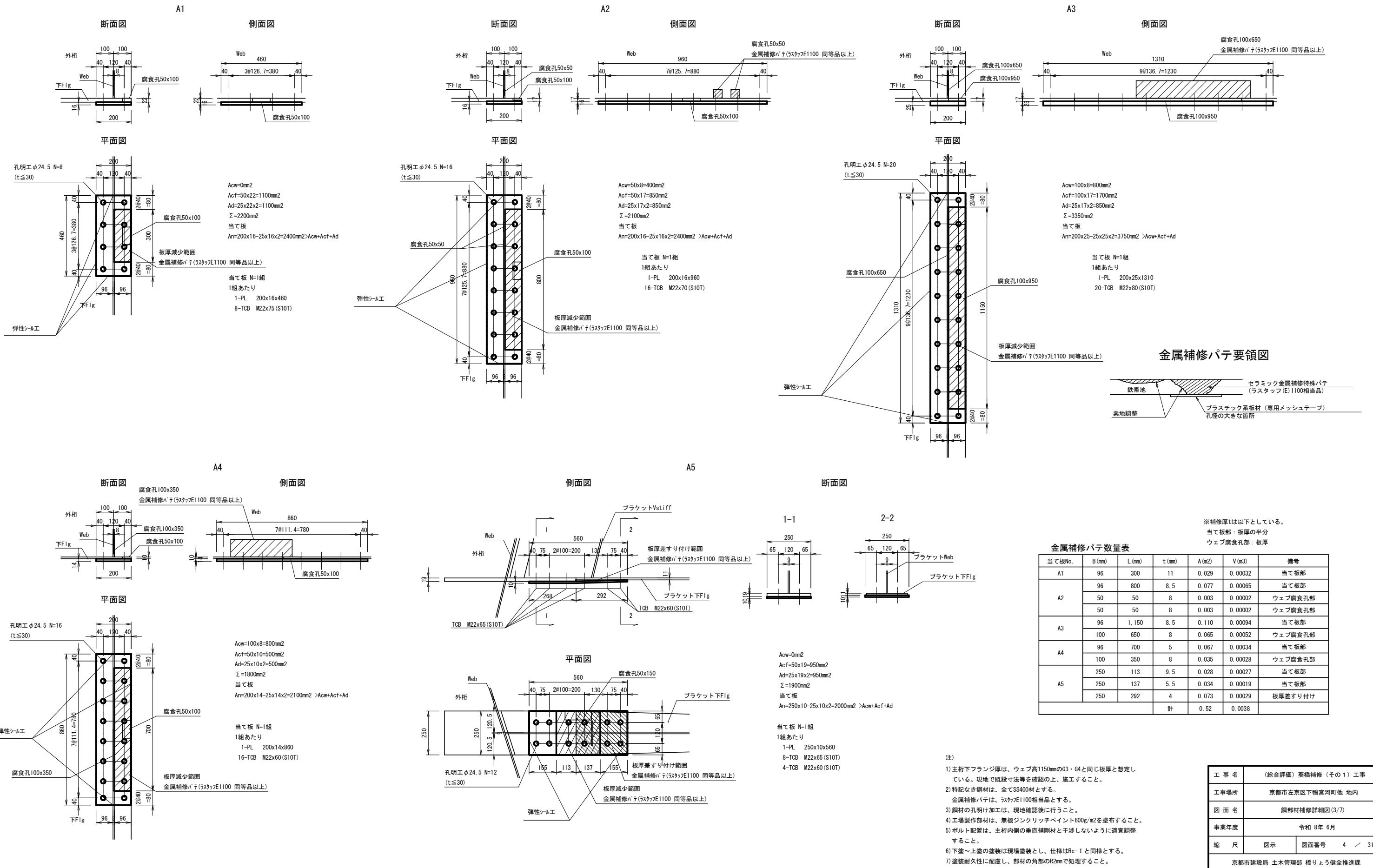
注)
1) 現地で構造寸法等を確認の上、施工すること。
2) 主桁への当て板面所は、主桁内側の垂直補剛材位置を確認の上、
当て板寸法・ボルト配置を決定すること。
3) 各当て板面所の詳細は、鋼部材補修詳細図(3/7)の
主桁・縦桁ブラケット当て板補修(2/2)を参照のこと。

工 事 名	(総合評価) 変換補修(その1) 工事		
工事場所	京都市左京区下鴨宮河町他 地内		
図 面 名	鋼部材補修詳細図(2/7)		
事業年度	令和 8 年 6 月		
縮 尺	図示	図面番号	3 / 31
京都市建設局 土木管理部 橋りょう健全推進課			

鋼部材補修詳細図 (3/7)

S=1:10

主桁・縦桁ブラケット当て板補修 (2/2)



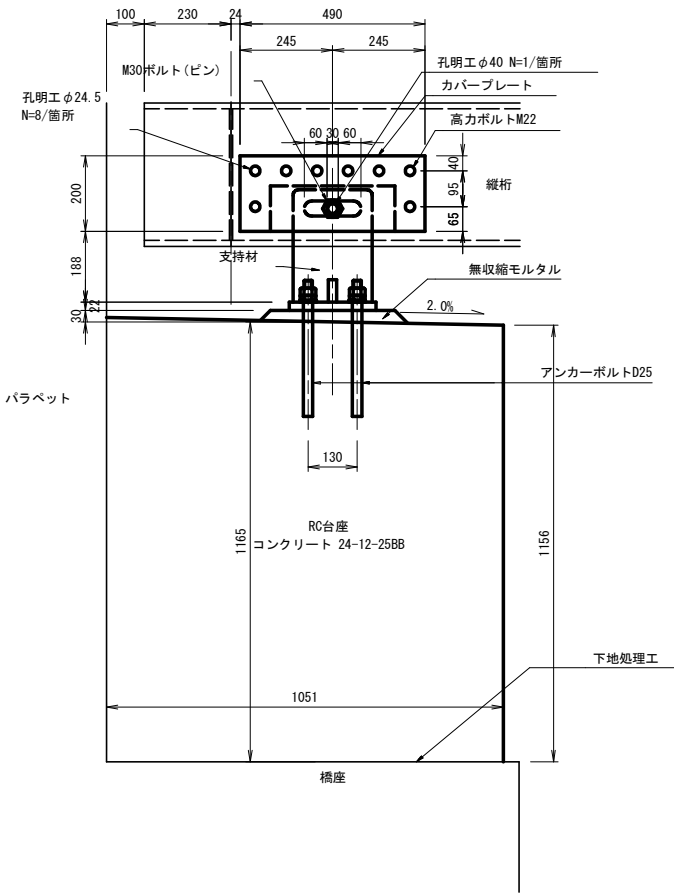
鋼部材補修詳細図 (4/7)

S=1:10

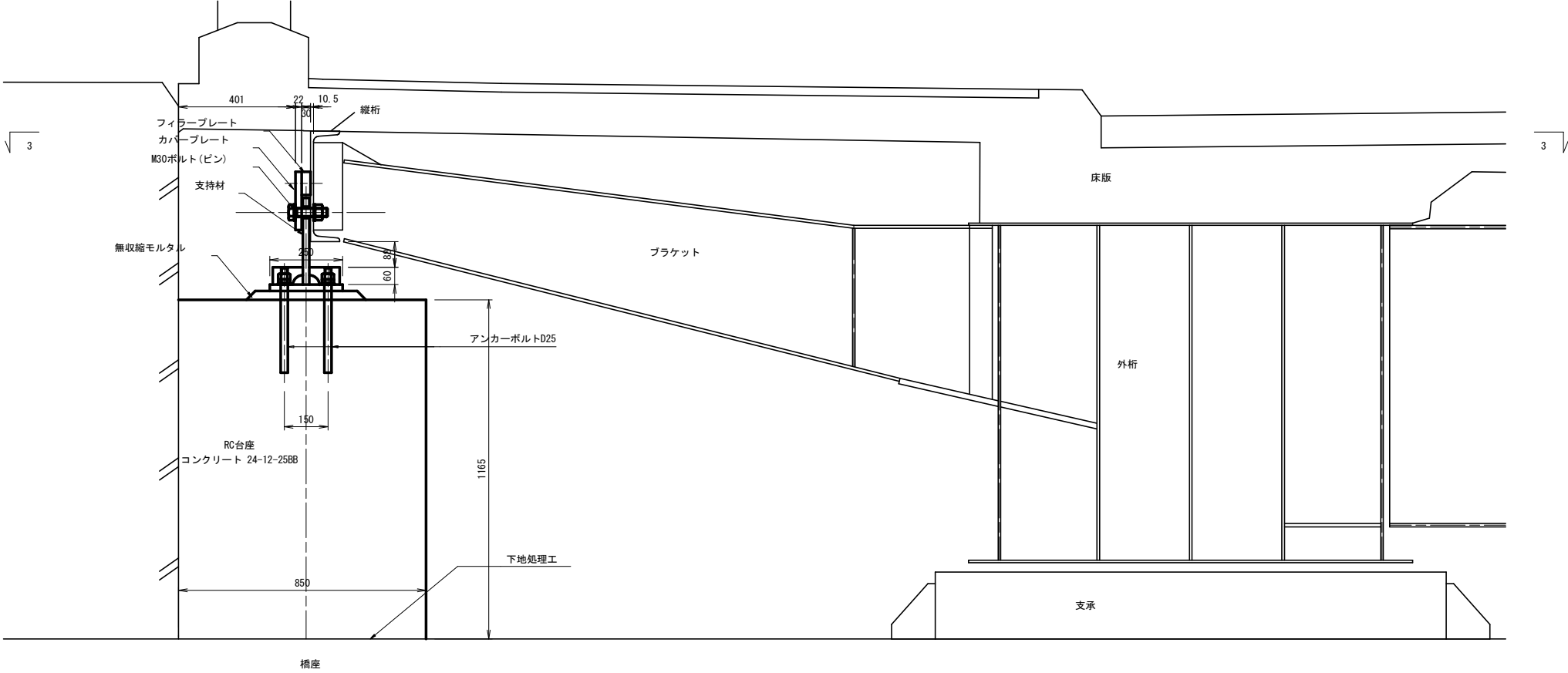
桁端縦桁ブラケット ピン支持+RC台座補修 (1/2)

N=2

側面図 1-1

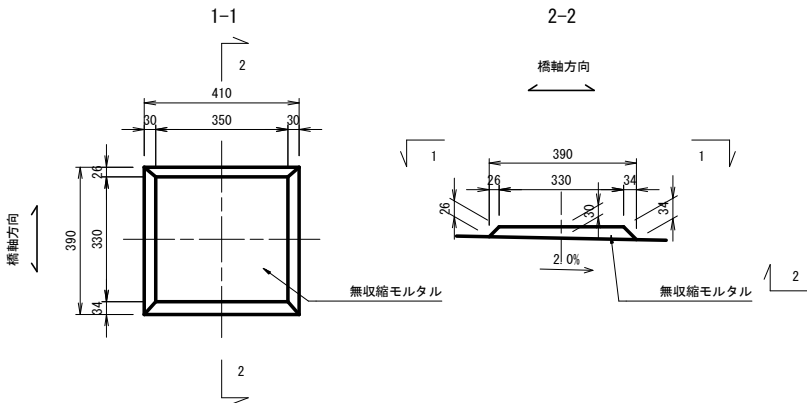


断面図 2-2

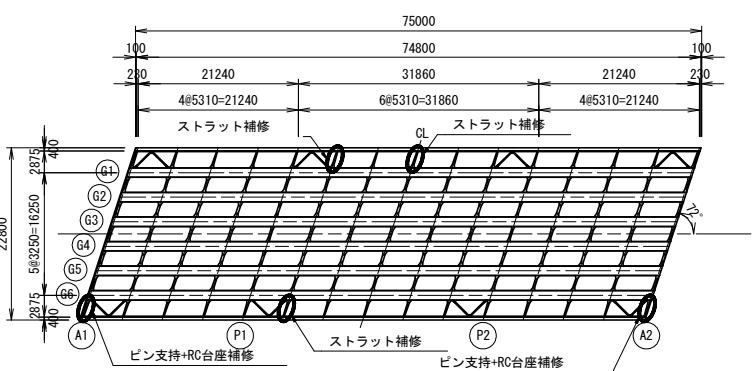


平面図 3-3

モルタル詳細図



配置図



RC台座補修工 数量表

種別	単位	数量	備考
下地処理	m2	1.8	
コンクリート	m3	2	24-12-25B8
型枠	m2	4.4	
コンクリート削孔	孔	12	φ23, L=140mm
アンカー設置	本	12	14' 杉樹脂 (E2900J 同等品以上)
鉄筋	t	0.034	SD345, D13
無収縮モルタル	m3	0.008	

- 注)
- 1) 現地で構造寸法等を確認の上、施工すること。
 - 2) RC台座のアンカーの施工前に鉄筋探索を行い、既設配筋がある場合は、避けてアンカーを施工すること。
 - 3) ピン支持部材およびRC台座の詳細は、鋼部材補修詳細図 (5/7) の桁端縦桁ブラケットピン支持+RC台座補修 (2/2) を参照のこと。

工 事 名	(総合評価) 変橋補修 (その1) 工事		
工事場所	京都市左京区下鴨宮河町地 地内		
図 面 名	鋼部材補修詳細図 (4/7)		
事業年度	令和 8 年 6 月		
縮 尺	図示	図面番号	5 / 31
京都市建設局 土木管理部 橋りょう健全推進課			

鋼部材補修詳細図 (5/7)

S=1:10

桁端縦桁ブラケット ピン支持+RC台座補修 (2/2)

支持材

カバープレート t=22

フィラープレート t=30

アンカーボルト

支持材 N=2基

1基あたり

1-Base PL 230x22x250 (SM400A)

1-Web PL 210x22x298 (SM400A) Net0.91

2-Rib PL 60x22x104 (SM400A) Net0.86

1-Cov PL 200x22x490 (SS400)

1-Fill PL 200x30x490 (SS400) Net0.60

8-TCB M22x100 (S10T)

1-BN M30x110 (1種、2W付き)

4-AncBolt D25x360 (SD345、ねじ切りL=80mm)※

4-Nut M24 (1種)※

4-Nut M24 (3種)※

4-Washer M24※

※印は溶融亜鉛メッキとする。

アンカーボルトはネジ切り部のみ

溶融亜鉛メッキを施す。

RC台座

2-2

3-3

アンカー定着詳細

S=1:5

鉄筋質量表 (1箇所あたり)

記号	径	長さ (mm)	本数	単位重量 (kg/m)	1本当り質量 (kg)	質量 (kg)	摘要
D1	D 13	2,910	2	0.995	2.895	6	□
D2	D 13	1,160	3	0.995	1.154	3	□
D3	D 13	960	2	0.995	0.955	2	□
D4	D 13	740	3	0.995	0.736	2	—
D5	D 13	1,070	2	0.995	1.065	2	—
D6	D 13	540	3	0.995	0.537	2	—
SD345 D 13							17 kg
合計							17 kg

注)

1) 現地で構造寸法等を確認の上、施工すること。

2) RC台座のアンカーの施工前に鉄筋探索を行い、既設配筋がある場合は、避けてアンカーを施工すること。

3) ピン支持材のアンカーボルトは、RC台座施工時に、先埋めすること。

4) 特記なき鋼材は、全てSS400材とする。

5) 特記なきスカーラップは、R35とする。

6) 鋼材の孔明け加工は、現地確認後に行うこと。

7) 工場製作部材は、無機ジンクリッチペイント600 g/m²を塗布すること。

8) 溶融亜鉛メッキ規格は、ボルト・ナットをHDZT49とし、その他をHDZT77とする。

9) 下塗～上塗の塗装は現場塗装とし、仕様はRc-Iと同様とする。

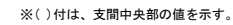
10) 塗装耐久性に配慮し、部材の角部のR2mmで処理すること。

工 事 名	(総合評価) 変換補修 (その1) 工事		
工事場所	京都市左京区下鴨宮河町地 地内		
図 面 名	鋼部材補修詳細図 (5/7)		
事業年度	令和 8年 6月		
縮 尺	図示	図面番号	6 / 31
京都市建設局 土木管理部 橋りょう健全推進課			

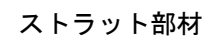
S=1:10

N=3

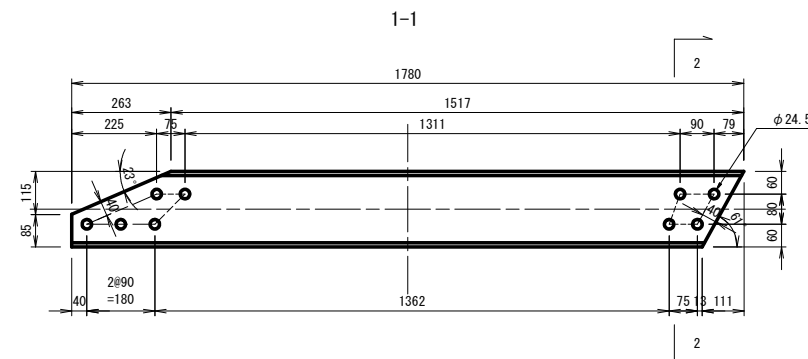
1-1



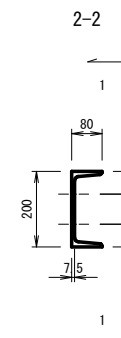
2-2



1-1

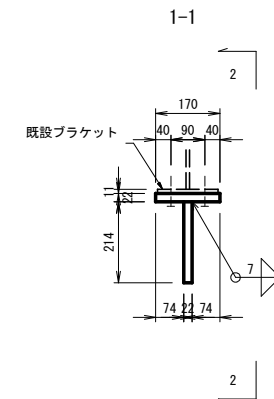


ストラット部材

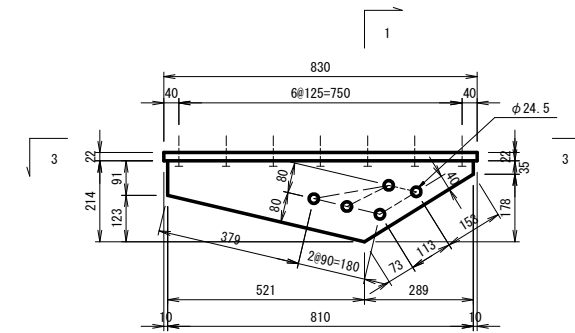


G2 N=3基		
1基あたり		
1-Fig PL	230x22x250 (SM400A)	
1-Fig PL	210x22x288 (SM400A)	Net0. 62
1-Guss PL	244x22x417 (SM400A)	Net0. 79
6-TCB	M22x65 (S10T)	
2-TCB	M22x75 (80) (S10T)	
4-TCB	M22x75 (S10T)	

G1

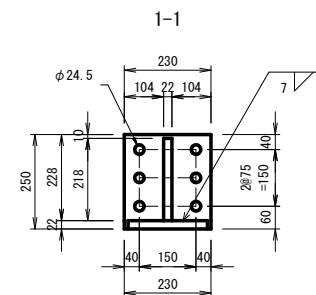


2-2

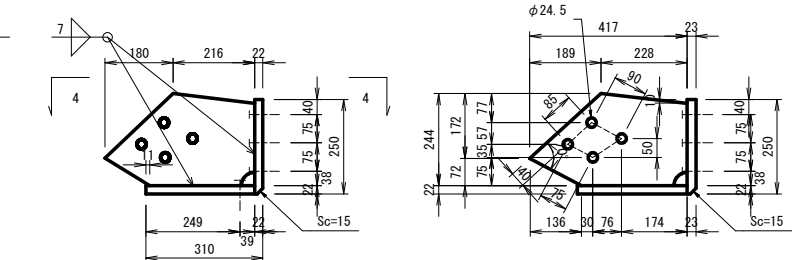


G1 N=3基
1基あたり
1-Fig PL 170x22x830 (SM400A)
1-Guss PL 214x22x810 (SM400A) Net0.67
14-HTB M22x75 (F10T)
5-TCB M22x75 (S10T)

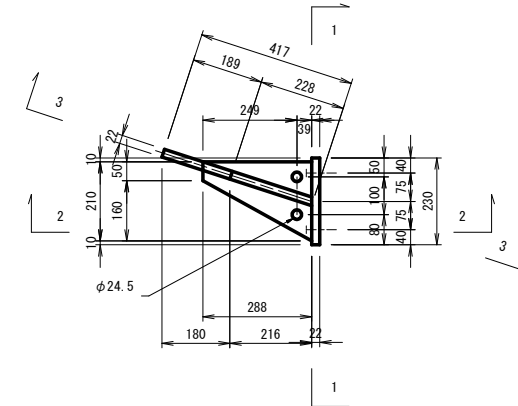
2-2



3-3



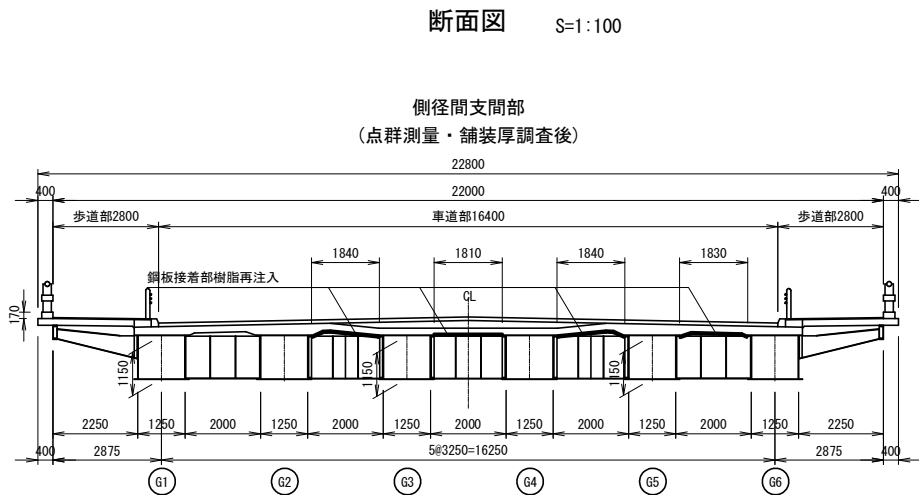
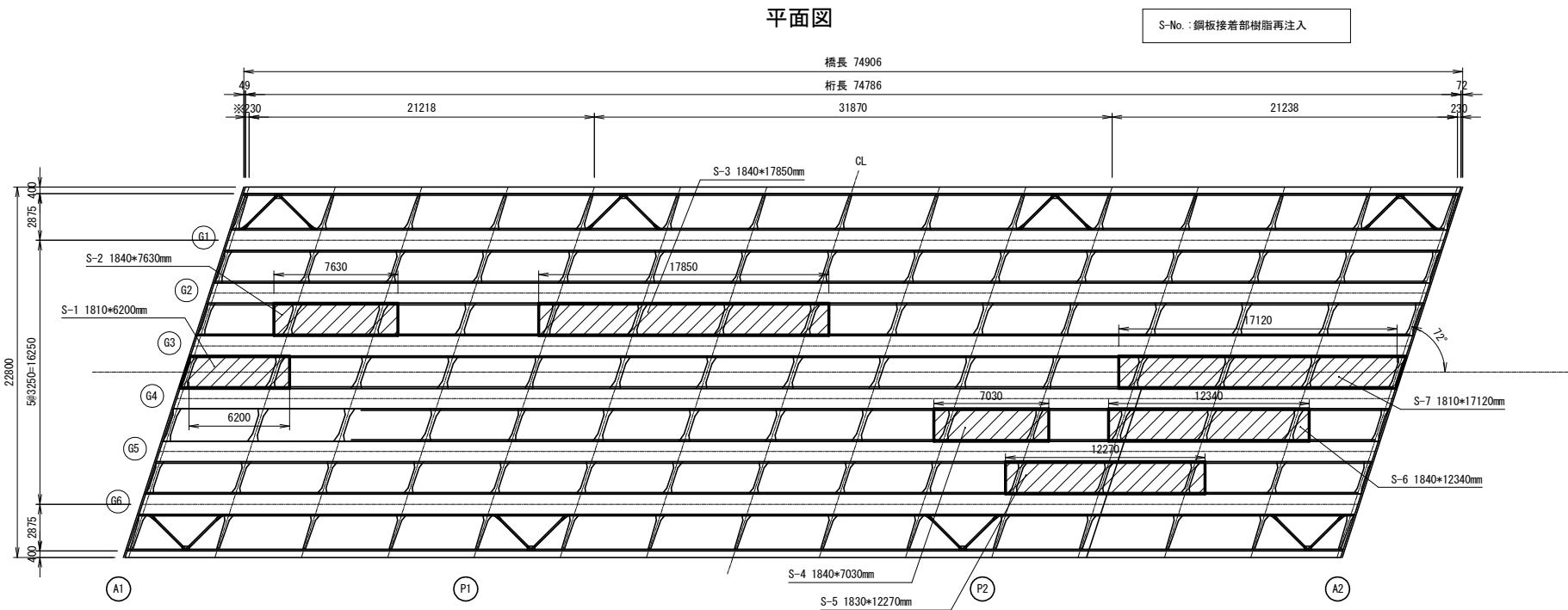
4-4



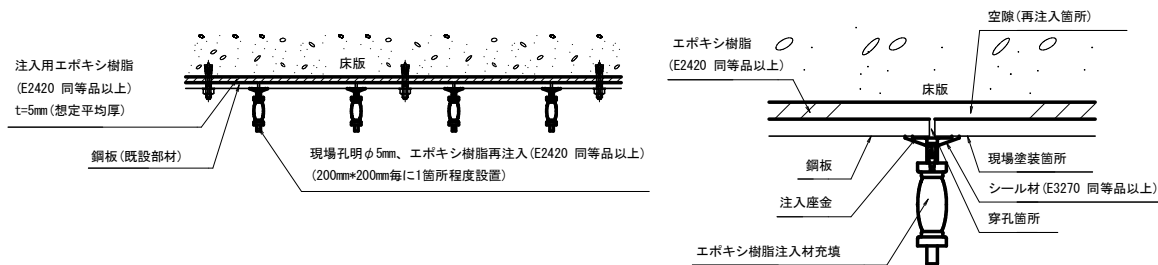
- (注)
- 1) 主桁下フランジ厚は、ウェブ高1150mmのG3・64と
同17・22mmと想定している。現地で既設施工法等
を確認の上、施工すること。
- 2) 特記なき鋼材は、全てSS400材とする。
- 3) 特記なきスカーップは、R35とする。
- 4) 鋼材の孔明け加工は、現場確認後に行うこと。
- 5) 工製製作部材は、無機ジंकリッチペイント600
g/m²を塗すること。
- 6) 下梁～上梁の塗装は現場塗装とし、主桁はR-1と
同様とする。2つのストラット部材(St)の間の
ウェブ面も、接合面以外を現地で塗装してから
設置すること。
- 7) 塗装耐久性に配慮し、部材の角部のR2mmで処理す
ること。
- 8) 寸法の無い形溶接箇所は、完全溶込みとする。

工 事 名	(総合評価) 菱橋補修 (その1) 工事		
工事場所	京都市左京区下鴨宮河町他 地内		
図 面 名	鋼部材補修詳細図 (6/7)		
事業年度	令和 8年 6月		
縮 尺	図示	図面番号	7 / 31
京都市建設局 土木管理部 橋りょう健全推進課			

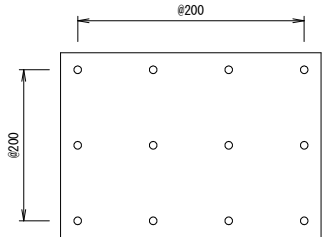
鋼板接着部樹脂再注入図 S=1:200



鋼板接着部樹脂再注入詳細図



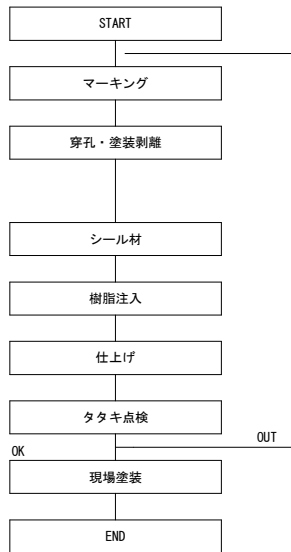
注入器具数参考



樹脂再注入工数量表

No.	算式 (面積)	面積 (m ²)	算式 (注入器具数)	注入器具数	備考
S-1	1.81*6.20	11.22	9*31	279	
S-2	1.84*7.63	14.04	9*38	342	
S-3	1.84*17.85	32.84	9*89	801	
S-4	1.84*7.03	12.94	9*35	315	
S-5	1.83*12.27	22.45	9*61	549	
S-6	1.84*12.34	22.71	9*61	549	
S-7	1.81*17.12	30.99	9*85	765	
面積合計		147.19	m ²		
注入器具数合計		3600	本		

施工要領

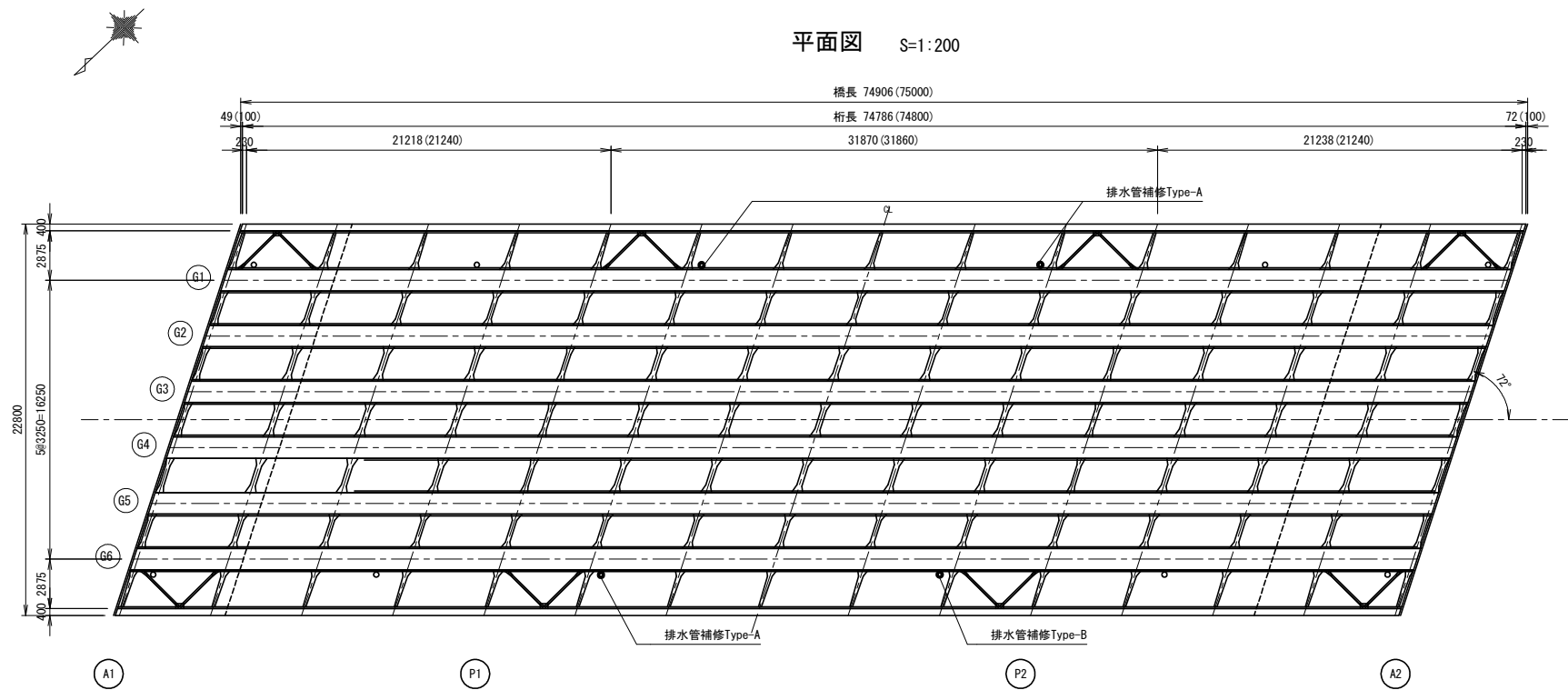


- ※施工前に既設鋼板接着部のアンカーボルトに対し、ボルトテスター試験相当を実施すること
- 点検ハンマーにより浮きの範囲を確認し、穿孔位置を決定
 - 電動ドリル(φ5程度)にて既設鋼板を穿孔
・孔ピッチは、浮き部200*200mm毎に1箇所程度を標準
浮き部1箇所につき最低2箇所穿孔
 - 低圧注入器具取付用座金を設置
・既設のシール部が割れている場合、再度シール
 - 注入材の混合攪拌後、足踏みポンプで低圧注入器具へ充填
・低圧注入器具を座金に取り付けて注入
 - 低圧注入器具の撤去後、既設鋼板面のシール材を撤去
 - 点検ハンマーにて注入状態を確認

- 注)
- 既設構造物および補修範囲の寸法等を確認の上、施工すること。
 - 現場塗装については、塗装塗替え図を参照のこと。

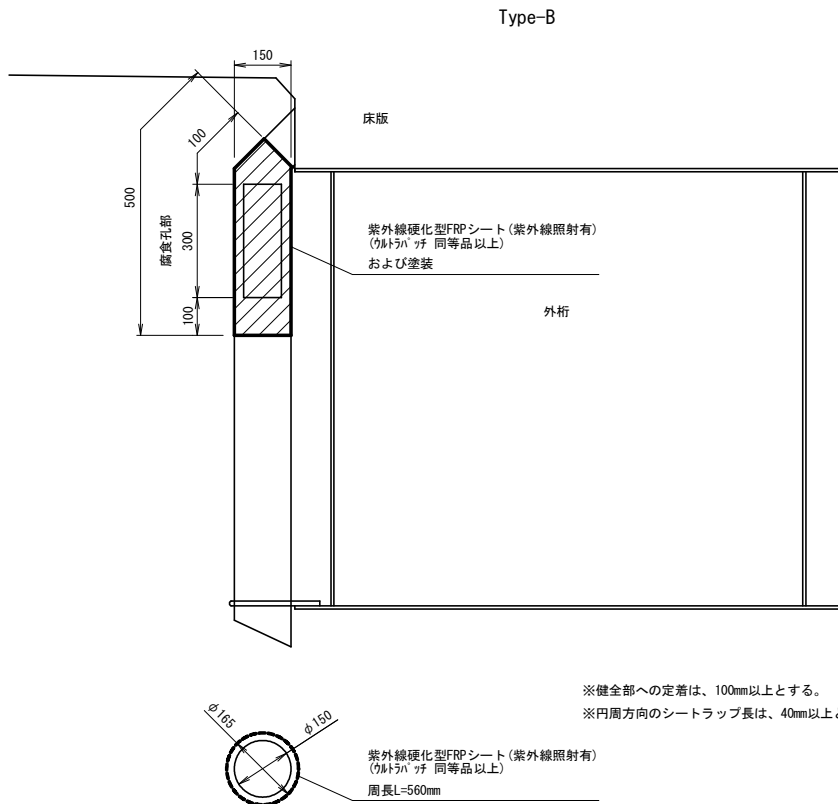
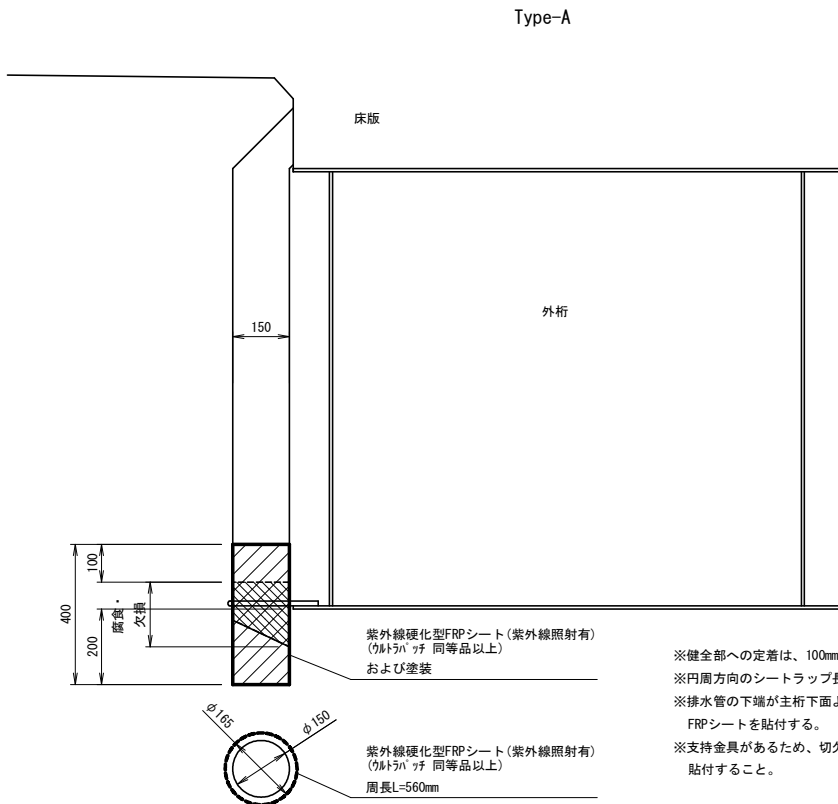
工 事 名	(総合評価) 養橋補修 (その1) 工事		
工事場所	京都市左京区下鴨宮河町他 地内		
図 面 名	鋼板接着部樹脂再注入図		
事業年度	令和 8 年 6 月		
縮 尺	図示	図面番号	9 / 31
京都市建設局 土木管理部 橋りょう健全推進課			

排水管補修図



排水管補修詳細図

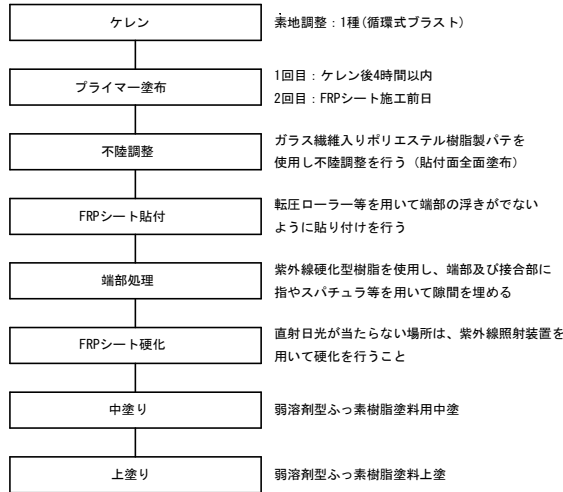
S=1:10



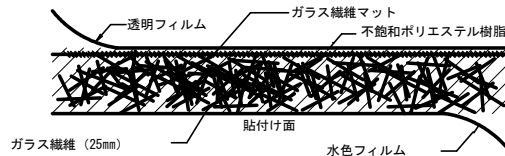
紫外線硬化型FRPシート数量表(紫外線照査有)

Type	1箇所あたり算式	箇所数	面積 (m2)	備考
A	0.40×0.56=0.22	3	0.66	区分C(0.15m2以上/枚)
B	0.50×0.56=0.28	1	0.28	〃
計			0.94	m2

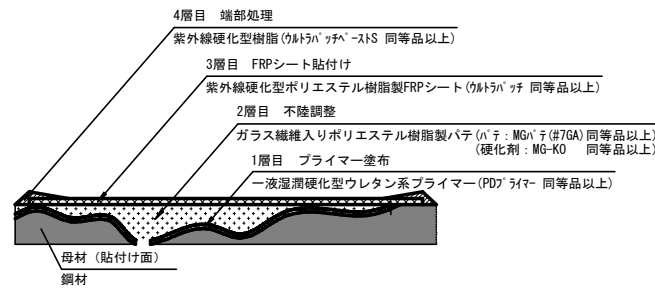
紫外線硬化型ポリエステル製FRPシート
施工フロー図



紫外線硬化型ポリエステル製FRPシート



紫外線硬化型ポリエステル製FRPシート
断面図



注)

- 1) 既設構造物および補修範囲の寸法等を確認の上、施工すること
- 2) ケレンにより、欠損・孔食範囲が広がる可能性があるため、ケレン後に補修範囲を決定すること。
- 3) 既設鋼材のへこみ等は、事前に修正し、平坦にすること。
- 4) 素地調整およびFRPシートの上への塗装は、FRPシート貼付部以外の塗替え作業に合わせて行うこと。

工 事 名	(総合評価) 架橋補修（その1）工事		
工事場所	京都市左京区下鴨宮河町他 地内		
図 面 名	排水管補修図		
事業年度	令和 8 年 6 月		
縮 尺	図示	図面番号	10 / 31
京都市建設局 土木管理部 橋りょう健全推進課			

高欄・ガードパイプ補修図

S=1:30

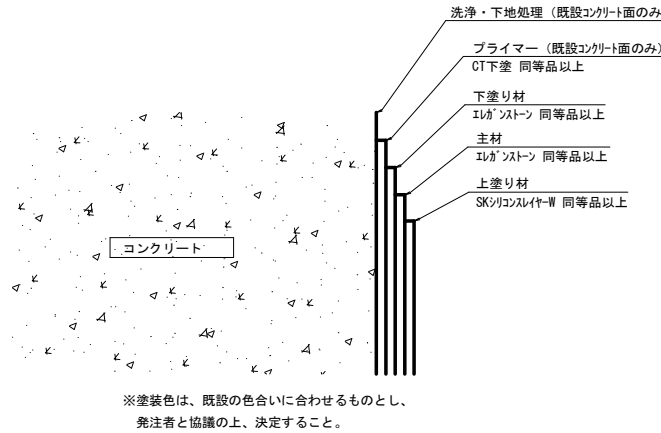
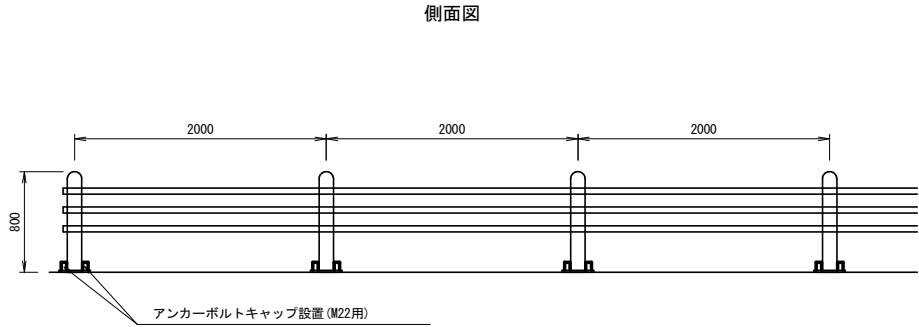
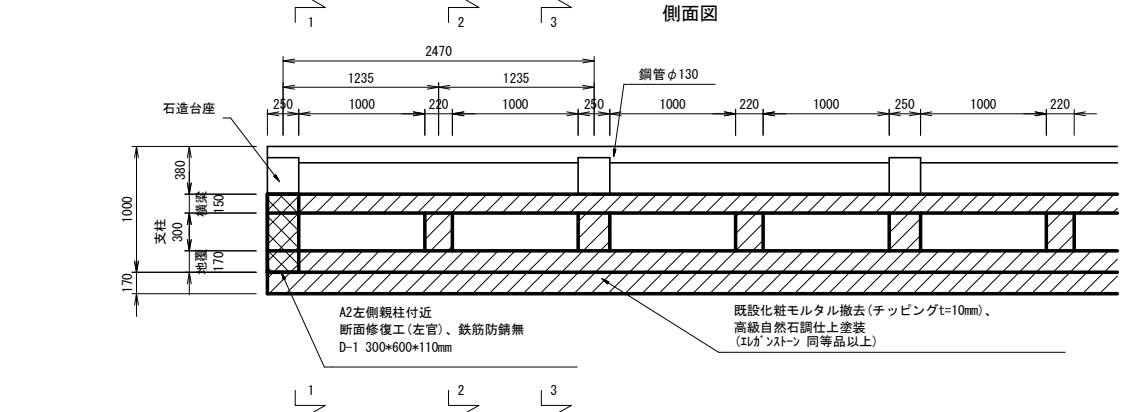
高級自然石調仕上塗装図

高欄

ガードパイプ

側面図

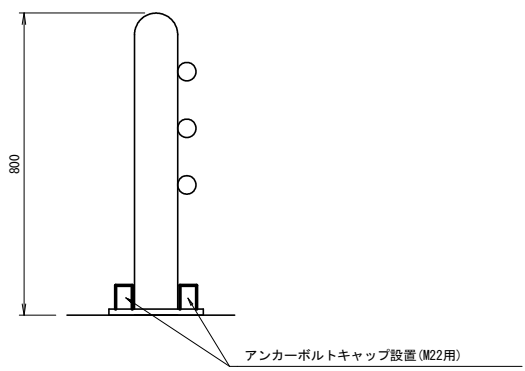
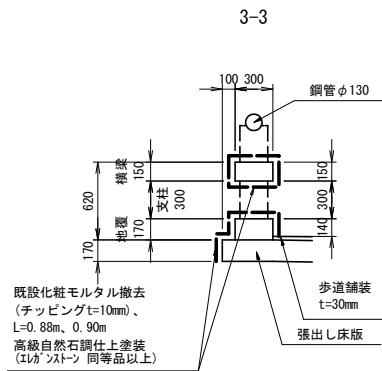
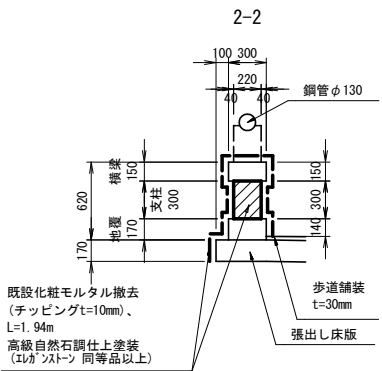
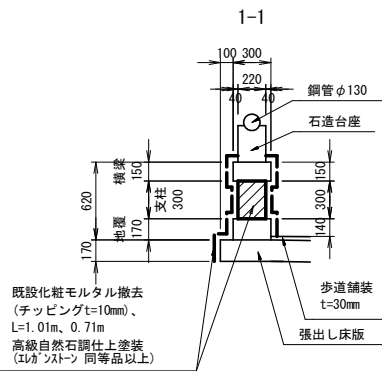
側面図



断面図

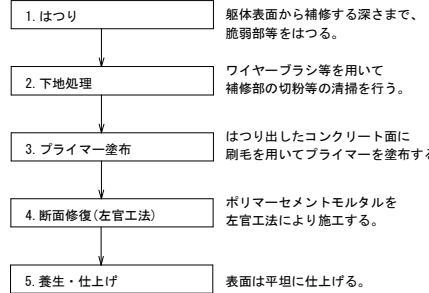
断面図

S=1:10



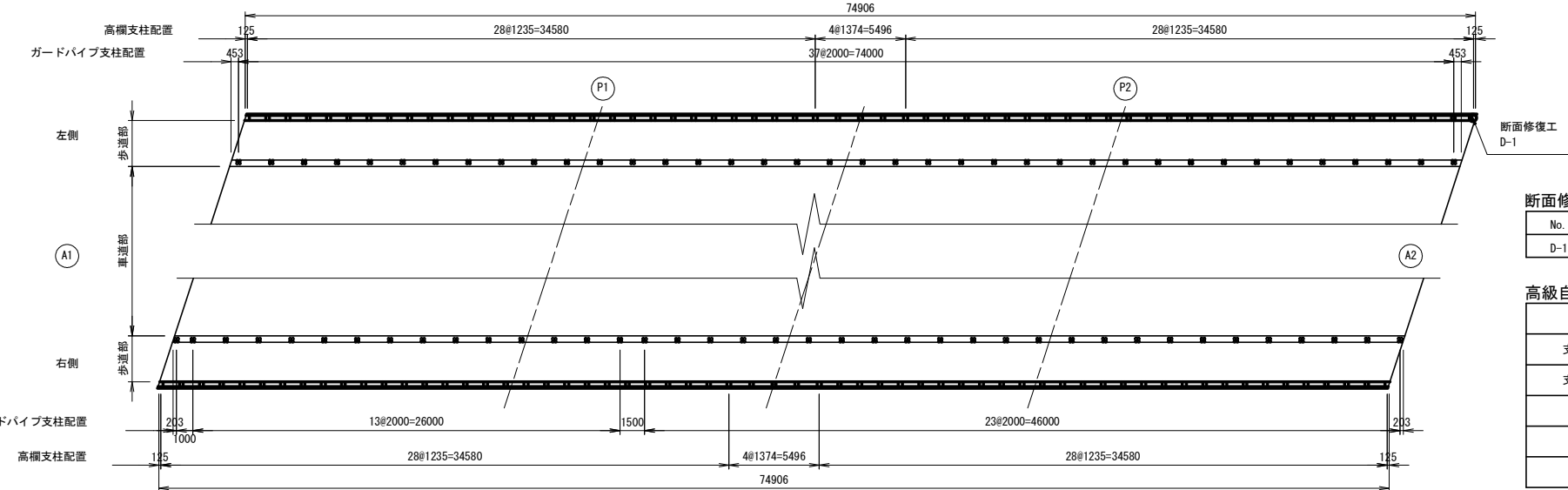
断面修復工 補修要領図

フローチャート



注記
1) 劣化、不良コンクリートのはつりは、健全部に損傷を与えないよう周囲に深さ1cm程度、コンクリートカッターにより切断目地を入念に施工する。
2) 補修部は、うき・ぜい弱部分をはつり取り、鉄筋が見えた場合は、鉄筋防錆処理後、欠損断面を補修する。
3) 断面修復材
ポリマーセメントモルタルとし、「表面保護工法設計施工指針(案) [工法別マニュアル編] 平成17年土木学会」に示す断面修復材の規格を満足するものとする。
4) はつり深さ
はつり深さは現地で確認の上、変更すること。

配置図 S=1:200



断面修復工(左官、ポリマーセメントモルタル、鉄筋防錆無)

No.	部位	幅 (mm)	長さ (mm)	深さ (mm)	箇所数	備考
D-1	支柱	300	600	110	1	A2左側観柱付近

高級自然石調仕上塗装(単色吹き)・チップング (t=10mm)・下地処理数量表

部位	算式 (1箇所当り)	箇所数	面積 (m2)	備考
支柱部台座あり	(1.01+0.71)*0.25+0.30*0.22*2	62	34.8	左右両側
支柱部台座なし	1.94*0.22+0.30*0.22*2	60	33.5	左右両側
支柱間	(0.88+0.90)*1.0	120	213.6	左右両側
合計			281.9	m2

アンカーボルトキャップ数量表

規格	材質	算式	個数	備考
M22用	PVC	(38+39)*4	308	左右両側

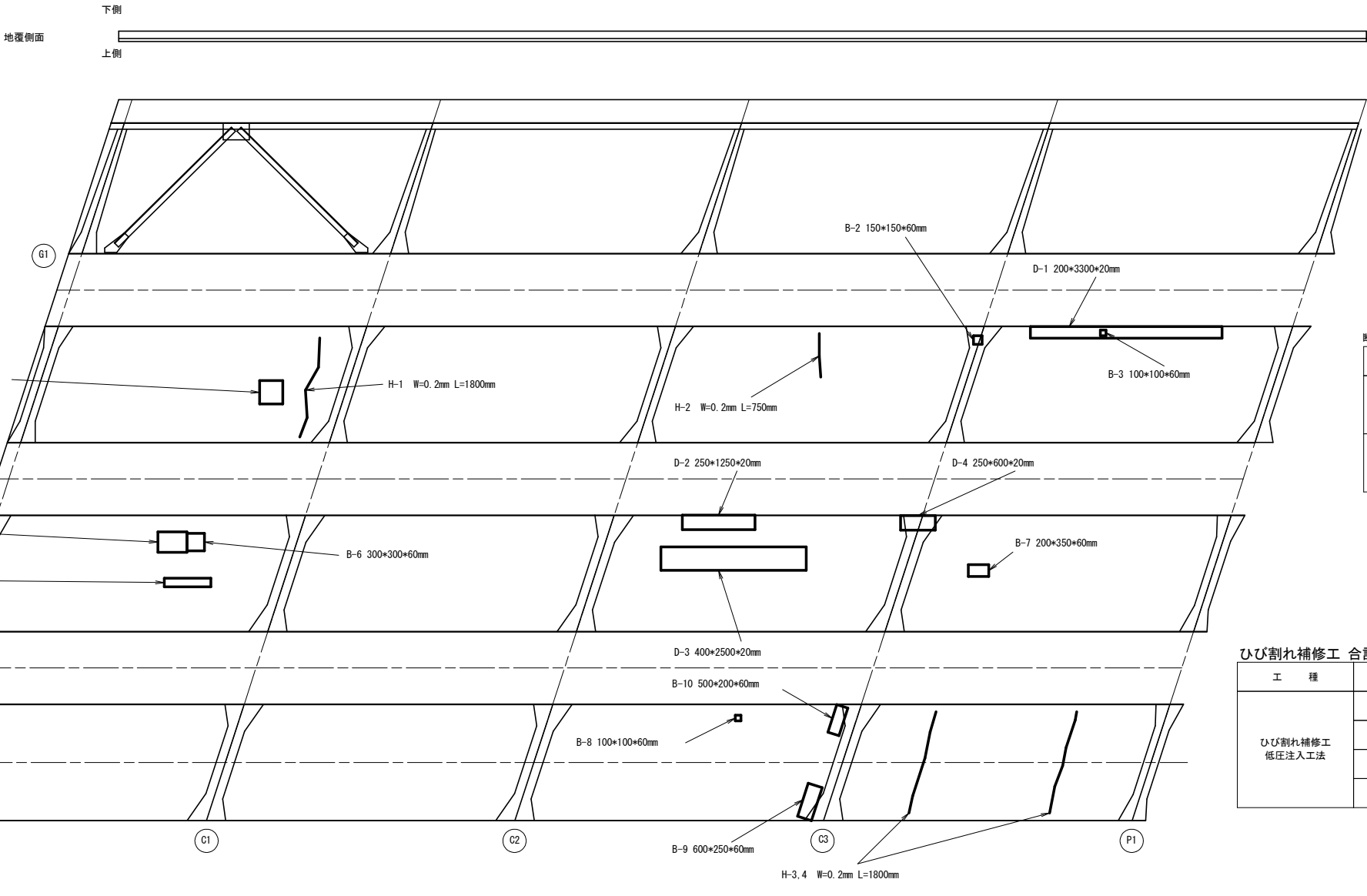
注)
1) 既設構造物および補修範囲の寸法等を確認の上、施工すること。
2) 既設化粧モルタルの撤去が難しい範囲は、発注者と相談の上、存置すること。
3) 張出し床版側面は、高級自然石調仕上塗装を行うため、それを実施後に拭き取り清掃をし、繊維シートを用いない剥落防止工 (1液性ポリウレタン樹脂 塗布量0.5L/m2) とすること。詳細は、表面保護工図を参照のこと。

工事名	(総合評価) 養橋補修 (その1) 工事		
工事場所	京都市左京区下鴨宮河町地 地内		
図面名	高欄・ガードパイプ補修図		
事業年度	令和 8年 6月		
縮尺	図示	図面番号	11 / 31
京都市建設局 土木管理部 橋りょう健全推進課			

コンクリート部材補修図(1/11) S=1:50

第1径間 桁下 左側

B-No. :断面修復(左官)、鉄筋防錆有
D-No. :断面修復(左官)、鉄筋防錆無
H-No. :ひび割れ注入



断面修復工 合計				
工 種	種 別	仕 様	単位	数量
断面修復工 左官工法 (防錆処理有り)	断面修復体積	ポリマーセメントモルタル	m3	1.091
	断面修復体積	〃	m3	0.529

注)
1) 補修範囲の寸法等を確認の上、施工すること。
2) 断面修復材の設計基準強度は24N/mm2以上とする。
3) はつり深さは、実際の鉄筋かぶり・変状深さを考慮して適宜変更すること。

ひび割れ補修工 合計					
工 種	種 別	仕 様	単位	数量	備 考
ひび割れ補修工 低圧注入工法	ひび割れ延長	ひび割れ延長	m	136.3	
	注入材	エポキシ樹脂系	kg	2.2	ロス率(0.15)を含む。
	シール材	エポキシ樹脂パテ	kg	13.9	ロス率を含まない。
	注入器	注入器	個	473	

1) ひび割れ注入は、ひび割れ幅0.2mm以上を対象としている。図面に示されていないひび割れに対してもひび割れ幅を確認し、ひび割れ幅0.2mm以上のものは補修すること。

断面修復工：第1径間(左側)

左官、ポリマーセメントモルタル、鉄筋防錆有

No.	部材名	幅(mm)	長さ(mm)	深さ(mm)	備考
B-1	床版	400	400	60	
B-2	床版	150	150	60	
B-3	床版	100	100	60	
B-4	床版	350	500	60	
B-5	床版	150	800	60	
B-6	床版	300	300	60	
B-7	床版	200	350	60	
B-8	床版	100	100	60	
B-9	床版	600	250	60	
B-10	床版	500	200	60	

断面修復工：第1径間(左側)

左官、ポリマーセメントモルタル、鉄筋防錆無

No.	部材名	幅(mm)	長さ(mm)	深さ(mm)	備考
D-1	床版	200	3,300	20	
D-2	床版	250	1,250	20	
D-3	床版	400	2,500	20	
D-4	床版	250	600	20	

ひび割れ注入工：第1径間(左側)

低圧注入、エポキシ樹脂

No.	部材名	ひび割れ幅(mm)	ひび割れ長さ(mm)	備考
H-1	床版	0.2	1,800	
H-2	床版	0.2	750	
H-3	床版	0.2	1,800	
H-4	床版	0.2	1,800	

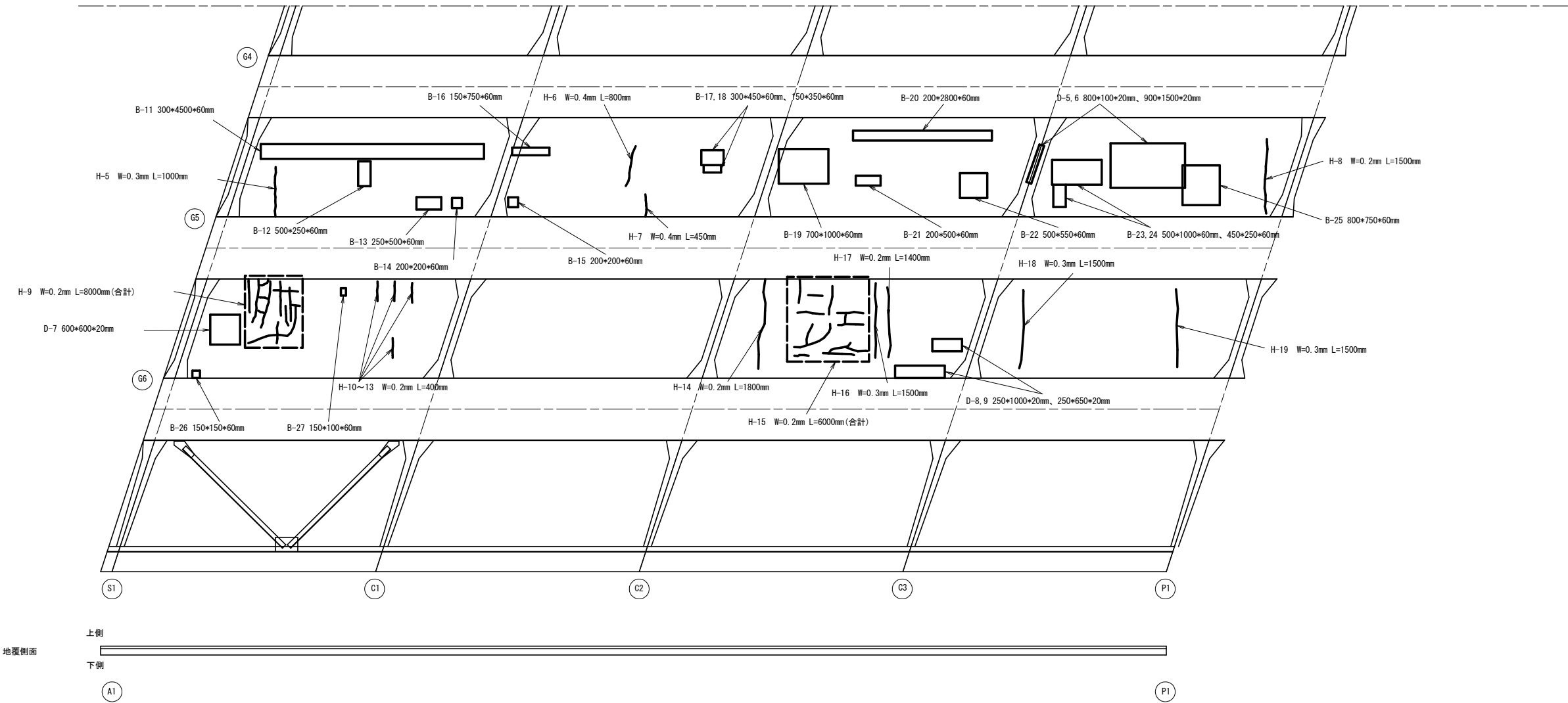
工 事 名	(総合評価) 架橋補修(その1) 工事		
工事場所	京都市左京区下鴨宮河町他 地内		
図 面 名	コンクリート部材補修図(1/11)		
事業年度	令和 8年 6月		
縮 尺	図示	図面番号	12 / 31
京都市建設局 土木管理部 橋りょう健全推進課			

コンクリート部材補修図(2/11)

S=1:50

第1径間 桁下 右側

B-No.:断面修復(左官)、鉄筋防錆有
D-No.:断面修復(左官)、鉄筋防錆無
H-No.:ひび割れ注入



断面修復工：第1径間(右側)
左官、ポリマーセメントモルタル、鉄筋防錆有

No.	部材名	幅(mm)	長さ(mm)	深さ(mm)	備考
B-11	床版	300	4,500	60	
B-12	床版	500	250	60	
B-13	床版	250	500	60	
B-14	床版	200	200	60	
B-15	床版	200	200	60	
B-16	床版	150	750	60	
B-17	床版	300	450	60	
B-18	床版	150	350	60	
B-19	床版	700	1,000	60	
B-20	床版	200	2,800	60	
B-21	床版	200	500	60	
B-22	床版	500	550	60	
B-23	床版	500	1,000	60	
B-24	床版	450	250	60	
B-25	床版	800	750	60	
B-26	床版	150	150	60	
B-27	床版	150	100	60	

断面修復工：第1径間(右側)
左官、ポリマーセメントモルタル、鉄筋防錆無

No.	部材名	幅(mm)	長さ(mm)	深さ(mm)	備考
D-5	床版	800	100	20	
D-6	床版	900	1,500	20	
D-7	床版	600	600	20	
D-8	床版	250	1,000	20	
D-9	床版	250	650	20	

ひび割れ注入工：第1径間(右側)
低圧注入、エポキシ樹脂

No.	部材名	ひび割れ幅(mm)	ひび割れ長さ(mm)	備考
H-5	床版	0.3	1,000	
H-6	床版	0.4	800	
H-7	床版	0.4	450	
H-8	床版	0.2	1,500	
H-9	床版	0.2	8,000	
H-10	床版	0.2	400	
H-11	床版	0.2	400	
H-12	床版	0.2	400	
H-13	床版	0.2	400	
H-14	床版	0.2	1,800	
H-15	床版	0.2	6,000	
H-16	床版	0.3	1,500	
H-17	床版	0.2	1,400	
H-18	床版	0.3	1,500	
H-19	床版	0.3	1,500	

注)
1) 補修範囲の寸法等を確認の上、施工すること。
2) 断面修復材の設計基準強度は24N/mm²以上とする。
3) はつり深さは、実際の鉄筋かぶり・変状深さを考慮して適宜変更すること。
4) ひび割れ注入は、ひび割れ幅0.2mm以上を対象としている。図面に示されていないひび割れに対してもひび割れ幅を確認し、ひび割れ幅0.2mm以上のものは補修すること。

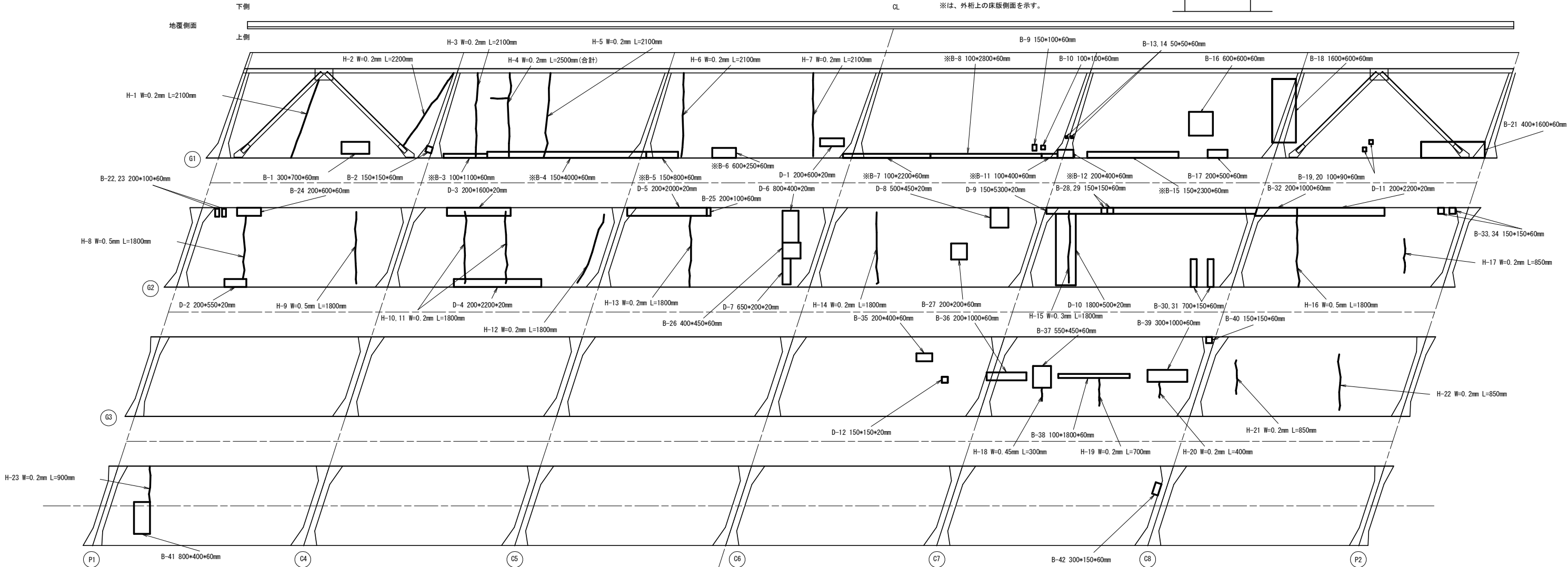
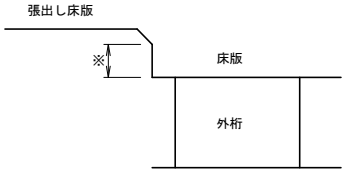
工 事 名	(総合評価) 養橋補修(その1) 工事		
工事場所	京都市左京区下鴨宮河町他 地内		
図 面 名	コンクリート部材補修図(2/11)		
事業年度	令和 8年 6月		
縮 尺	図示	図面番号	13 / 31
京都市建設局 土木管理部 橋りょう健全推進課			

コンクリート部材補修図 (3/11)

S:1:50

第2径間 桁下 左側

B-No.:断面修復(左官)、鉄筋防錆有
D-No.:断面修復(左官)、鉄筋防錆無
H-No.:ひび割れ注入



断面修復工：第2径間(左側)
左官、ポリマーセメントモルタル、鉄筋防錆有

No.	部材名	幅(mm)	長さ(mm)	深さ(mm)	備考
B-1	床版	300	700	60	
B-2	床版	150	150	60	
B-3	床版	100	1,100	60	側面
B-4	床版	150	4,000	60	側面
B-5	床版	150	800	60	側面
B-6	床版	600	250	60	側面
B-7	床版	100	2,200	60	側面
B-8	床版	100	2,800	60	側面
B-9	床版	150	100	60	
B-10	床版	100	100	60	
B-11	床版	100	400	60	側面
B-12	床版	200	400	60	側面
B-13	床版	50	50	60	
B-14	床版	50	50	60	
B-15	床版	150	2,300	60	側面
B-16	床版	600	600	60	
B-17	床版	200	500	60	
B-18	床版	1,600	600	60	
B-19	床版	100	90	60	
B-20	床版	100	90	60	
B-21	床版	400	1,600	60	

No.	部材名	幅(mm)	長さ(mm)	深さ(mm)	備考
B-22	床版	200	100	60	
B-23	床版	200	100	60	
B-24	床版	200	600	60	
B-25	床版	200	100	60	
B-26	床版	400	450	60	
B-27	床版	200	200	60	
B-28	床版	150	150	60	
B-29	床版	150	150	60	
B-30	床版	700	150	60	
B-31	床版	700	150	60	
B-32	床版	200	1,000	60	
B-33	床版	150	150	60	
B-34	床版	150	150	60	
B-35	床版	200	400	60	
B-36	床版	200	1,000	60	
B-37	床版	550	450	60	
B-38	床版	100	1,800	60	
B-39	床版	300	1,000	60	
B-40	床版	150	150	60	
B-41	床版	800	400	60	
B-42	床版	300	150	60	

断面修復工：第2径間(左側)
左官、ポリマーセメントモルタル、鉄筋防錆無

No.	部材名	幅(mm)	長さ(mm)	深さ(mm)	備考
D-1	床版	200	600	20	
D-2	床版	200	550	20	
D-3	床版	200	1,600	20	
D-4	床版	200	2,200	20	
D-5	床版	200	2,000	20	
D-6	床版	800	400	20	
D-7	床版	650	200	20	
D-8	床版	500	450	20	
D-9	床版	150	5,300	20	
D-10	床版	1,800	500	20	
D-11	床版	200	2,200	20	
D-12	床版	150	150	20	

ひび割れ注入工：第2径間(左側)
低圧注入、エポキシ樹脂

No.	部材名	ひび割れ幅(mm)	ひび割れ長さ(mm)	備考
H-1	床版	0.2	2,100	
H-2	床版	0.2	2,200	
H-3	床版	0.2	2,100	
H-4	床版	0.2	2,500	
H-5	床版	0.2	2,100	
H-6	床版	0.2	2,100	
H-7	床版	0.2	2,100	
H-8	床版	0.5	1,800	
H-9	床版	0.5	1,800	
H-10	床版	0.2	1,800	
H-11	床版	0.2	1,800	
H-12	床版	0.2	1,800	
H-13	床版	0.2	1,800	
H-14	床版	0.2	1,800	
H-15	床版	0.3	1,800	
H-16	床版	0.5	1,800	
H-17	床版	0.2	850	
H-18	床版	0.45	300	
H-19	床版	0.2	700	
H-20	床版	0.2	400	
H-21	床版	0.2	850	
H-22	床版	0.2	850	
H-23	床版	0.2	900	

注)
1) 補修範囲の寸法等を確認の上、施工すること。
2) 断面修復材の設計基準強度は24N/mm2以上とする。
3) はつり深さは、実際の鉄筋かぶり・変状深さを考慮して適宜変更すること。
4) ひび割れ注入は、ひび割れ幅0.2mm以上を対象としている。図面に示されていないひび割れに対してもひび割れ幅を確認し、ひび割れ幅0.2mm以上のものは補修すること。

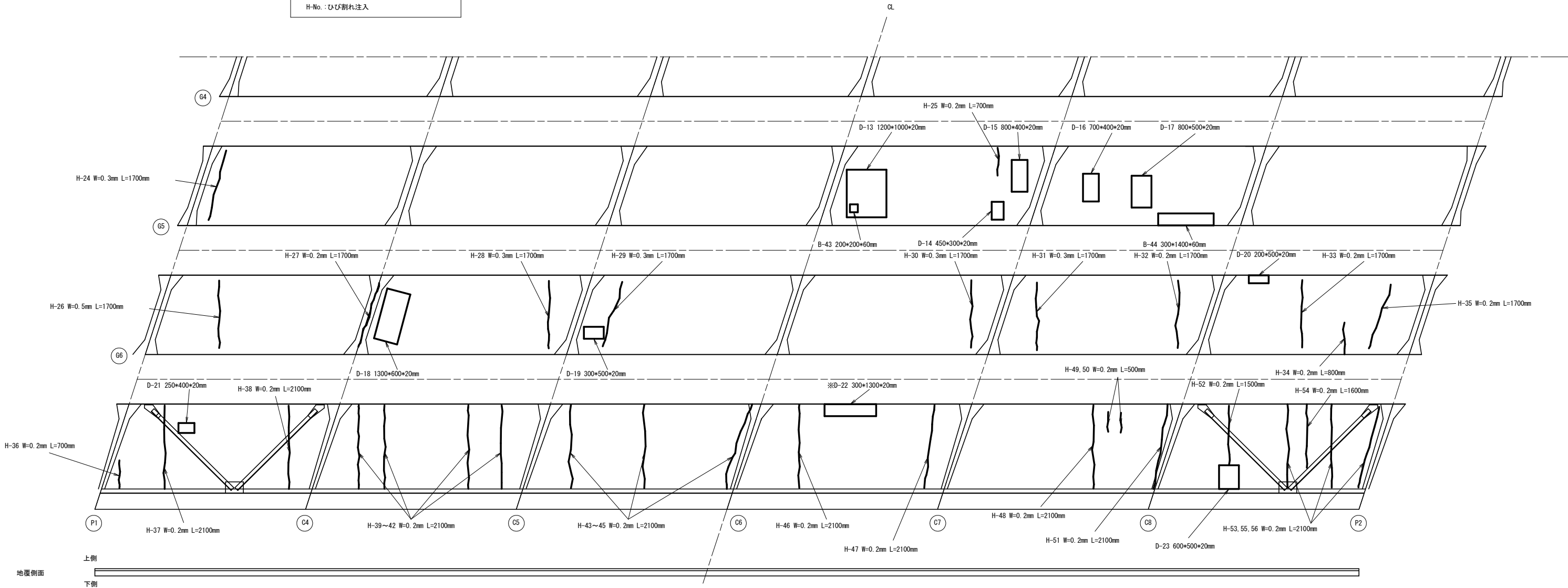
工 事 名	(総合評価) 養橋補修(その1) 工事		
工事場所	京都市左京区下鴨宮河町他 地内		
図 面 名	コンクリート部材補修図(3/11)		
事業年度	令和 8年 6月		
縮 尺	図示	図面番号	14 / 31
京都市建設局 土木管理部 橋りょう健全推進課			

コンクリート部材補修図(4/11)

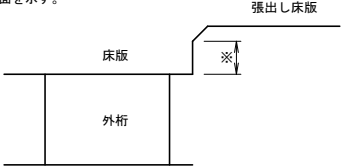
S=1:50

第2径間 桁下 右側

B-No.:断面修復(左官)、鉄筋防錆有
D-No.:断面修復(左官)、鉄筋防錆無
H-No.:ひび割れ注入



※は、外桁上の床版側面を示す。



断面修復工：第1径間(右側)
左官、ポリマーセメントモルタル、鉄筋防錆有

No.	部材名	幅(mm)	長さ(mm)	深さ(mm)	備考
B-43	床版	200	200	60	
B-44	床版	300	1,400	60	

断面修復工：第2径間(右側)
左官、ポリマーセメントモルタル、鉄筋防錆無

No.	部材名	幅(mm)	長さ(mm)	深さ(mm)	備考
D-13	床版	1,200	1,000	20	
D-14	床版	450	300	20	
D-15	床版	800	400	20	
D-16	床版	700	400	20	
D-17	床版	800	500	20	
D-18	床版	1,300	600	20	
D-19	床版	300	500	20	
D-20	床版	200	500	20	
D-21	床版	250	400	20	
D-22	床版	300	1,300	20	側面
D-23	床版	600	500	20	

ひび割れ注入工：第2径間(右側)
低圧注入、エポキシ樹脂

No.	部材名	ひび割れ幅(mm)	ひび割れ長さ(mm)	備考
H-24	床版	0.3	1,700	
H-25	床版	0.2	700	
H-26	床版	0.5	1,700	
H-27	床版	0.2	1,700	
H-28	床版	0.3	1,700	
H-29	床版	0.3	1,700	
H-30	床版	0.3	1,700	
H-31	床版	0.3	1,700	
H-32	床版	0.2	1,700	
H-33	床版	0.2	1,700	
H-34	床版	0.2	800	
H-35	床版	0.2	1,700	
H-36	床版	0.2	1,700	
H-37	床版	0.2	2,100	
H-38	床版	0.2	2,100	
H-39	床版	0.2	2,100	
H-40	床版	0.2	2,100	

No.	部材名	ひび割れ幅(mm)	ひび割れ長さ(mm)	備考
H-41	床版	0.2	2,100	
H-42	床版	0.2	2,100	
H-43	床版	0.2	2,100	
H-44	床版	0.2	2,100	
H-45	床版	0.2	2,100	
H-46	床版	0.2	2,100	
H-47	床版	0.2	2,100	
H-48	床版	0.2	2,100	
H-49	床版	0.2	500	
H-50	床版	0.2	500	
H-51	床版	0.2	2,100	
H-52	床版	0.2	1,500	
H-53	床版	0.2	2,100	
H-54	床版	0.2	1,600	
H-55	床版	0.2	2,100	
H-56	床版	0.2	2,100	

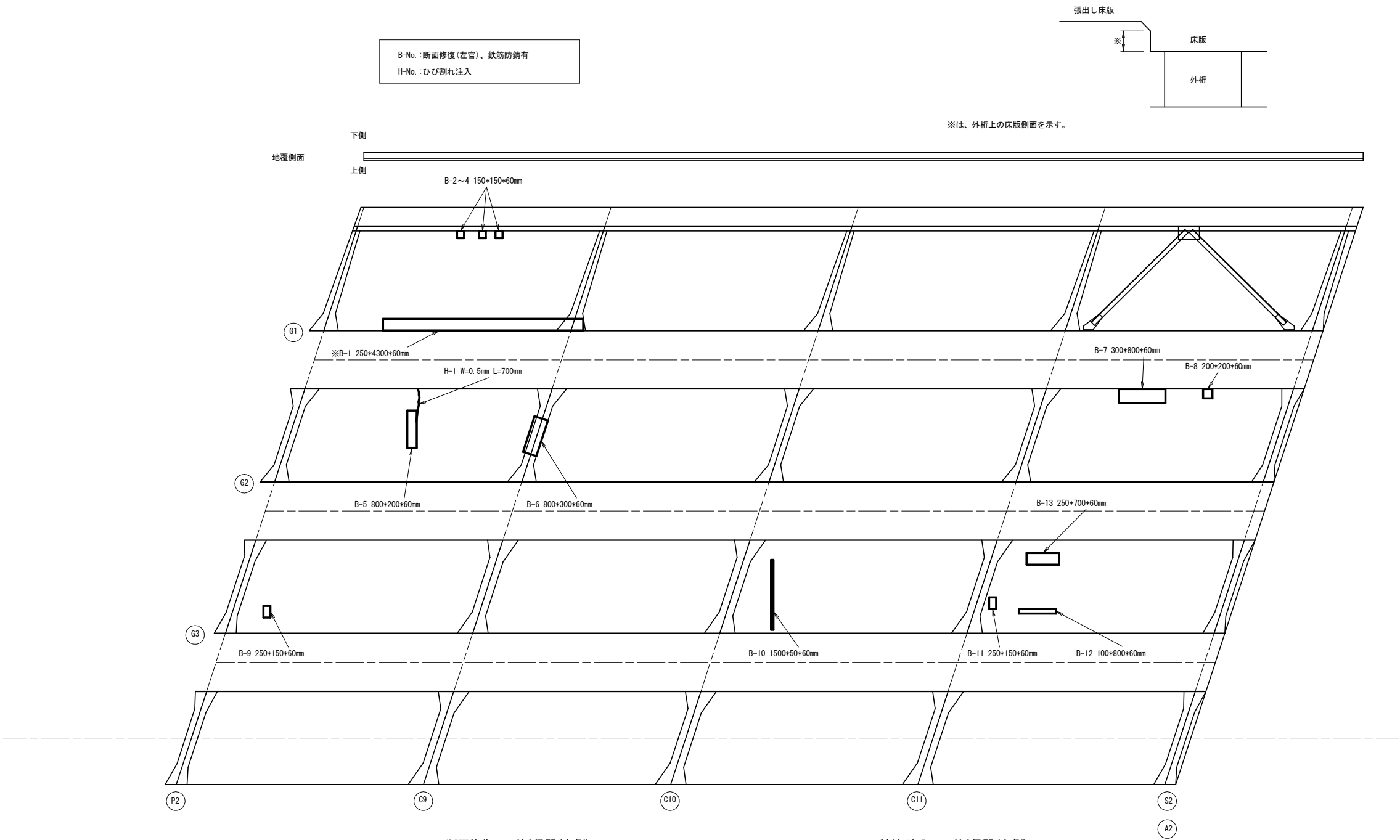
注)
1) 補修範囲の寸法等を確認の上、施工すること。
2) 断面修復材の設計基準強度は24N/mm2以上とする。
3) はつり深さは、実際の鉄筋かぶり・変状深さを考慮して適宜変更すること。
4) ひび割れ注入は、ひび割れ幅0.2mm以上を対象としている。図面に示されていないひび割れに対してもひび割れ幅を確認し、ひび割れ幅0.2mm以上のものは補修すること。

工 事 名	(総合評価) 養橋補修(その1) 工事		
工事場所	京都市左京区下鴨宮河町地 地内		
図 面 名	コンクリート部材補修図(4/11)		
事業年度	令和 8年 6月		
縮 尺	図示	図面番号	15 / 31
京都市建設局 土木管理部 橋りょう健全推進課			

コンクリート部材補修図 (5/11)

S=1:50

第3径間 桁下 左側



断面修復工：第3径間(左側)
左官、ポリマーセメントモルタル、鉄筋防錆有

No.	部材名	幅 (mm)	長さ (mm)	深さ (mm)	備考
B-1	床版	250	4,300	60	側面
B-2	床版	150	150	60	
B-3	床版	150	150	60	
B-4	床版	150	150	60	
B-5	床版	800	200	60	
B-6	床版	800	300	60	
B-7	床版	300	800	60	
B-8	床版	200	200	60	
B-9	床版	250	150	60	
B-10	床版	1,500	50	60	
B-11	床版	250	150	60	
B-12	床版	100	800	60	
B-13	床版	250	700	60	

ひび割れ注入工：第3径間(左側)
低圧注入、エポキシ樹脂

No.	部材名	ひび割れ幅 (mm)	ひび割れ長さ (mm)	備考
H-1	床版	0.5	700	

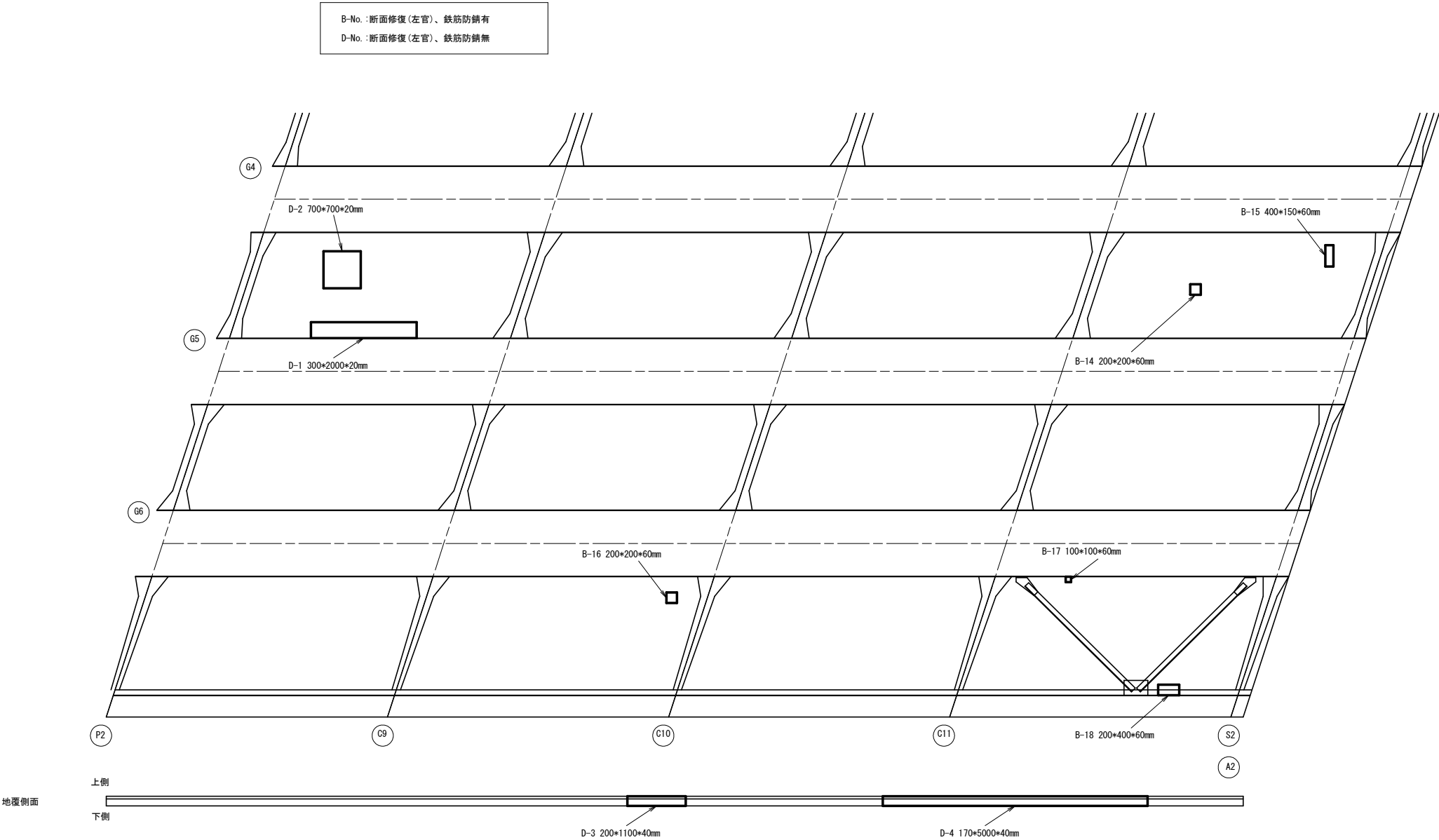
- 注)
- 補修範囲の寸法等を確認の上、施工すること。
 - 断面修復材の設計基準強度は24N/mm²以上とする。
 - はつり深さは、実際の鉄筋かぶり・変状深さを考慮して適宜変更すること。
 - ひび割れ注入は、ひび割れ幅0.2mm以上を対象としている。図面に示されていないひび割れに対してもひび割れ幅を確認し、ひび割れ幅0.2mm以上のものは補修すること。

工 事 名	(総合評価) 養橋補修 (その1) 工事		
工事場所	京都市左京区下鴨宮河町他 地内		
図 面 名	コンクリート部材補修図 (5/11)		
事業年度	令和 8年 6月		
縮 尺	図示	図面番号	16 / 31
京都市建設局 土木管理部 橋りょう健全推進課			

コンクリート部材補修図(6/11)

S=1:50

第3径間 桁下 右側



注)
1) 補修範囲の寸法等を確認の上、施工すること。
2) 断面修復材の設計基準強度は24N/mm2以上とする。
3) はつり深さは、実際の鉄筋かぶり・変状深さを考慮して適宜変更すること。
4) ひび割れ注入は、ひび割れ幅0.2mm以上を対象としている。図面に示されていないひび割れに対してもひび割れ幅を確認し、ひび割れ幅0.2mm以上のものは補修すること。

工 事 名	(総合評価) 架橋補修(その1) 工事		
工事場所	京都市左京区下鴨宮河町他 地内		
図 面 名	コンクリート部材補修図(6/11)		
事業年度	令和 8年 6月		
縮 尺	図示	図面番号	17 / 31
京都市建設局 土木管理部 橋りょう健全推進課			

コンクリート部材補修図(7/11)

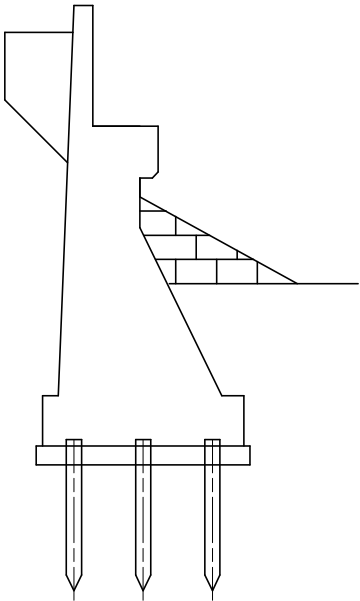
S=1:60

A1橋台

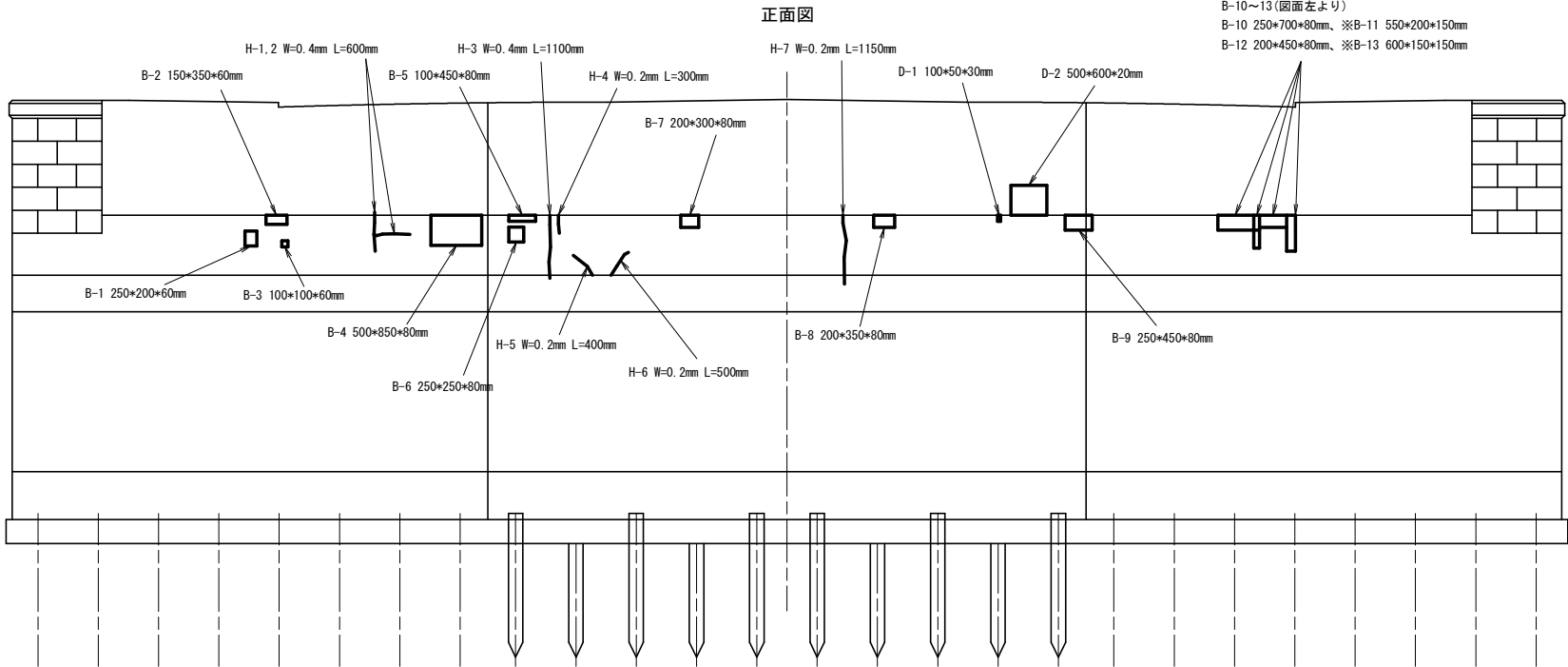
B-No.:断面修復(左官)、鉄筋防錆有
D-No.:断面修復(左官)、鉄筋防錆無
H-No.:ひび割れ注入

※変状深さが鉄筋位置より深いため、
はつり深さは変状深さと同じとしている。

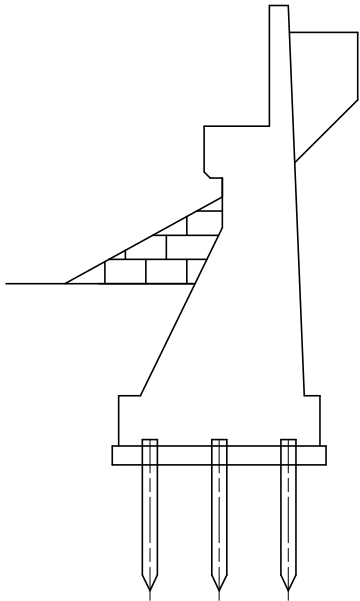
右側側面図



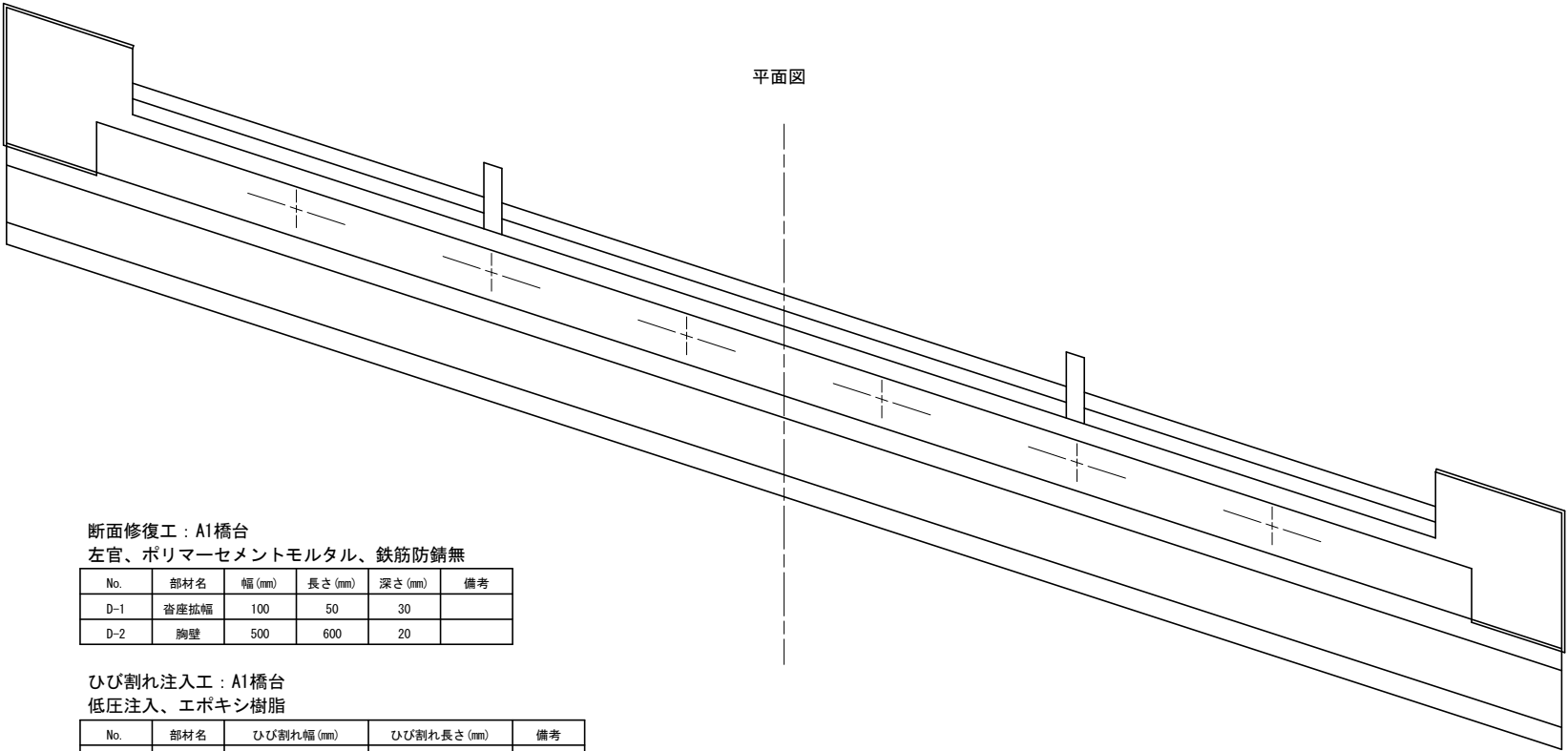
正面図



左側側面図



平面図



断面修復工：A1橋台

左官、ポリマーセメントモルタル、鉄筋防錆有

No.	部材名	幅(mm)	長さ(mm)	深さ(mm)	備考
B-1	沓座拡幅	250	200	60	
B-2	沓座拡幅	150	350	60	
B-3	沓座拡幅	100	100	60	
B-4	沓座拡幅	500	850	80	
B-5	沓座拡幅	100	450	80	
B-6	沓座拡幅	250	250	80	
B-7	沓座拡幅	200	300	80	
B-8	沓座拡幅	200	350	80	
B-9	沓座拡幅	250	450	80	
B-10	沓座拡幅	250	700	80	
B-11	沓座拡幅	550	200	150	
B-12	沓座拡幅	200	450	80	
B-13	沓座拡幅	600	150	150	

断面修復工：A1橋台

左官、ポリマーセメントモルタル、鉄筋防錆無

No.	部材名	幅(mm)	長さ(mm)	深さ(mm)	備考
D-1	沓座拡幅	100	50	30	
D-2	胸壁	500	600	20	

ひび割れ注入工：A1橋台

低圧注入、エポキシ樹脂

No.	部材名	ひび割れ幅(mm)	ひび割れ長さ(mm)	備考
H-1	沓座拡幅	0.4	600	
H-2	沓座拡幅	0.4	600	
H-3	沓座拡幅	0.4	1,100	
H-4	沓座拡幅	0.2	300	
H-5	沓座拡幅	0.2	400	
H-6	沓座拡幅	0.2	500	
H-7	沓座拡幅	0.2	1,150	

注)

- 補修範囲の寸法等を確認の上、施工すること。
- 断面修復材の設計基準強度は24N/mm²以上とする。
- はつり深さは、実際の鉄筋かぶり・変状深さを考慮して適宜変更すること。
- ひび割れ注入は、ひび割れ幅0.2mm以上を対象としている。図面に示されていないひび割れに対してもひび割れ幅を確認し、ひび割れ幅0.2mm以上のものは補修すること。
- はつり深さは、確認された鉄筋露出部の深さに裏はつりを考慮した深さとしているが、鉄筋露出箇所によって深さが異なるため、同じ部材でもはつり深さを変えている。

工 事 名	(総合評価) 変橋補修(その1) 工事		
工事場所	京都市左京区下鴨宮河町他 地内		
図 面 名	コンクリート部材補修図(7/11)		
事業年度	令和 8年 6月		
縮 尺	図示	図面番号	18 / 31
京都市建設局 土木管理部 橋りょう健全推進課			

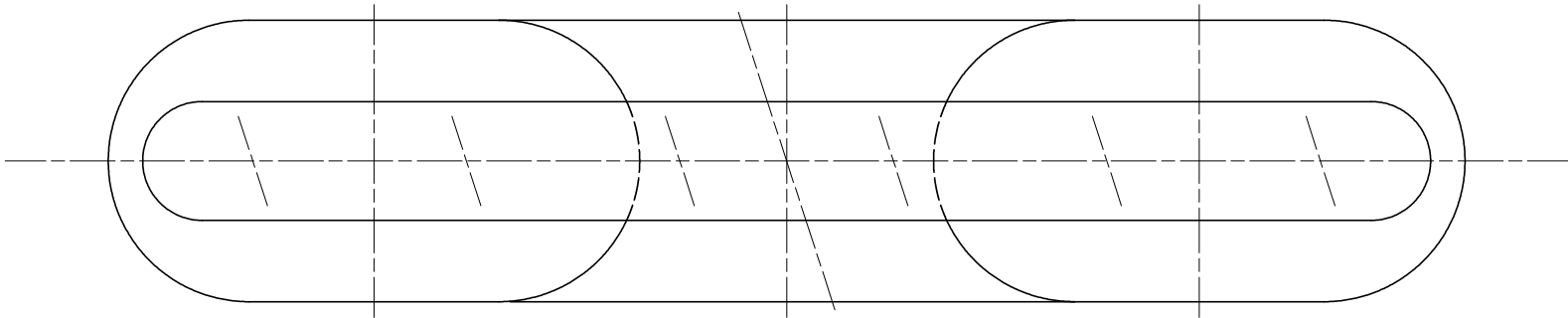
コンクリート部材補修図(8/11)

S=1:60

P2橋脚

平面図

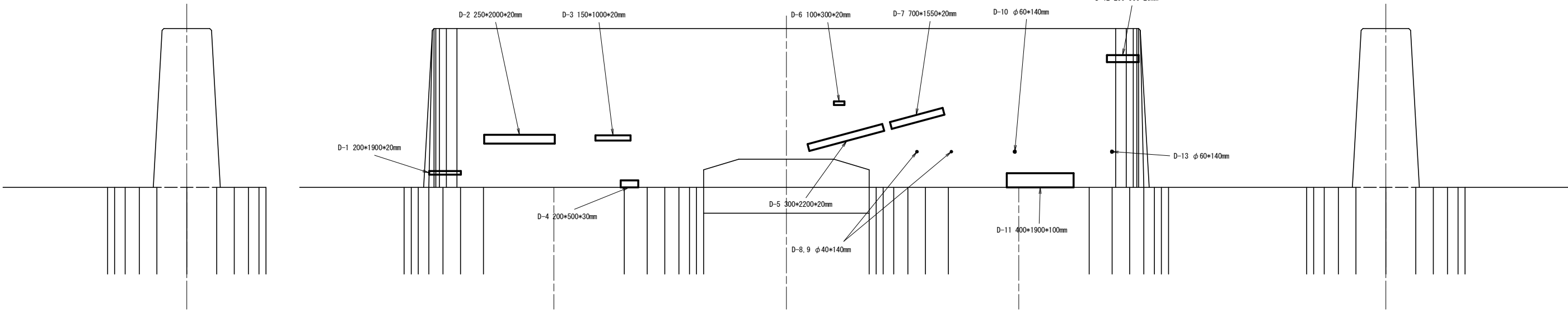
D-No.:断面修復(左官)、鉄筋防錆無



左側側面図

起点側正面図

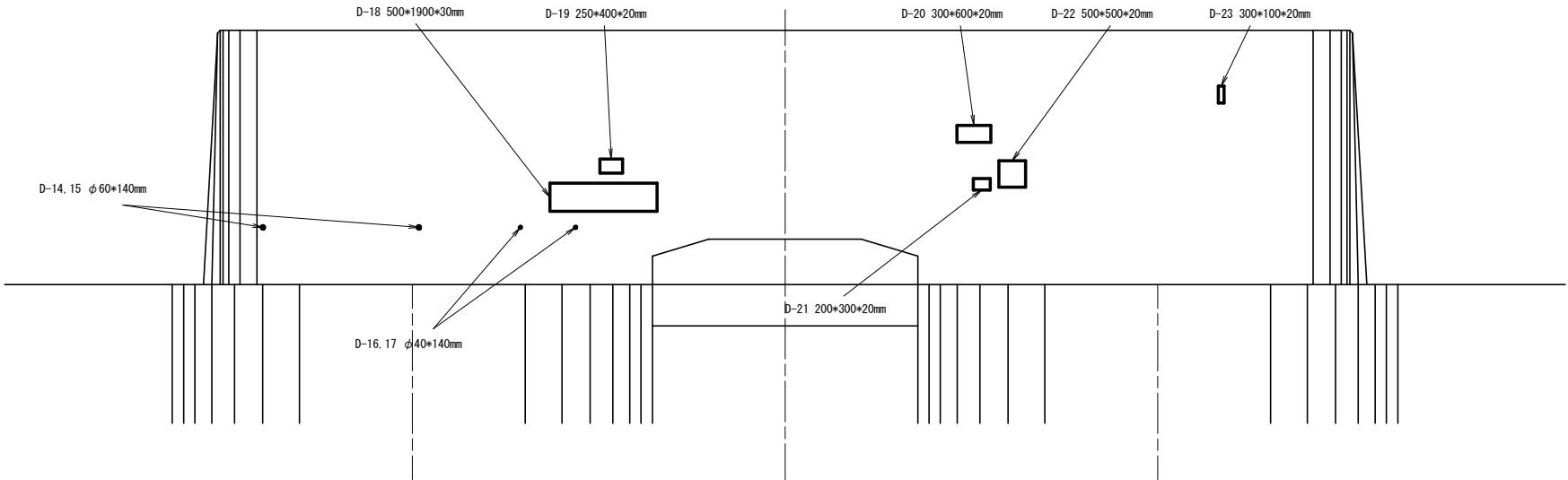
右側側面図



終点側正面図

断面修復工:P2橋脚
左官、ポリマーセメントモルタル、鉄筋防錆無

No.	部材名	幅・径(mm)	長さ(mm)	深さ(mm)	備考
D-1	脚柱	200	1,900	20	起点側
D-2	脚柱	250	2,000	20	起点側
D-3	脚柱	150	1,000	20	起点側
D-4	脚柱	200	500	30	起点側
D-5	脚柱	300	2,200	20	起点側
D-6	脚柱	100	300	20	起点側
D-7	脚柱	700	1,550	20	起点側
D-8	脚柱	40	-	140	起点側、円形
D-9	脚柱	40	-	140	起点側、円形
D-10	脚柱	60	-	140	起点側、円形
D-11	脚柱	400	1,900	100	起点側
D-12	脚柱	200	900	20	起点側
D-13	脚柱	60	-	140	起点側、円形
D-14	脚柱	60	-	140	終点側、円形
D-15	脚柱	60	-	140	終点側、円形
D-16	脚柱	40	-	140	終点側、円形
D-17	脚柱	40	-	140	終点側、円形
D-18	脚柱	500	1,900	30	終点側
D-19	脚柱	250	400	20	終点側
D-20	脚柱	300	600	20	終点側
D-21	脚柱	200	300	20	終点側
D-22	脚柱	500	500	20	終点側
D-23	脚柱	300	100	20	終点側



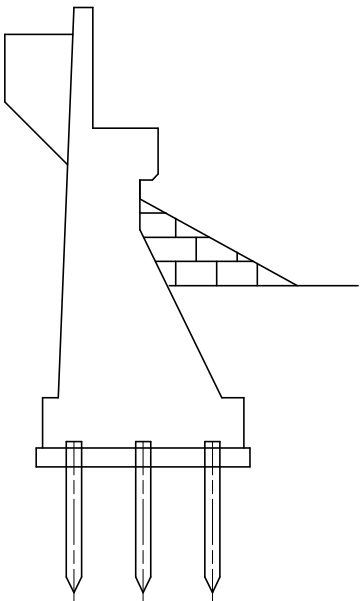
- 注)
- 補修範囲の寸法等を確認の上、施工すること。
 - 断面修復材の設計基準強度は24N/mm2以上とする。
 - はつり深さは、実際の実状深さを考慮して適宜変更すること。

工 事 名	(総合評価) 養橋補修(その1) 工事		
工事場所	京都市左京区下鴨宮河町他 地内		
図 面 名	コンクリート部材補修図(8/11)		
事業年度	令和 8年 6月		
縮 尺	図示	図面番号	19 / 31
京都市建設局 土木管理部 橋りょう健全推進課			

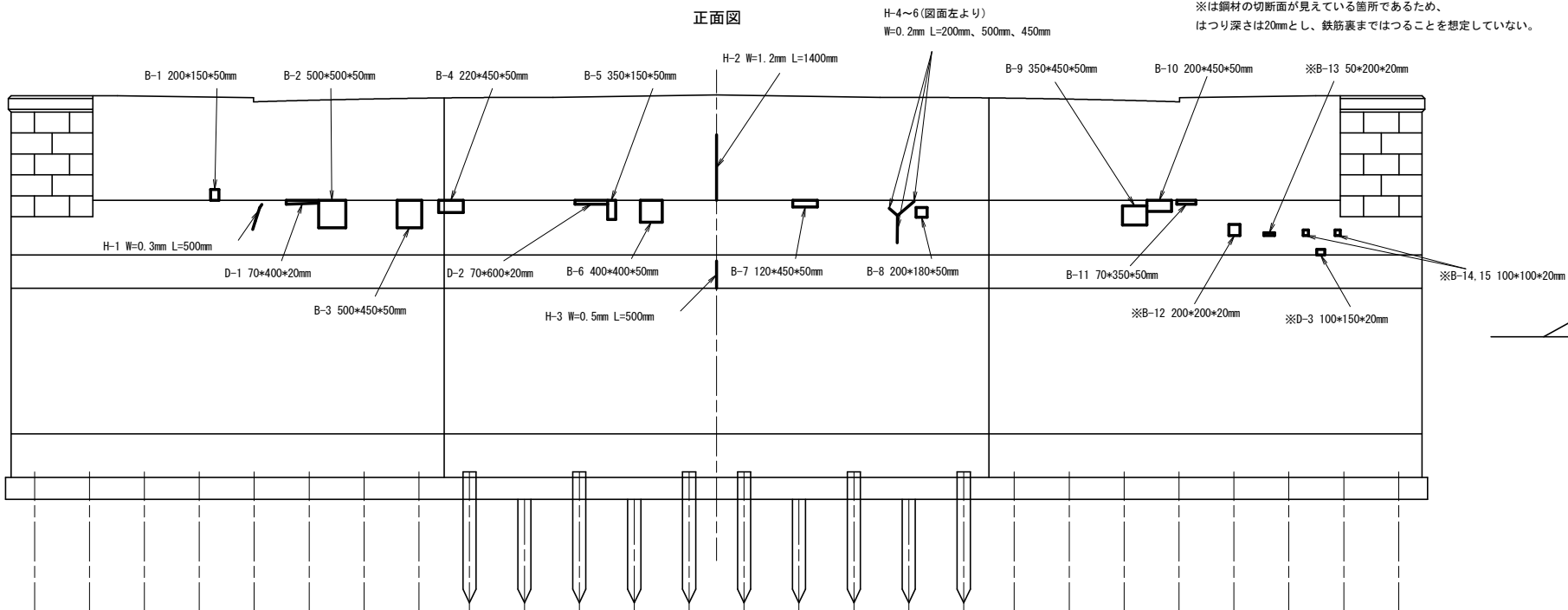
B-No.：断面修復（左官）、鉄筋防錆有
D-No.：断面修復（左官）、鉄筋防錆無
H-No.：ひび割れ注入

A2橋台

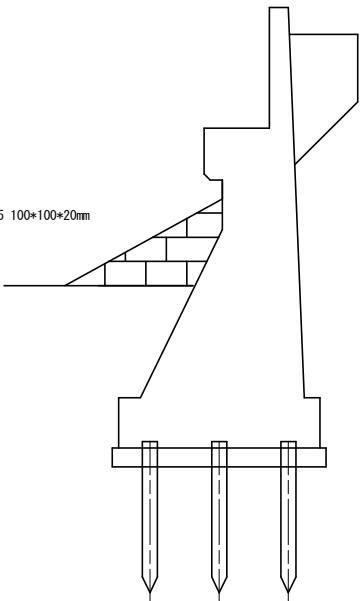
左側側面図



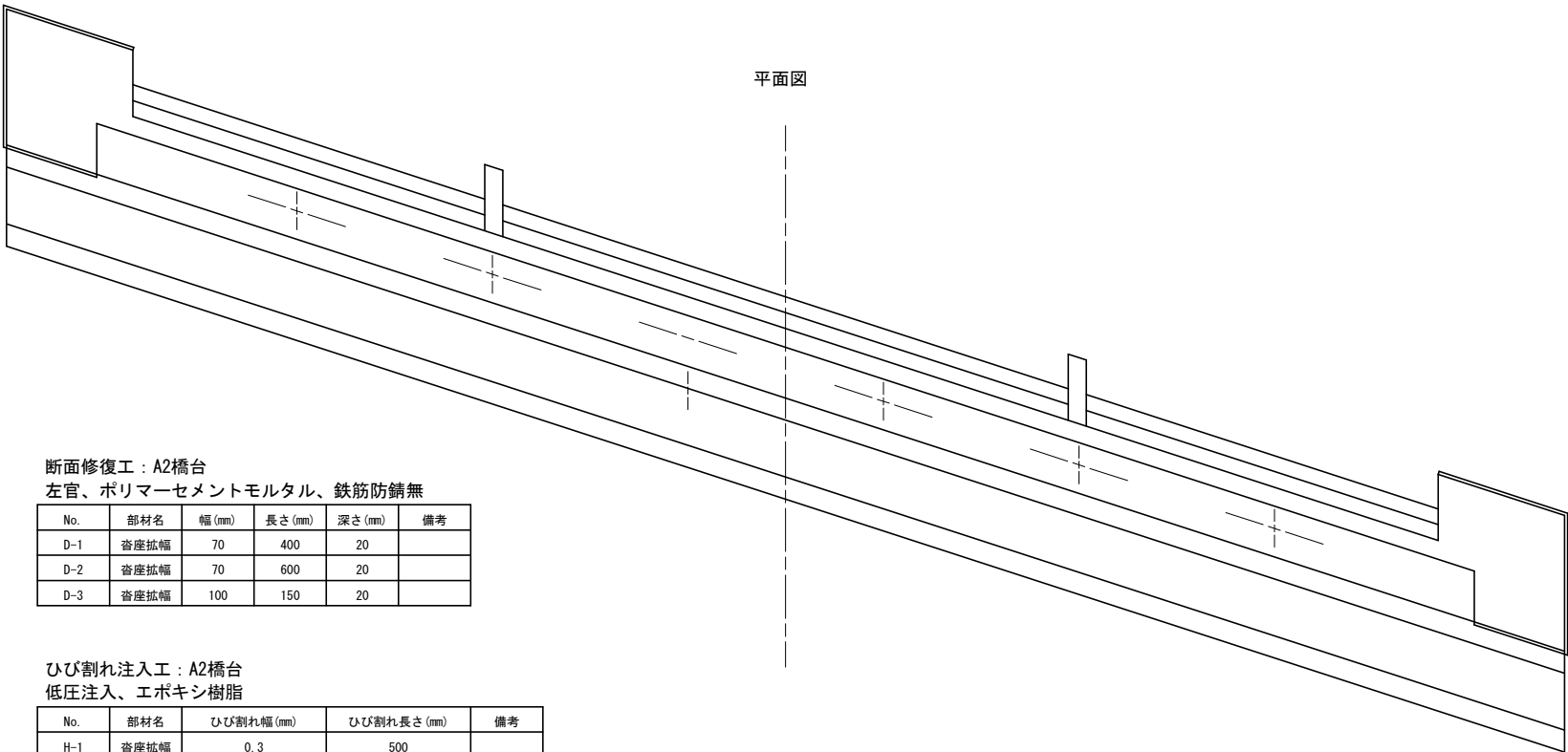
正面図



右側側面図



平面図



断面修復工：A2橋台
左官、ポリマーセメントモルタル、鉄筋防錆有

No.	部材名	幅 (mm)	長さ (mm)	深さ (mm)	備考
B-1	胸壁	200	150	50	
B-2	沓座拡幅	500	500	50	
B-3	沓座拡幅	500	450	50	
B-4	沓座拡幅	220	450	50	
B-5	沓座拡幅	350	150	50	
B-6	沓座拡幅	400	400	50	
B-7	沓座拡幅	120	450	50	
B-8	沓座拡幅	200	180	50	
B-9	沓座拡幅	350	450	50	
B-10	沓座拡幅	200	450	50	
B-11	沓座拡幅	70	350	50	
B-12	沓座拡幅	200	200	20	
B-13	沓座拡幅	50	200	20	
B-14	沓座拡幅	100	100	20	
B-15	沓座拡幅	100	100	20	

断面修復工：A2橋台
左官、ポリマーセメントモルタル、鉄筋防錆無

No.	部材名	幅 (mm)	長さ (mm)	深さ (mm)	備考
D-1	沓座拡幅	70	400	20	
D-2	沓座拡幅	70	600	20	
D-3	沓座拡幅	100	150	20	

ひび割れ注入工：A2橋台
低圧注入、エポキシ樹脂

No.	部材名	ひび割れ幅 (mm)	ひび割れ長さ (mm)	備考
H-1	沓座拡幅	0.3	500	
H-2	胸壁	1.2	1,400	
H-3	縦壁	0.5	500	
H-4	沓座拡幅	0.2	200	
H-5	沓座拡幅	0.2	500	
H-6	沓座拡幅	0.2	450	

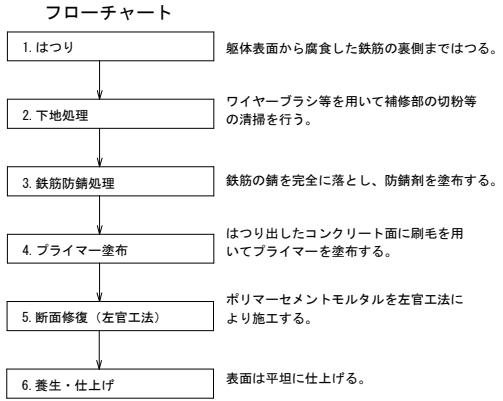
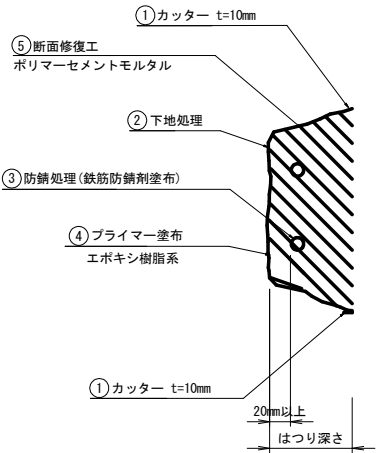
- 注)
- 補修範囲の寸法等を確認の上、施工すること。
 - 断面修復材の設計基準強度は24N/mm²以上とする。
 - はつり深さは、実際の鉄筋かぶり・変状深さを考慮して適宜変更すること。
 - ひび割れ注入は、ひび割れ幅0.2mm以上を対象としている。図面に示されていないひび割れに対してもひび割れ幅を確認し、ひび割れ幅0.2mm以上のものは補修すること。
 - はつり深さは、確認された鉄筋露出部の深さに裏はつりを考慮した深さとしているが、鉄筋露出箇所によって深さが異なるため、同じ部材でもはつり深さを変えている。

工 事 名	(総合評価) 養橋補修（その1）工事			
工事場所	京都市左京区下鴨宮河町他 地内			
図 面 名	コンクリート部材補修図 (9/11)			
事業年度	令和 8年 6月			
縮 尺	図示	図面番号	20	／ 31
京都市建設局 土木管理部 橋りょう健全推進課				

コンクリート部材補修図(10/11)

補修要領図

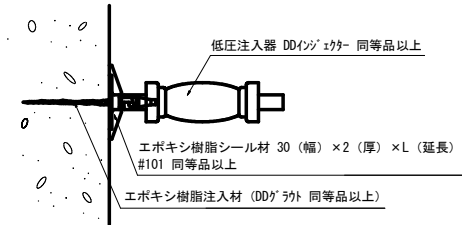
断面修復工



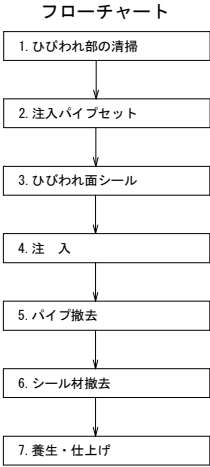
- 注記
- 1) 劣化、不良コンクリートのはつりは、健全部に損傷を与えないよう周囲に深さ1cm程度、コンクリートカッターにより切断目地を入念に施工する。
 - 2) 剥離・豆板部は、うき・ぜい弱部分をはつり取り、鉄筋が見えた場合は、鉄筋防錆処理後、欠損断面を補修する。
 - 3) 鋼材露出部は、はつり後、鉄筋の防錆処理を入念に行った後、断面補修する。
 - 4) 断面修復材
ポリマーセメントモルタルとし、「表面保護工法 設計施工指針(案)〔工法別マニュアル編〕平成17年土木学会」に示す断面修復材の規格を満足するものとする。
 - 5) はつり深さ
鉄筋のかぶり不明であるため、はつり深さは現地で確認の上、変更すること。

ひび割れ補修工

注入工法（ひび割れ幅0.2mm～1.2mm）

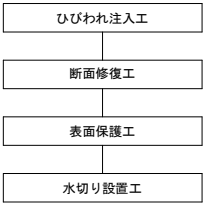


- 注記
- 1) 注入作業はシール材が確実に養生硬化していることを確認してから行い、注入圧0.4MPa以下の低圧で、かつ低速で注入すること。
 - 2) 注入パイプ等の除去は、注入材が硬化していることを確認してから行い、シール材除去後コンクリート面を平滑処理すること。
 - 3) 施工箇所が湿潤状態である場合には、湿潤用エポキシ樹脂を使用すること。
 - 4) ひび割れ幅が0.2～0.3mm程度の床版への注入材は低粘度、ひび割れ幅が1.0mmの橋台堅壁への注入材は中粘度の材料とする。



施工順序

※施工品質や再劣化に配慮し、以下の順序とする。



※表面保護工図を参照

※表面保護工図を参照

- 注)
- 1) 補修範囲の寸法等を確認の上、施工すること。
 - 2) 断面修復材の設計基準強度は24N/mm2以上とする。
 - 3) はつり深さは、実際の鉄筋かぶり・変状深さを考慮して適宜変更すること。
 - 4) ひび割れ注入は、ひび割れ幅0.2mm以上を対象としている。図面に示されていないひび割れに対してもひび割れ幅を確認し、ひび割れ幅0.2mm以上のものは補修すること。

工 事 名	(総合評価) 変橋補修（その1）工事		
工事場所	京都市左京区下鴨宮河町他 地内		
図 面 名	コンクリート部材補修図(10/11)		
事業年度	令和 8 年 6 月		
縮 尺	図示	図面番号	21 / 31
京都市建設局 土木管理部 橋りょう健全推進課			

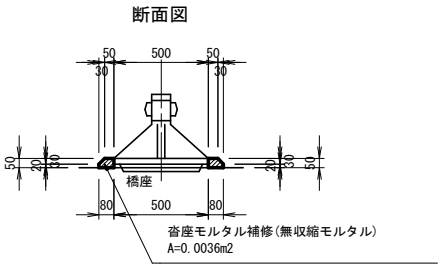
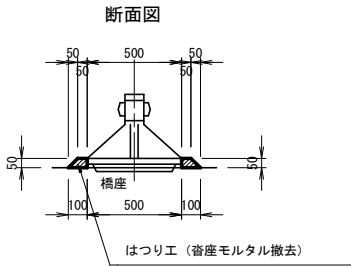
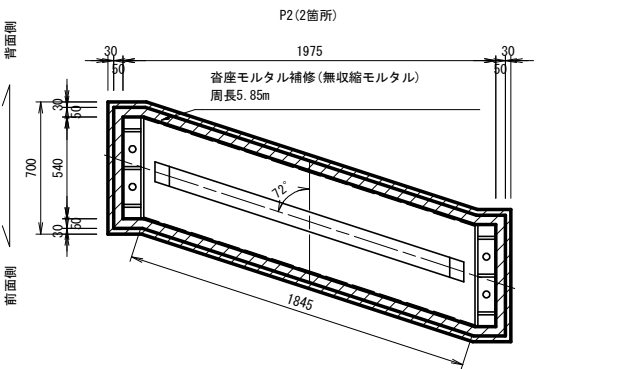
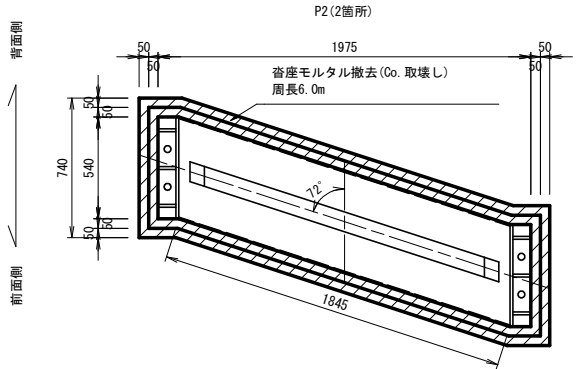
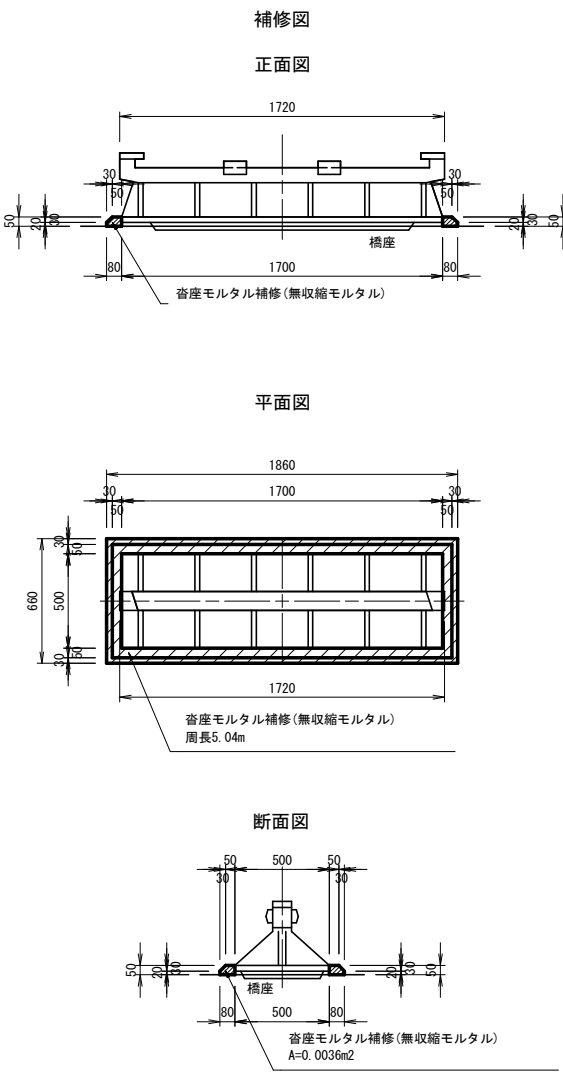
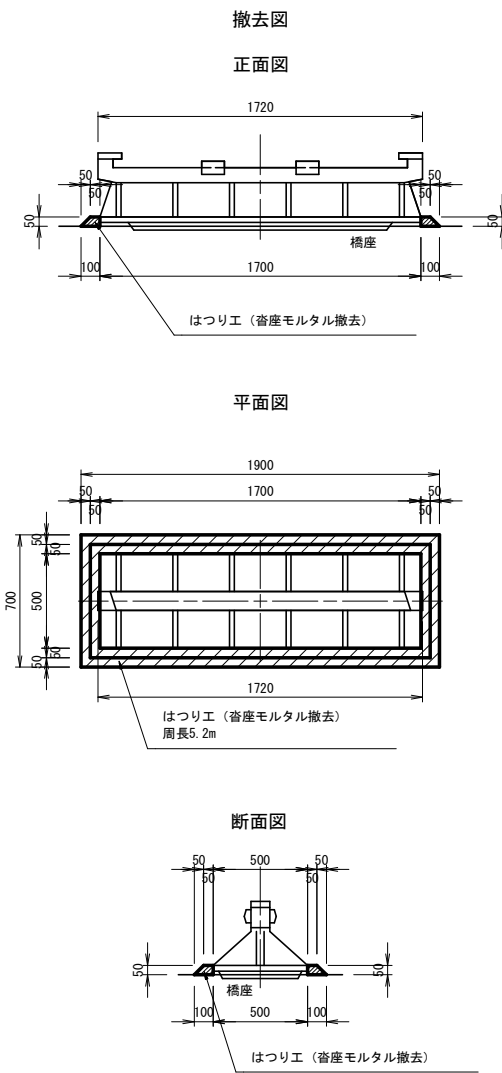
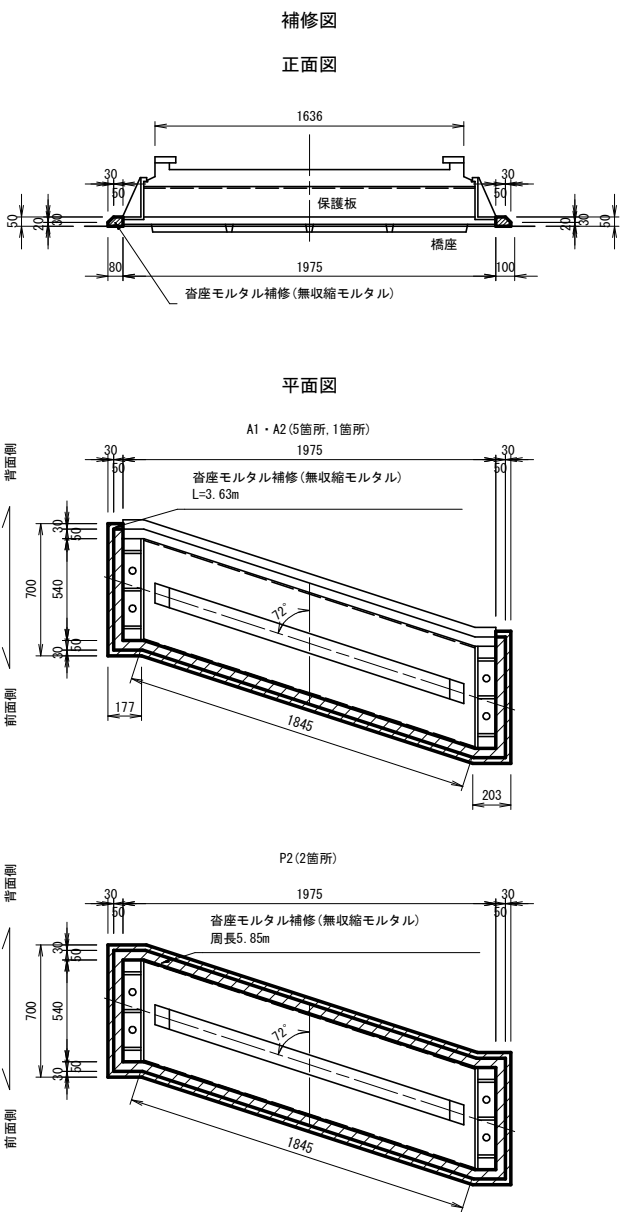
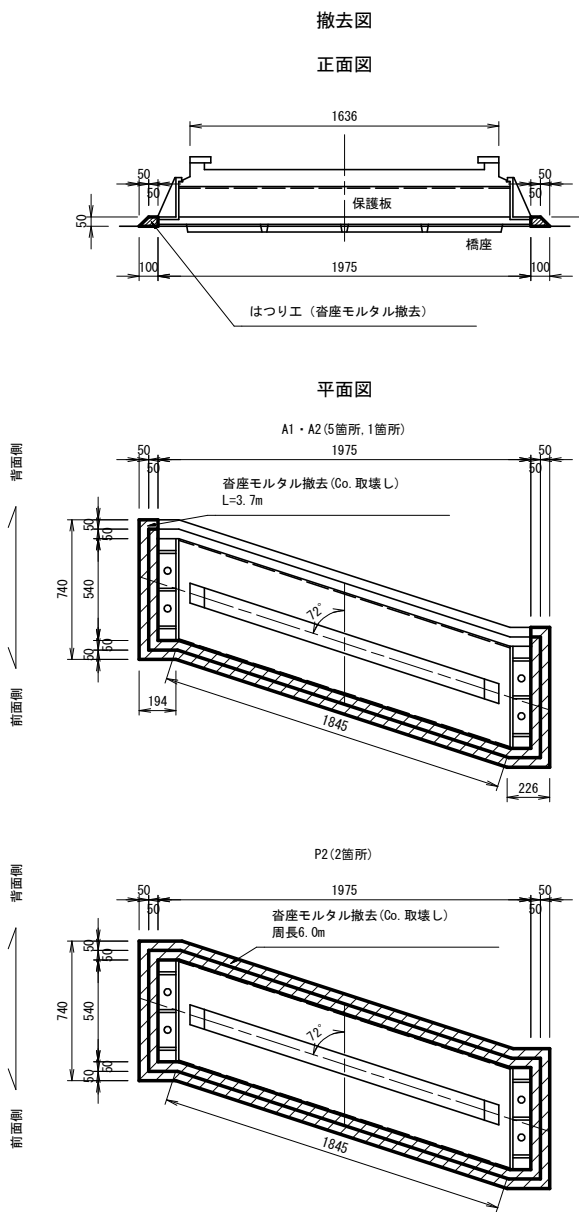
コンクリート部材補修図(11/11)

S=1:20

沓座モルタル 補修図

可動支承部 (A1・P2・A2) 合計8箇所

固定支承部 (P1) 4箇所

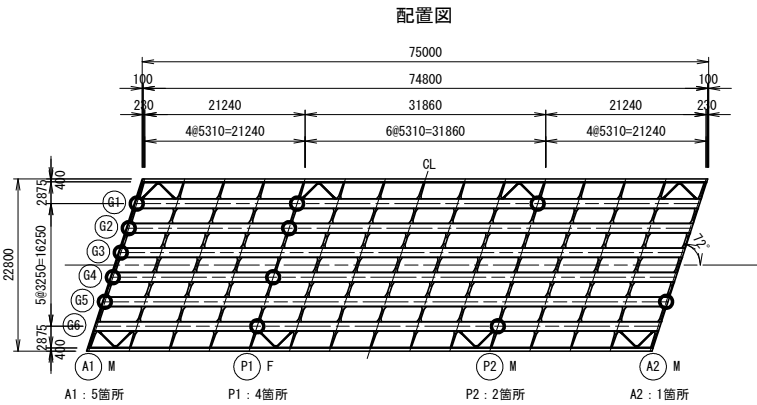
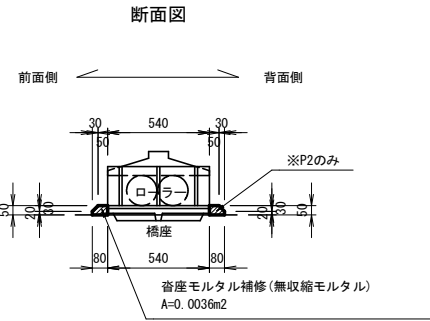
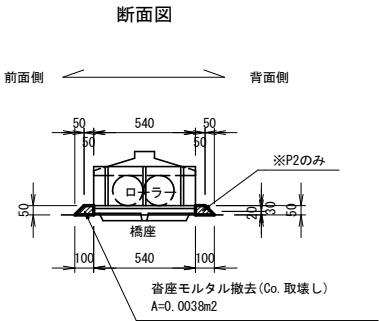


はつりエ (沓座モルタル撤去)

平均幅員 (m)	周長 (m)	箇所数	面積 (m2)	備考
0.075	3.7	5	1.388	A1
	5.2	4	1.560	P1
	6.0	2	0.900	P2
	3.7	1	0.278	A2
合計			4.126	m2

沓座モルタル補修 無収縮モルタル

断面積 (m2)	周長 (m)	箇所数	体積 (m3)	備考
0.0036	3.63	5	0.065	A1
0.0036	5.04	4	0.073	P1
0.0036	5.85	2	0.042	P2
0.0036	3.63	1	0.013	A2
合計			0.193	m3



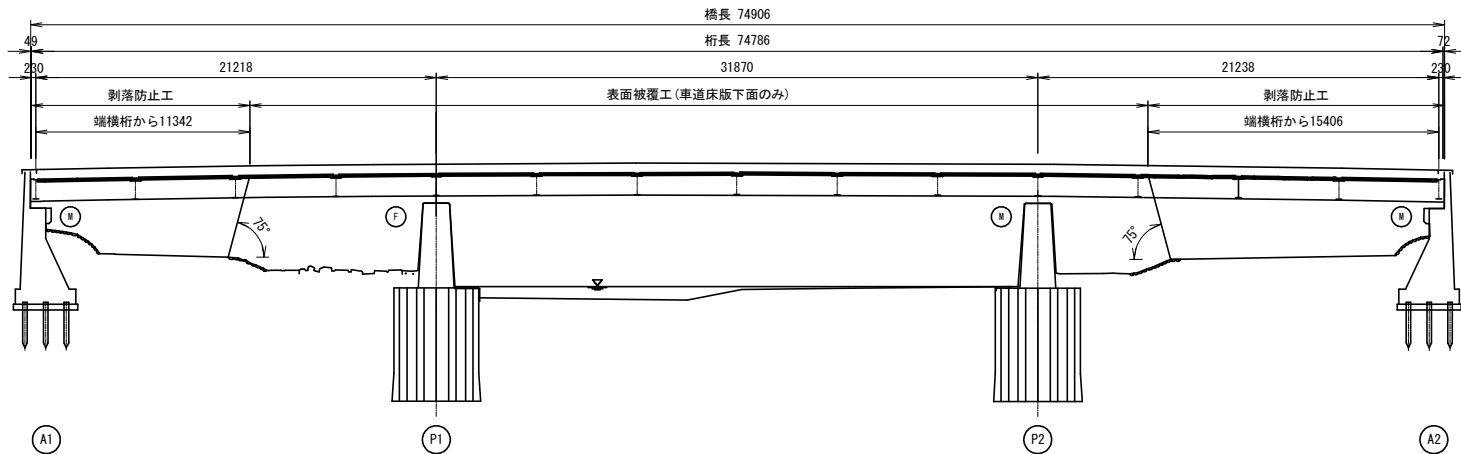
- 注)
- 補修範囲の寸法等を確認の上、施工すること。
 - 可能な範囲で沓座モルタルの撤去・補修を行うこと。

工 事 名	(総合評価) 架橋補修 (その1) 工事		
工事場所	京都市左京区下鴨宮河町地 地内		
図 面 名	コンクリート部材補修図 (11/11)		
事業年度	令和 8 年 6 月		
縮 尺	図示	図面番号	22 / 31
京都市建設局 土木管理部 橋りょう健全推進課			

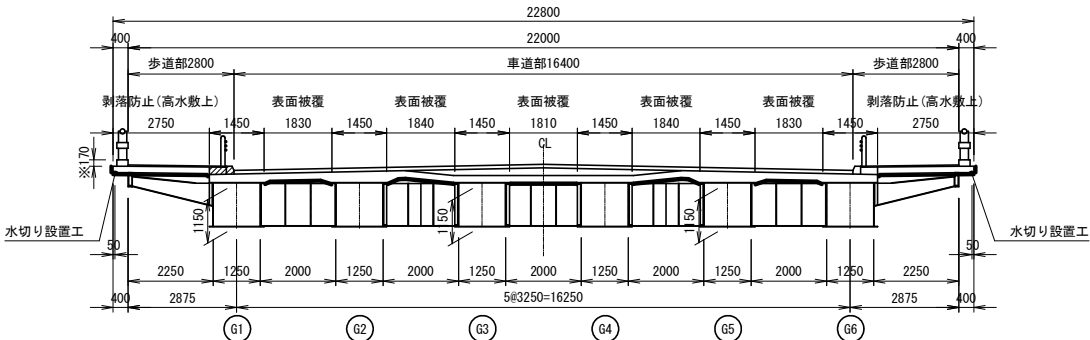
表面保護工・水切り設置工図

S=1:200

側面図



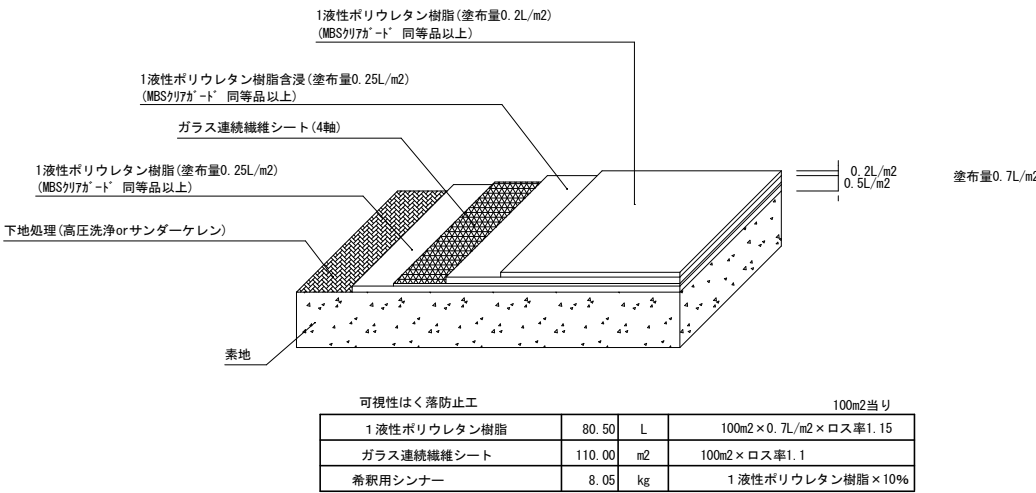
断面図 S=1:100



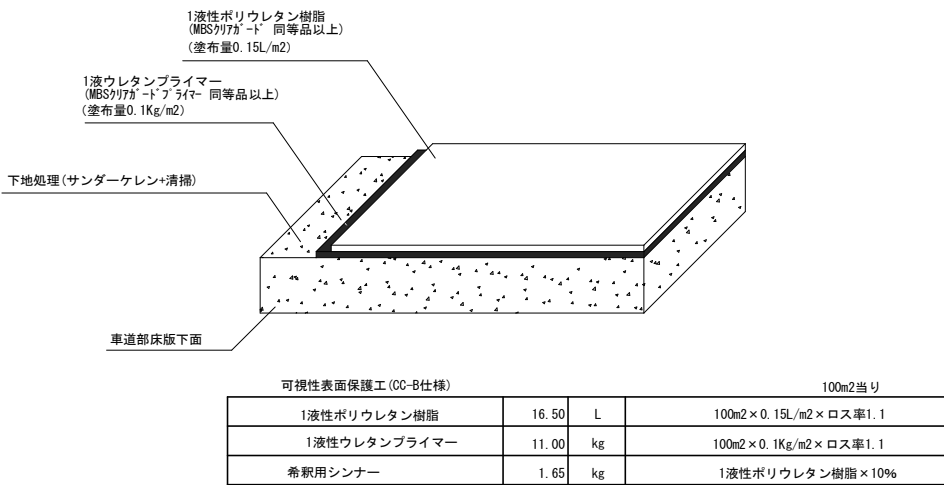
※張出し床版側面は、高級自然石調仕上塗装を行うため、それを実施後に拭き取り清掃をし、繊維シートを用いない剥落防止工(1液性ポリウレタン樹脂 塗布量0.5L/m2)とすること。

補修要領図

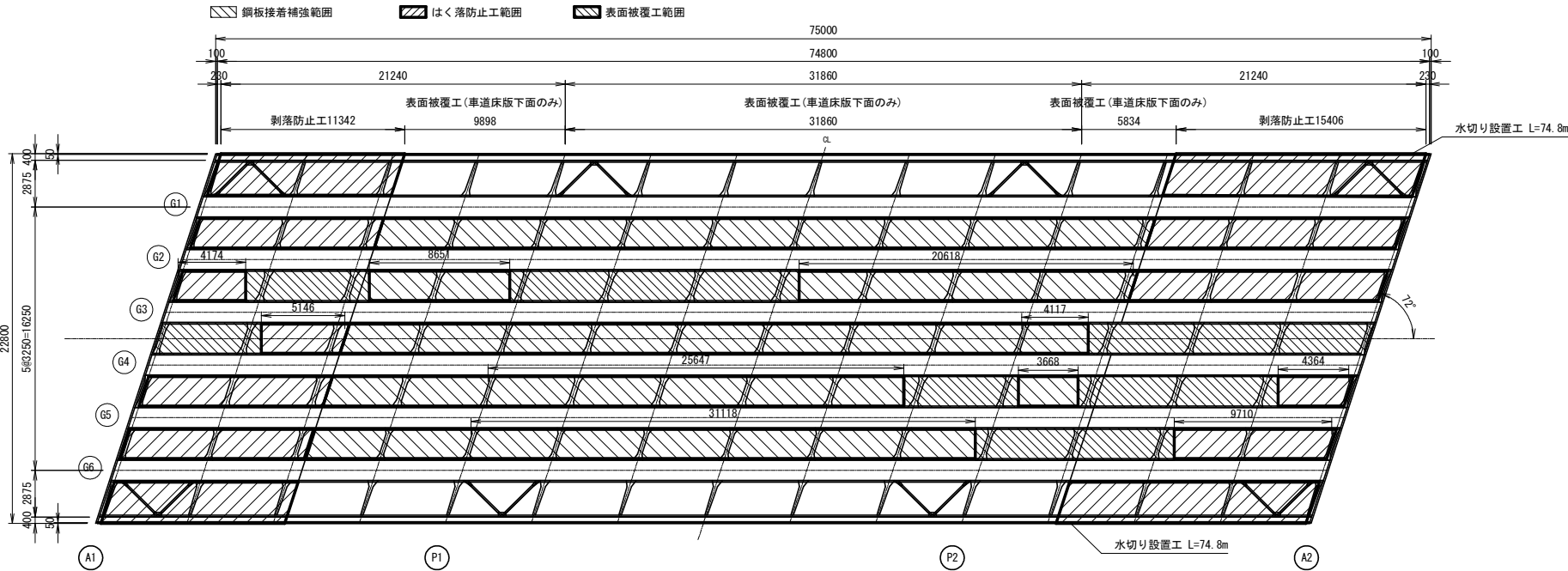
剥落防止工



表面被覆工



平面図

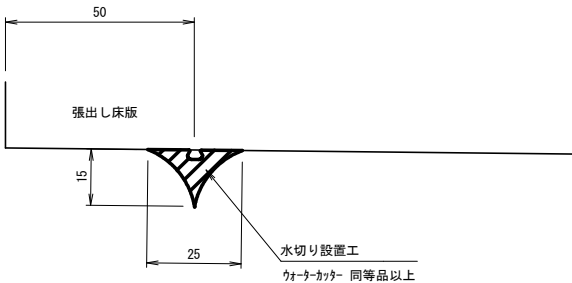


※横桁・縦桁が床版に接着している部位は除く(数量計算書参照)。

水切り設置詳細図

S=1:1

断面図



剥落防止工数量表

径間	対象部材	面積 (m2)	備考
第1径間	車道部床版下面、歩道部床版下面・側面	139.09	
第3径間	車道部床版下面、歩道部床版下面・側面	164.28	
計		303.37	

表面被覆工数量表

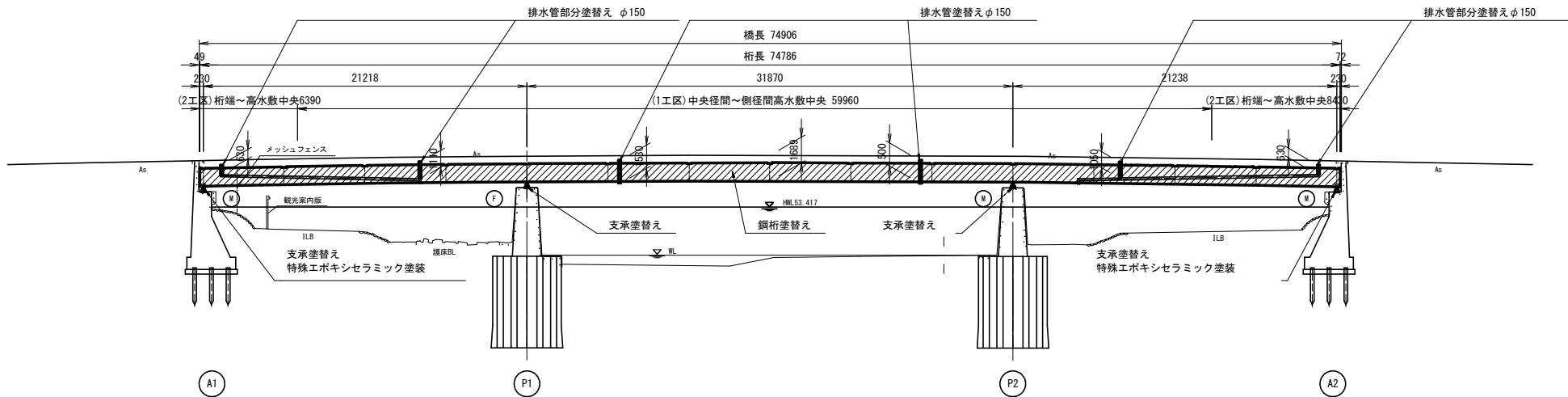
径間	対象部材	面積 (m2)	備考
第1径間	車道部床版下面	87.44	
第2径間	車道部床版下面	244.04	
第3径間	車道部床版下面	35.36	
計		366.84	

注)
1) 既設構造物および補修範囲の寸法等を確認の上、施工すること。
2) 水切りは、剥落防止工を実施した後に、清掃して設置すること。

工 事 名	(総合評価) 養橋補修 (その1) 工事		
工事場所	京都市左京区下鴨宮河町地 地内		
図 面 名	表面保護工・水切り設置工図		
事業年度	令和 8 年 6 月		
縮 尺	図示	図面番号	23 / 31
京都市建設局 土木管理部 橋りょう健全推進課			

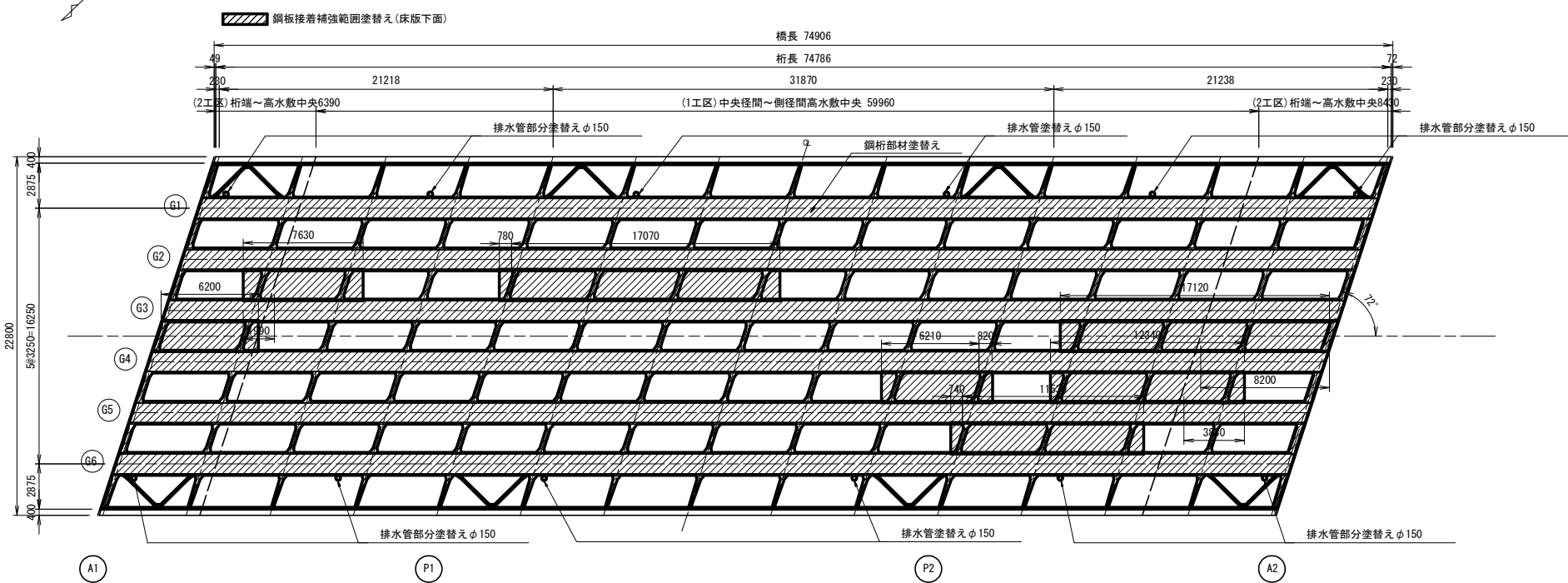
塗装塗替え図(1/5) S=1:200
外面塗替え

側面図

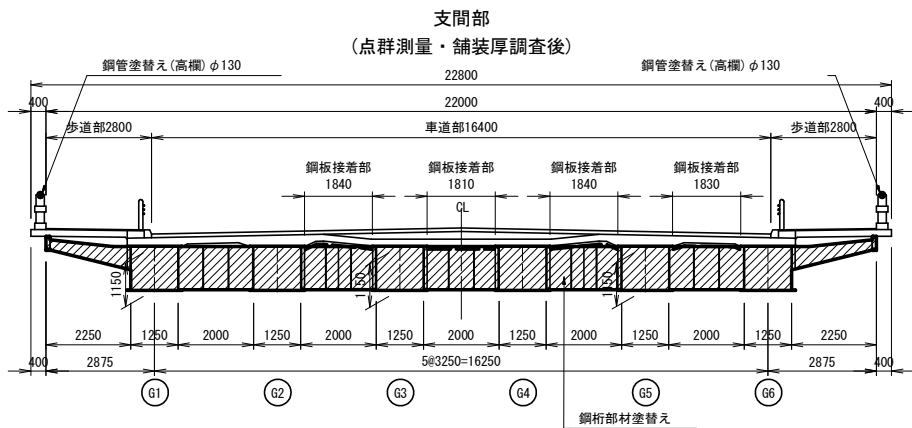


※橋台部の支承のみ、特殊エポキシセラミック塗装である。

平面図



断面図 S=1:100



Rc-1 塗装系(スプレー)

塗装工程	塗料名	使用量 (g/m2)	塗装間隔
素地調整	1種 循環式プラスト		4時間以内
防食下地	有機ジンクリッチペイント	600	1～10日
下 塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	240	1～10日
下 塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	240	1～10日
中 塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗	170	1～10日
上 塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗	140	1～10日

注) 原則はスプレー塗装とするが、施工箇所等に応じて、
発注者との協議の上、はけ、ローラーに変更すること。

注)

- 1) これまでに鋼板接着や当て板補強等が施されている箇所があるが、既存資料が無いため、既設構造物および補修範囲の寸法等を確認の上、施工すること。
- 2) 素地調整は、塗膜かすの産物発生量が1kg/m2程度となる方法で施工すること。
- 3) 鋼桁部材の塗替えは、既設部材を素地調整し、当て板や支承部水平分担構造等を設置後に、塗装を行うこと。
- 4) 主桁内面の塗替えは、(2/5)～(4/5)を参照のこと。支承部の塗替えは、(5/5)を参照のこと。
- 5) 鋼部材補修として新たに設置する当て板等は、鋼部材補修詳細図を参照のこと。

素地調整数量表(外面) : 第1径間高水敷中央～第3径間高水敷中央施工時 ※支承は(5/5)参照

径間	対象部材 (支承は(5/5)参照)	面積 (m2)	備考
第1径間	鋼桁部材、鋼板接着部、高欄、排水管	571.19	
第2径間	鋼桁部材、鋼板接着部、高欄、排水管	1,230.32	
第3径間	鋼桁部材、鋼板接着部、高欄、排水管	506.77	
計		2,308.28	

素地調整数量表(外面) : 第1・3径間高水敷中央～桁端施工時 ※支承は(5/5)参照

径間	対象部材 (内面・支承は(2/5～(5/5)参照)	面積 (m2)	備考
第1径間	鋼桁部材、鋼板接着部、高欄、排水管	267.66	
第3径間	鋼桁部材、鋼板接着部、高欄、排水管	331.09	
計		598.75	

塗装数量表(外面) : 第1径間高水敷中央～第3径間高水敷中央施工時 ※支承は(5/5)参照

径間	対象部材 (支承は(5/5)参照)	面積 (m2)	備考
第1径間	鋼桁部材、鋼板接着部、高欄、排水管	571.19	
第2径間	鋼桁部材、鋼板接着部、高欄、排水管	1,230.32	
第3径間	鋼桁部材、鋼板接着部、高欄、排水管	506.77	
第2径間	支間部縦桁ブラケット補修部	7.37	
計		2,315.65	

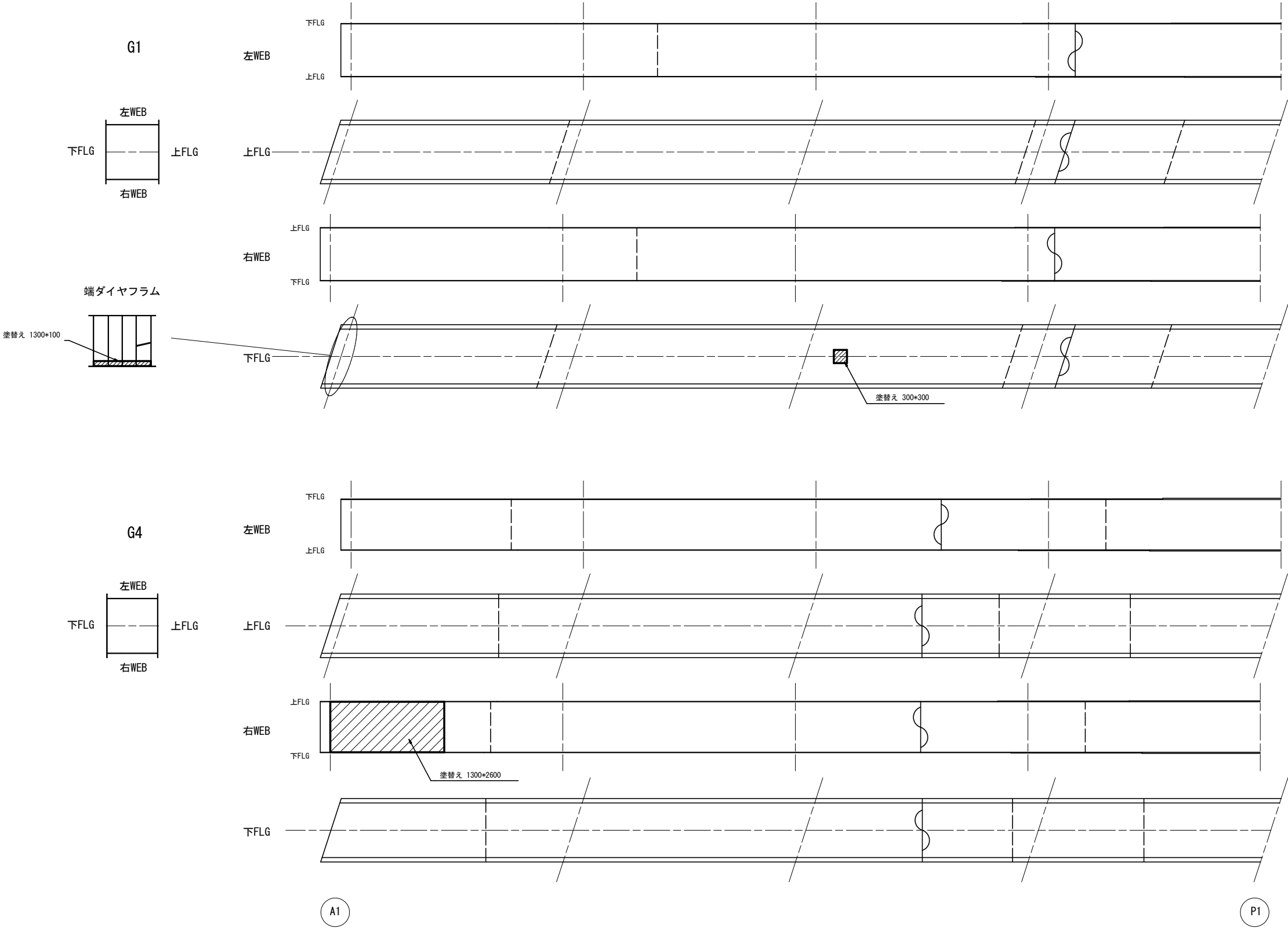
塗装数量表(外面) : 第1・3径間高水敷中央～桁端施工時 ※支承は(5/5)参照

径間	対象部材 (内面・支承は(2/5～(5/5)参照)	面積 (m2)	備考
第1径間	鋼桁部材、鋼板接着部、高欄、排水管	267.66	
第3径間	鋼桁部材、鋼板接着部、高欄、排水管	331.09	
第1.3径間	桁端縦桁ブラケット補修部	0.83	
計		599.58	

工 事 名	(総合評価) 養橋補修(その1) 工事
工事場所	京都市左京区下鴨宮町他 地内
図 面 名	塗装塗替え図(1/5)
事業年度	令和 8年 6月
縮 尺	図示
図面番号	24 / 31
京都市建設局 土木管理部 橋りょう健全推進課	

塗装塗替え図 (2/5) S=1:50

内面塗替え (1/3)
第1径間



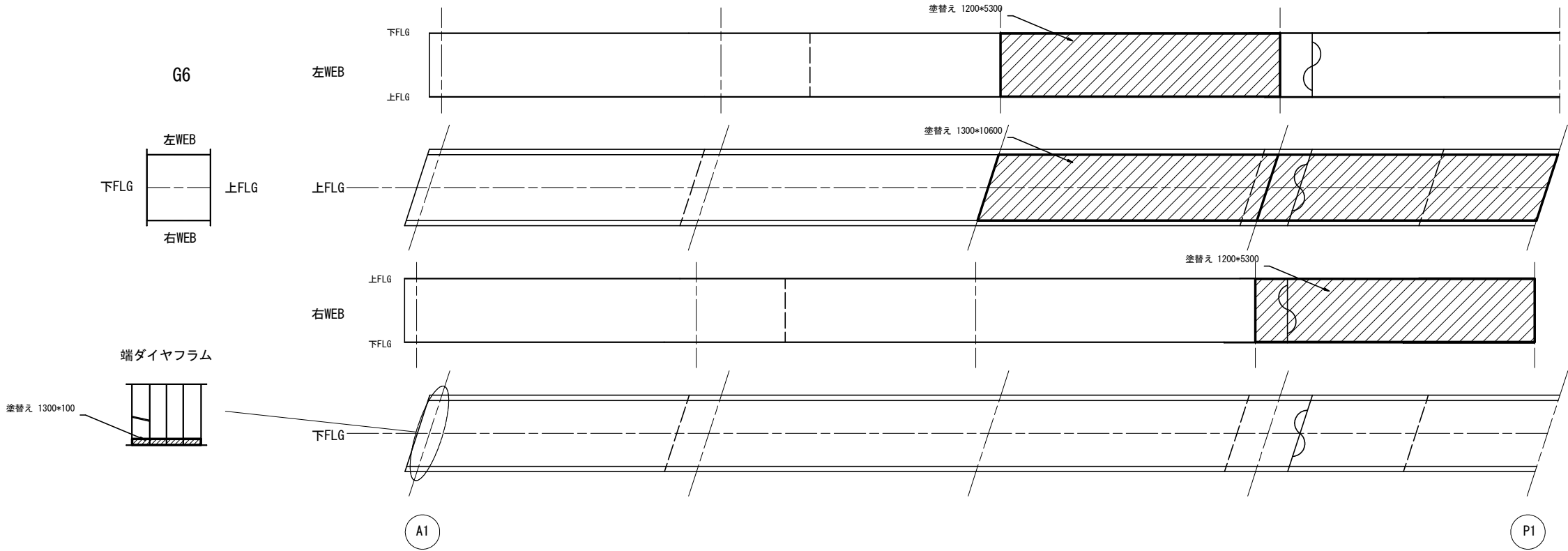
Rd-I塗装系(はけ、ローラー)			
塗装工程	塗料名	使用量 (g/m2)	塗装間隔
素地調整	1種 循環式プラスト		4時間以内
第1層	無溶剤形変性エポキシ樹脂塗料	300	
第2層	無溶剤形変性エポキシ樹脂塗料	300	2~10日

注)
1) 既設構造物および補修範囲の寸法等を確認の上、施工すること。
2) 既設部材を素地調整し、当て板や支承部補強構造等を設置後に、塗装を行うこと。

工事名	(総合評価) 架橋補修 (その1) 工事		
工事場所	京都市左京区下鴨宮河町他 地内		
図面名	塗装塗替え図 (2/5)		
事業年度	令和 8年 6月		
縮尺	図示	図面番号	25 / 31
京都市建設局 土木管理部 橋りょう健全推進課			

塗装塗替え図 (3/5) S=1:50

内面塗替え (2/3)
第1径間



Rd-I塗装系 (はけ、ローラー)			
塗装工程	塗料名	使用量 (g/m2)	塗装間隔
素地調整	1種 循環式プラスト		4時間以内
第1層	無用剤形変成エポキシ樹脂塗料	300	
第2層	無用剤形変成エポキシ樹脂塗料	300	2~10日

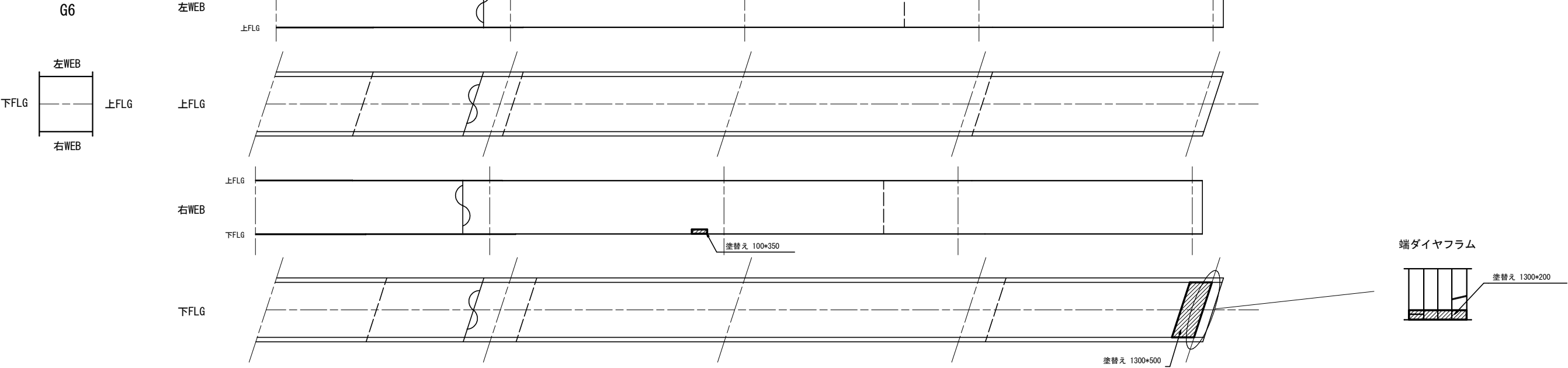
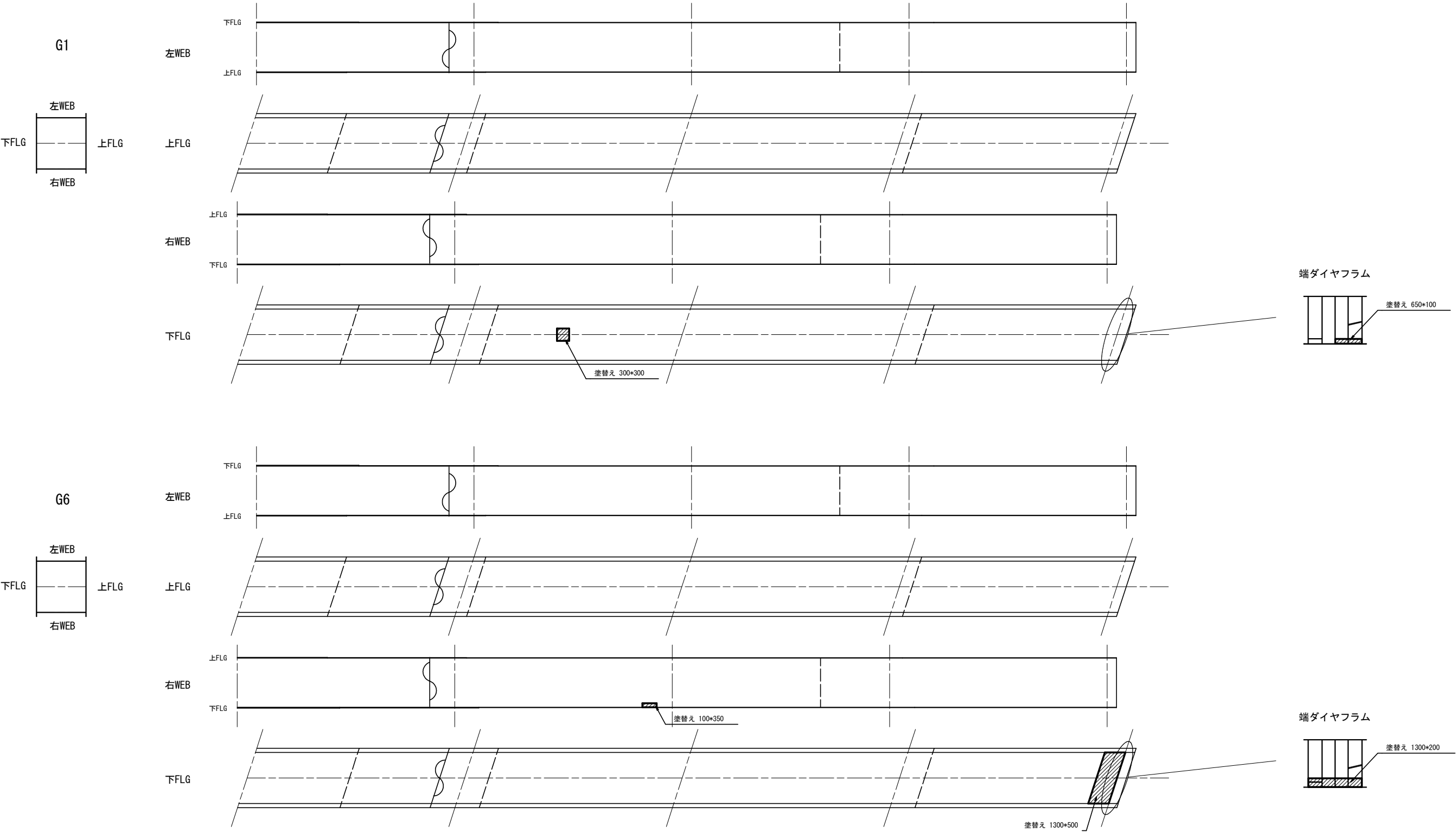
内面塗替え数量表				
径間	主桁	寸法 (m)		面積 (m2)
第1径間	G1	1.300	0.100	0.13
		0.300	0.300	0.09
	G4	1.300	2.600	3.38
	G6	1.300	0.100	0.13
		1.200	5.300	6.36
		1.300	10.600	13.78
		1.200	5.300	6.36
	端ダイヤフラム当て板部		-	3.00
計				33.23

注)
1) 既設構造物および補修範囲の寸法等を確認の上、施工すること。
2) 既設部材を素地調整し、当て板や支承部補強構造等を設置後に、塗装を行うこと。

工 事 名	(総合評価) 架橋補修 (その1) 工事		
工事場所	京都市左京区下鴨宮河町他 地内		
図 面 名	塗装塗替え図 (3/5)		
事業年度	令和 8年 6月		
縮 尺	図示	図面番号	26 / 31
京都市建設局 土木管理部 橋りょう健全推進課			

塗装塗替え図 (4/5) S=1:50

内面塗替え (3/3)
第3径間



P2

Rd-I塗装系(はけ、ローラー)			
塗装工程	塗料名	使用量 (g/m ²)	塗装間隔
素地調整	1種 循環式プラスト		4時間以内
第1層	無用剤形変成エポキシ樹脂塗料	300	2~10日
第2層	無用剤形変成エポキシ樹脂塗料	300	

内面塗替え数量表

径間	主桁	寸法 (m)		面積 (m ²)
第3径間	G1	0.300	0.300	0.09
		0.650	0.100	0.07
	G6	0.100	0.350	0.04
		1.300	0.500	0.65
		1.300	0.200	0.26
	端ダイヤフラム当て板部	-	-	3.00
計				4.11

A2

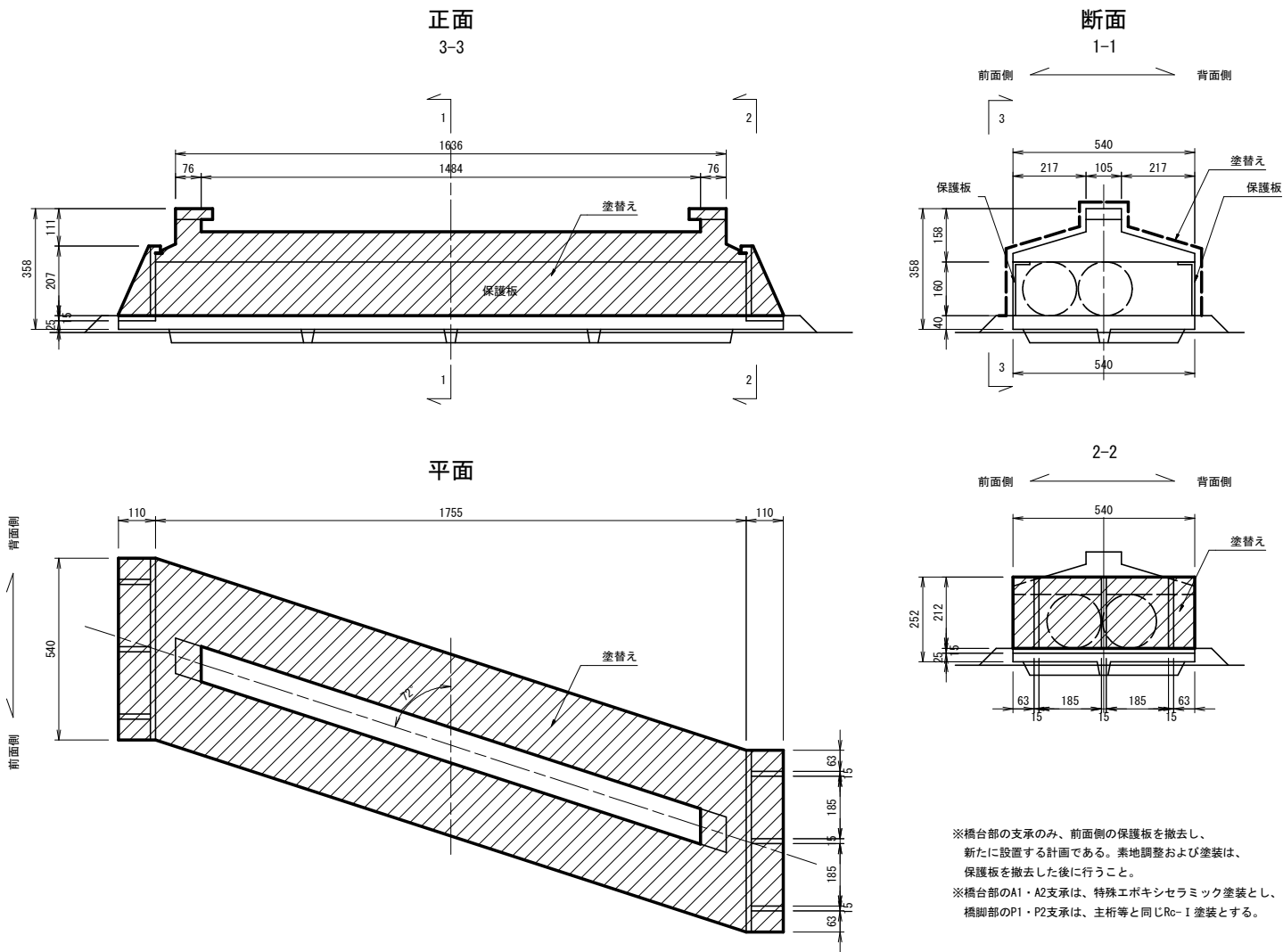
注)
1) 既設構造物および補修範囲の寸法等を確認の上、施工すること。
2) 既設部材を素地調整し、当て板や支承部補強構造等を設置後に、塗装を行うこと。

工 事 名	(総合評価) 架橋補修 (その1) 工事		
工事場所	京都市左京区下鴨宮河町地 地内		
図 面 名	塗装塗替え図 (4/5)		
事業年度	令和 8年 6月		
縮 尺	図示	図面番号	27 / 31
京都市建設局 土木管理部 橋りょう健全推進課			

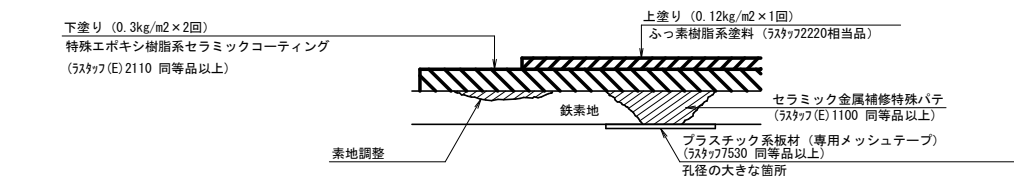
塗装塗替え図 (5/5)

支承塗替え

A1・P2・A2支承部



A1・A2支承 塗替え補修要領図



金属補修材 基本物性	
項 目	試験結果
引張接着強さ	23.6N/mm2
耐磨耗性(磨耗輪法)	52.0mg
ロックウェル硬度Hスケール	115
耐塩水噴霧試験	24,000時間変化なし

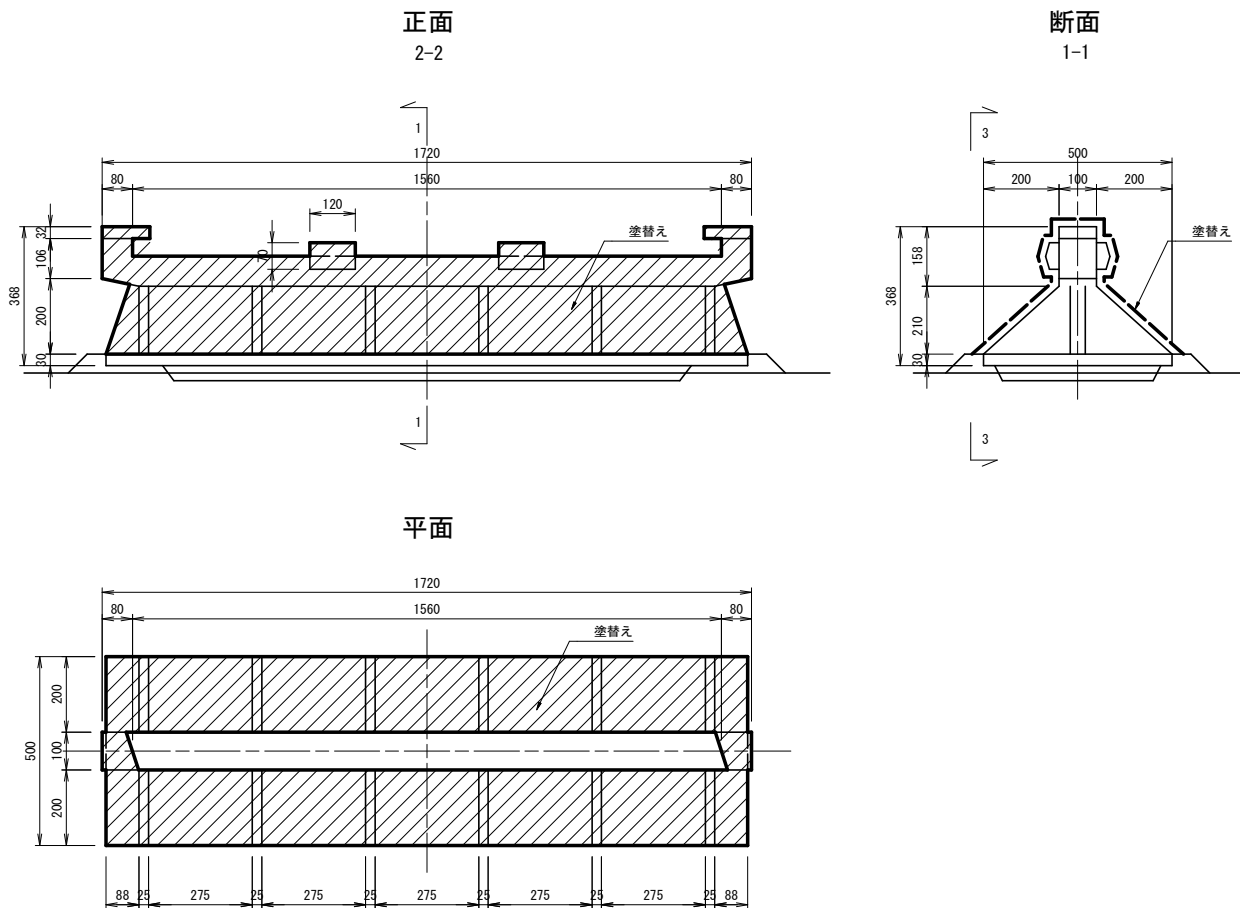
下塗り材(塗装) 基本物性	
項 目	試験結果
引張接着強さ	23.3N/mm2
耐磨耗性(磨耗輪法)	70.9mg
耐塩水噴霧試験	24,000時間変化なし

塗装部 標準施工仕様			
施工工程	使用材料・方法	標準使用量×回数	養生時間
1 素地調整	1種ケレン(循環式ブラスト)	旧塗膜・さび除去、脱脂、清掃	4時間以内
2 下塗り	エポキシ樹脂系セラミックコーティング	0.3kg/m2×2回 (100μm×2)	4~24時間以内
3 上塗り	ふっ素樹脂系塗料	0.12kg/m2×1回 (30μm)	

- 注)
- 施工前に必ず現地寸法を確認し、金属補修及び塗装範囲、数量調査を協議のうえ施工すること。
 - 素地調整については2種ケレン以上とし、鋼腐食部、錆を除去し鋼材面を露出させること。
 - 下地処理面は凹部・亀裂部がなく塗布面平滑となるよう努めること。
 - 下地処理面にはホコリ不純物を完全に除去し、乾燥状態を保つこと。
 - 素地調整後、金属補修工および塗装(第1層)までは速やかに行うこと。塗装の第1層は、素地調整後、4時間以内で行うこと。
 - 使用する金属補修材および塗装材は、左記基本物性の補修材を使用し、材料の取扱い注意事項に留意すること。

S=1:10

P1支承部



P1・P2支承 塗替え補修仕様

Rc-I 塗装系(スプレー)			
塗装工程	塗 料 名	使 用 量 (g/m2)	塗 装 間 隔
素地調整	1種 循環式ブラスト		4時間以内
防食下地	有機ジンクリッチペイント	600	1~10日
下 塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	240	1~10日
下 塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	240	1~10日
中 塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗	170	1~10日
上 塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗	140	1~10日

注) 原則はスプレー塗装とするが、施工箇所等に応じて、発注者との協議の上、はけ、ローラーに変更すること。

支承塗替え数量表				
位置	面積/支承(m2)	支承数(基)	面積計(m2)	仕様
A1	1.965	6	11.79	ラスタフ
P1	2.620	6	15.72	Rc-I
P2	1.965	6	11.79	Rc-I
A2	1.965	6	11.79	ラスタフ
ラスタフ計			23.58	(m2)
Rc-I計			27.51	(m2)

金属補修パテ数量表 ※局部減肉部 塗装面積の5%と想定、平均充填厚1mmと想定				
位置	面積/支承(m2)	支承数(基)	面積計(m2)	仕様
A1	1.965±0.05=0.098	6	0.59	金属補修パテ
A2	1.965±0.05=0.098	6	0.59	金属補修パテ
計			1.18	(m2)

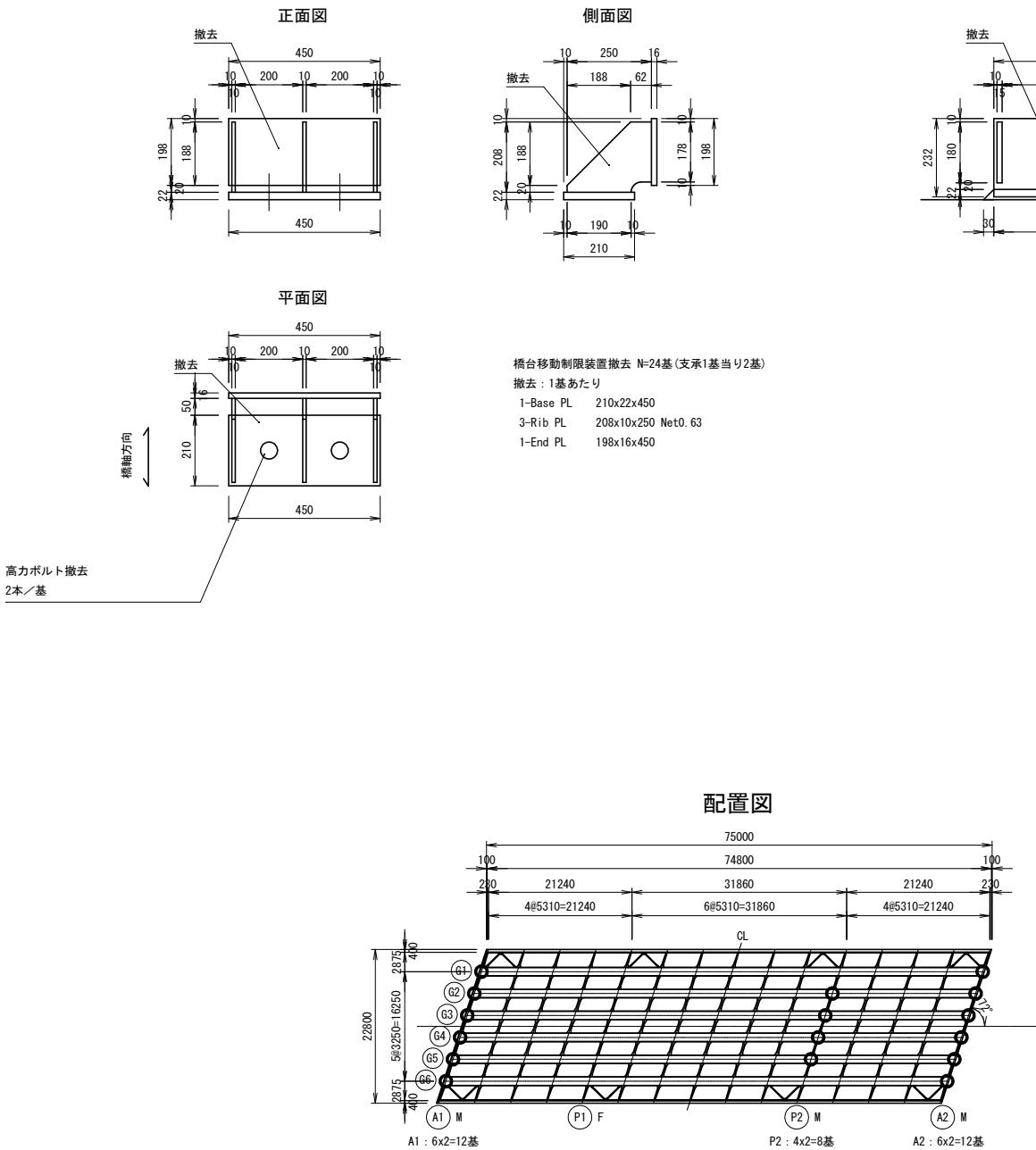
注)

- 1) 現地で寸法等の確認が必要
- 2) 既設構造物および補修範囲の寸法等を確認の上、施工すること。
- 3) 既設部材の素地調整後、橋台部は新たに保護板を設置した後に塗装すること。
- 4) A1橋台支承部以外は、水平力分担構造構造等を設置する予定である。設置後は塗装しにくくなるため、先に塗装を行うこと。
- 5) 橋台の支承部は、桁道間が小さく、支承の裏側等が施工困難である。施工可能な限り、補修を行うこと。
- 6) 橋台の支承部の腐食による断面減少部に対して、金属パテ補修を計画している。現地確認を行い、パテの使用量を決定すること。

工 事 名	(総合評価) 変橋補修 (その1) 工事
工事場所	京都市左京区下鴨宮河町地 地内
図 面 名	塗装塗替え図 (5/5)
事業年度	令和 8年 6月
縮 尺	図示 図面番号 28 / 31
京都市建設局 土木管理部 橋りょう健全推進課	

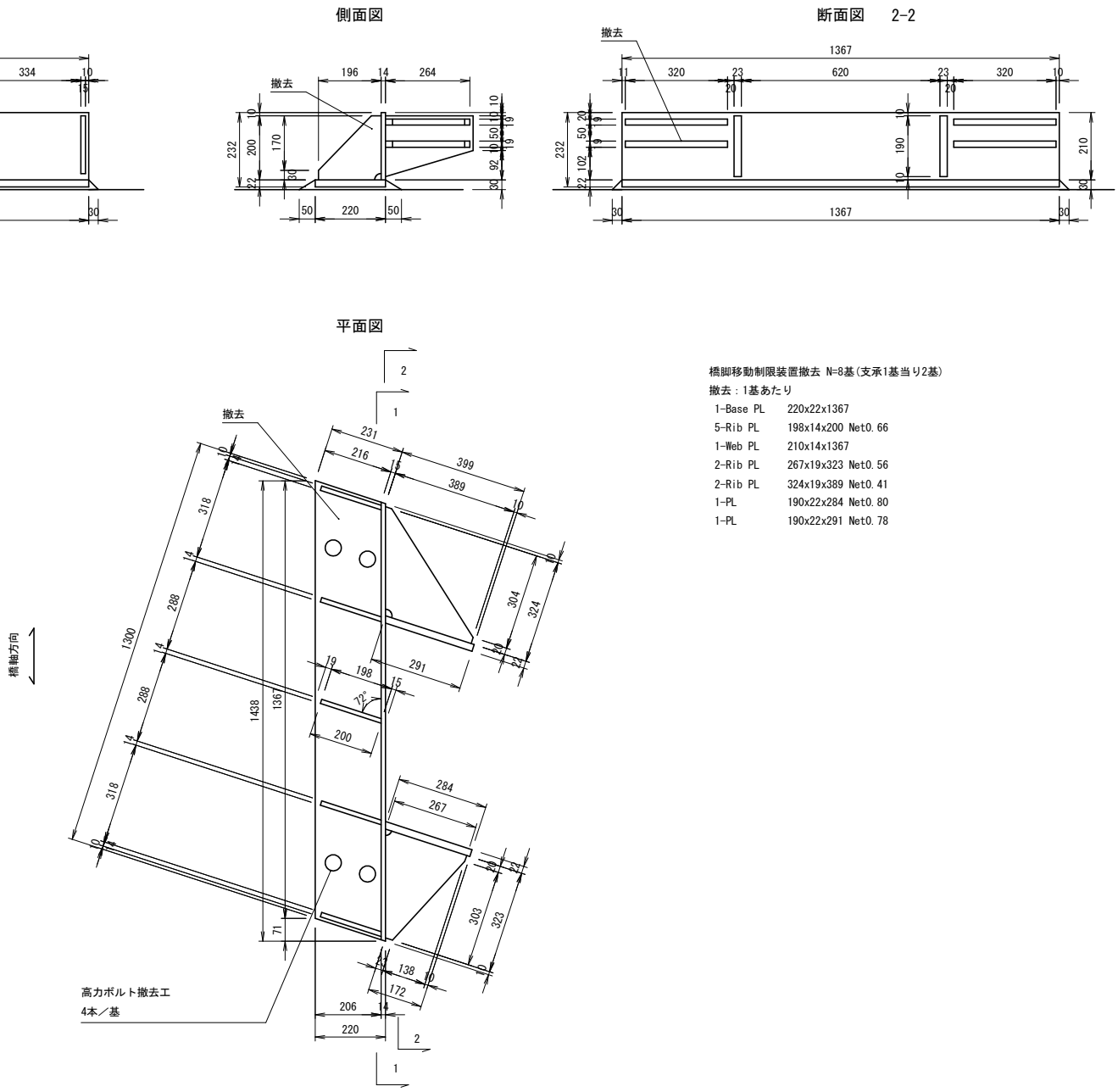
橋台部移動制限装置図(参考図)

N=24



橋脚部移動制限装置図(参考図)

N=8



注)

1) 既設移動制限装置の図面が無いため、本図の部材の形状および寸法は、参考である。
現地で部材寸法等を確認の上、施工すること。

2) 支承部の塗装塗替えを行う前に、既設移動制限装置撤去を撤去する必要がある。

3) 橋台部の既設移動制限装置前面の既設宙座拉幅部に浮きが生じている箇所がある。
その浮き部の補修を行う前に、既設移動制限装置を撤去すること。撤去後、
既設移動制限装置設置面にコンクリートの変状が確認された場合は、補修すること。

4) 橋脚支承部の既設モルタル部を撤去後、橋座面が平滑になるように表面を処理すること。

工 事 名	(総合評価) 変橋補修 (その1) 工事		
工事場所	京都市左京区下鴨宮河町他 地内		
図 面 名	既設移動制限装置撤去図		
事業年度	令和 8 年 6 月		
縮 尺	図示	図面番号	29 / 31
京都市建設局 土木管理部 橋りょう健全推進課			

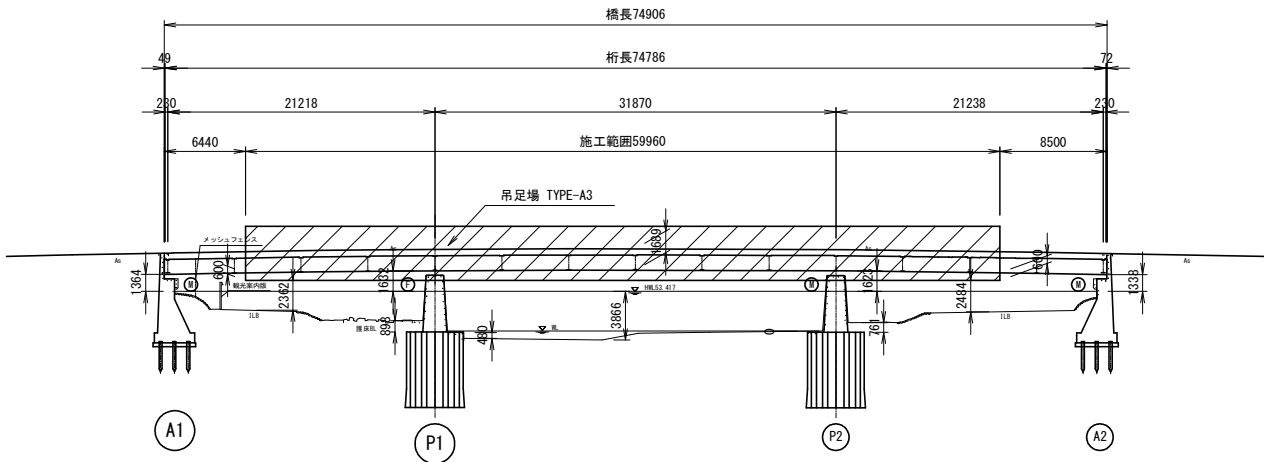
参考図(吊足場・施工ヤード図)(1/2)

S=1:300

循環式プラスト

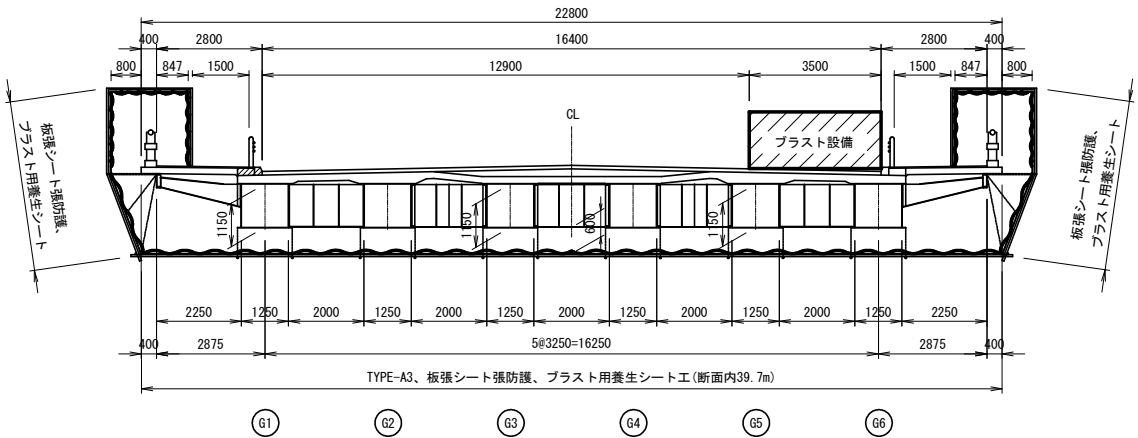
1工区 第1径間高水敷中央～第3径間高水敷中央施工時

側面図



横断面図

S=1:100

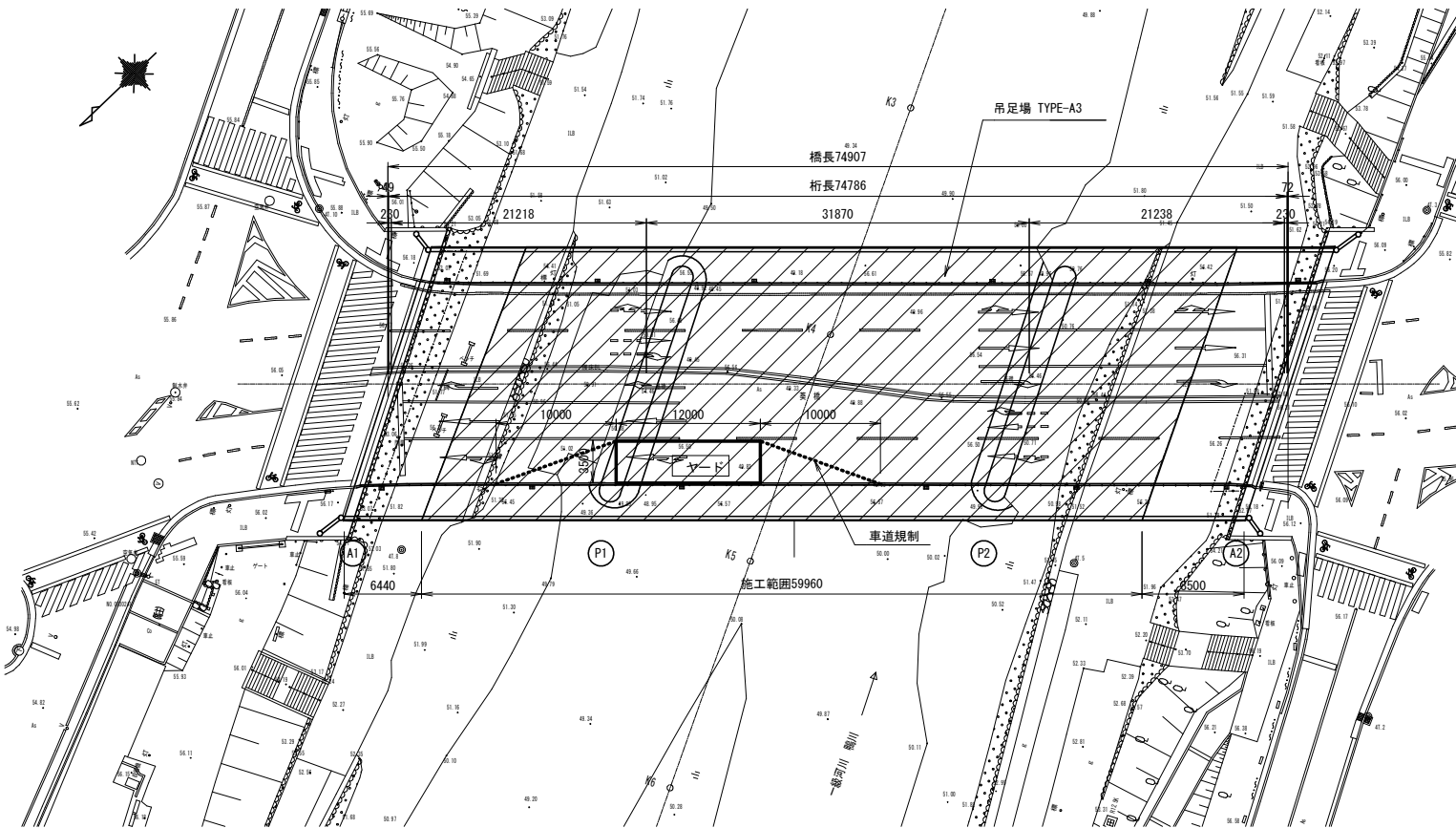


数量表

工 種	種 別	単 位	数 量	備 考
足場工	吊足場	m2	1367.1	

1. 施工時、現地確認の上、詳細寸法を決定すること。
2. 塗膜に有害物質が含まれるため、塗膜剥離・素地調整施工時等は、塗膜が飛散しないように環境へ配慮した対応を行うこと。
3. 吊足場には、足場工・床面シート張防護・朝顔・板張防護工・シート張防護工が含まれている。
4. 吊足場の供用期間は、7.0箇月を想定している。
5. 1種ケレン時には、プラスト用養生シート工により養生を行うこと。

平面図



鉛対応環境対策資機材（参考数量）

負圧集塵装置	負圧集塵装置 (160m3/min)	台・月	2.5
	負圧集塵機用カートリッジフィルタ、パッキン	本	16
エアシャワー	エアシャワー	台・月	2.5
	エアシャワー用1次フィルタ	枚	5
	エアシャワー用HEPAフィルタ	枚	3
クリーンルーム	簡易セキュリティールーム	箇所	1
真空掃除機	真空掃除機	台・月	2.5
	真空掃除機用1次フィルタ	枚	5
	真空掃除機用2次フィルタ	枚	3
	真空掃除機用HEPAフィルタ	個	1

安全費数量表（参考数量）

鉛対応安全衛生保護具	エコクリーンクールスーツ（上）	着	144
	エコクリーンクールスーツ（下）	着	144
	送気ユニット 接続器共	組	12
	定置式ろ過筒（4人用、ろ過フィルタ含む）	台	3
	エアラインホース（Φ9、L=20m、12人分）	本	12
	エアラインホース（Φ19、L=25m、定置ろ過筒3組分）	本	3
	防塵マスク（12人分）	個	12
	防塵マスク用フィルタ（交換用含む）	個	216
	防護手袋	組	840
	防護長靴	足	12

注)
1) 本図は参考図である。構造寸法等を確認の上、施工すること。
2) 河川管理者との協議により、両岸の高水敷の通行に配慮し、高水敷の半分は足場を設けない計画としている。

工 事 名	(総合評価) 架橋補修 (その1) 工事		
工事場所	京都市左京区下鴨宮町他 地内		
図 面 名	参考図(吊足場・施工ヤード図)(1/2)		
事業年度	令和 8年 6月		
縮 尺	図示	図面番号	30 / 31
京都市建設局 土木管理部 橋りょう健全推進課			

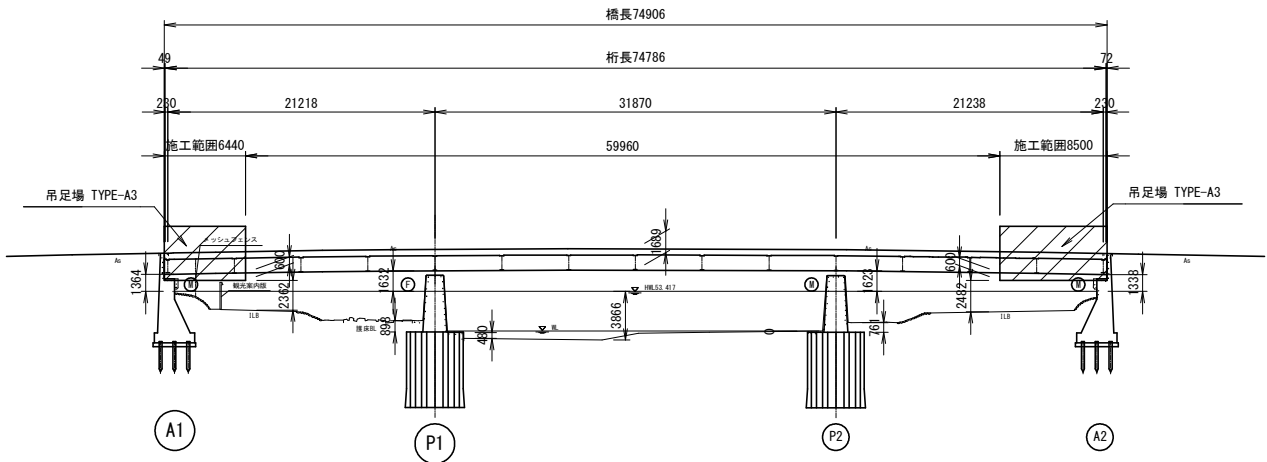
参考図(吊足場・施工ヤード図)(2/2)

S=1:300

循環式プラスト

2工区 第1径間、第3径間残り施工時

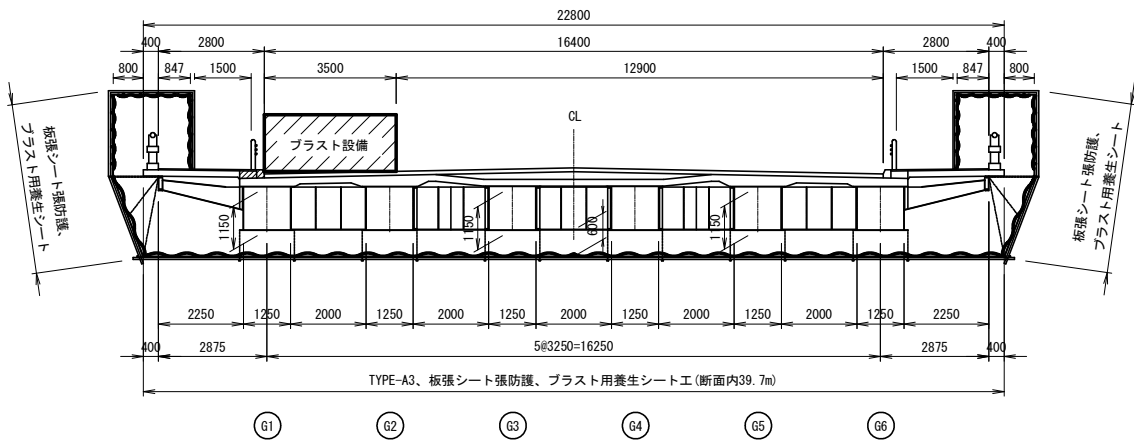
側面図



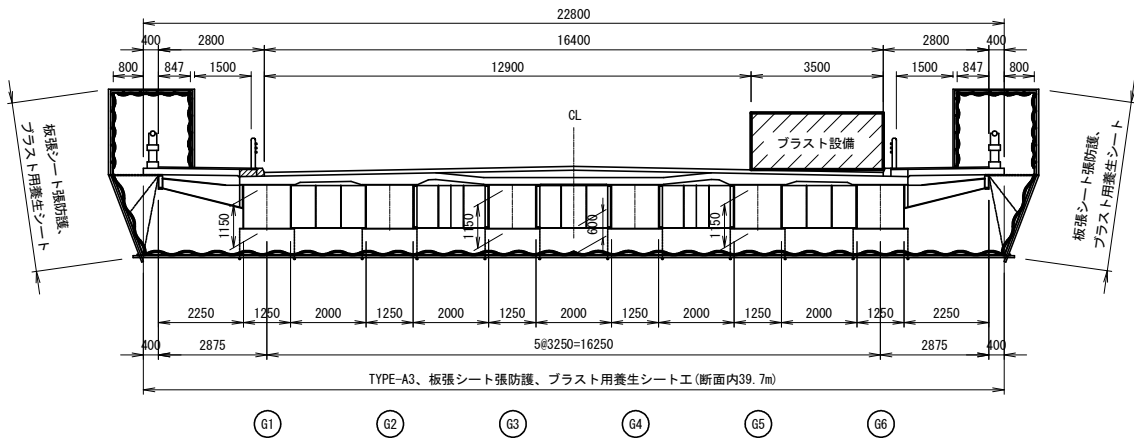
横断面図

S=1:100

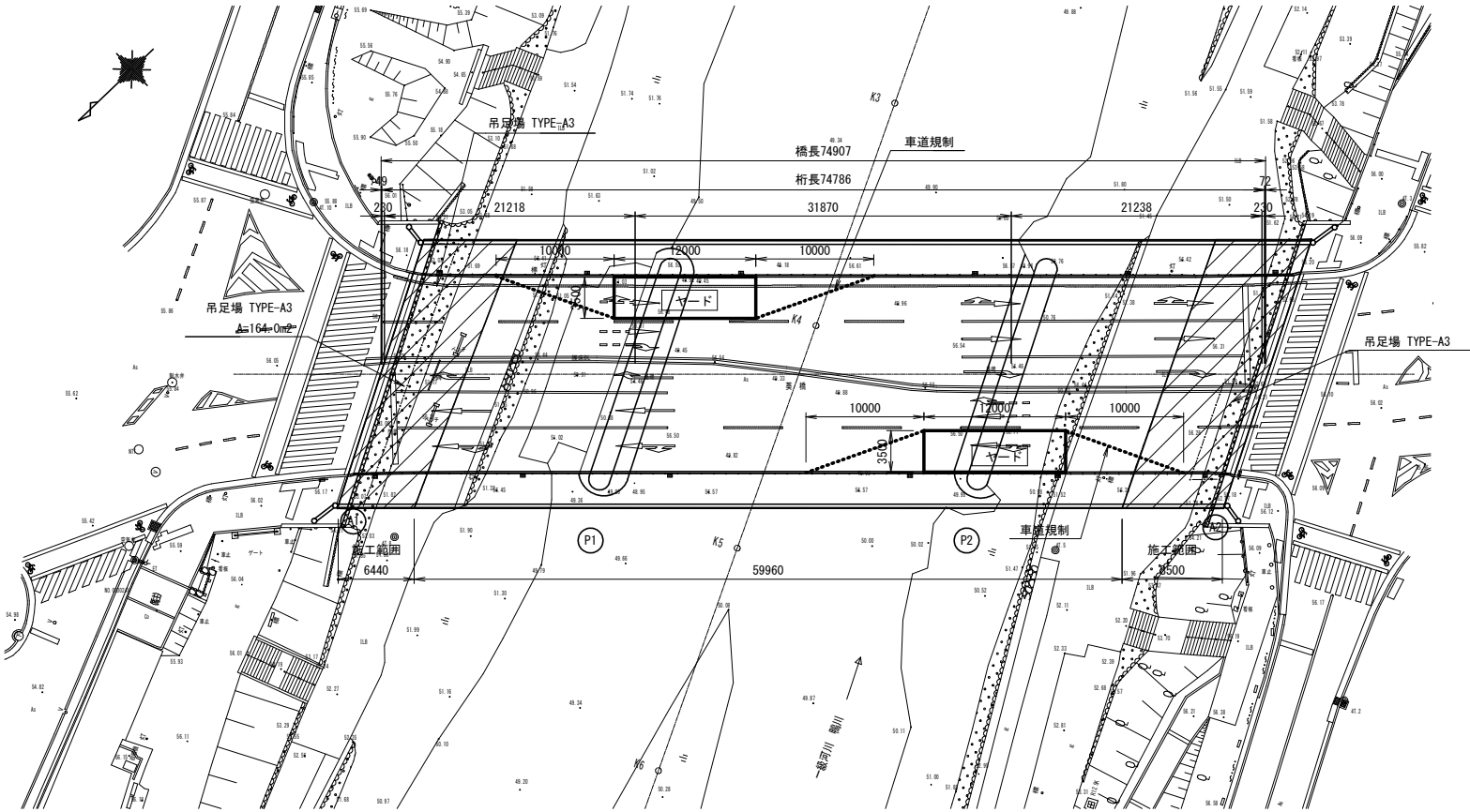
第1径間残り施工時



第3径間残り施工時



平面図



鉛対応環境対策資機材（参考数量）

負圧集塵装置	負圧集塵装置(160m3/min)	台・月	1.0
	負圧集塵機用カートリッジフィルタ、パッキン	本	16
エアシャワー	エアシャワー	台・月	1.0
	エアシャワー用1次フィルタ	枚	2
	エアシャワー用HEPAフィルタ	枚	1
クリーンルーム	簡易セキュリティールーム	箇所	1
	真空掃除機	台・月	1.0
真空掃除機	真空掃除機用1次フィルタ	枚	2
	真空掃除機用2次フィルタ	枚	1
	真空掃除機用HEPAフィルタ	個	1

数量表

工 種	種 別	単位	数量
足場工	吊足場	m2	340.6

- 施工時、現地確認の上、詳細寸法を決定すること。
- 塗膜に有害物質が含まれるため、塗膜剥離・素地調整施工時等は、塗膜が飛散しないように環境へ配慮した対応を行うこと。
- 吊足場には、足場工・床面シート張防護・朝顔・板張防護工・シート張防護工が含まれている。
- 吊足場の供用期間は、2.9箇月を想定している。
- 1種ケレン時には、プラスト用養生シート工により養生を行うこと。

安全費数量表（参考数量）

鉛対応安全衛生保護具	エコクリーンクールスーツ（上）	着	48
	エコクリーンクールスーツ（下）	着	48
	送気ユニット 接続器共	組	12
	定置ろ過筒（4人用、ろ過フィルタ含む）	台	3
	エアラインホース（Φ9、L=20m、12人分）	本	12
	エアラインホース（Φ19、L=25m、定置ろ過筒3組分）	本	3
	防塵マスク（12人分）	個	12
	防塵マスク用フィルタ（交換用含む）	個	72
	防護手袋	組	288
	防護長靴	足	12

- 注)
- 本図は参考図である。構造寸法等を確認の上、施工すること。
 - 河川管理者との協議により、両岸の高水敷の通行に配慮し、高水敷の半分は足場を設けない計画としている。

工 事 名	(総合評価) 架橋補修（その1）工事		
工事場所	京都市左京区下鴨宮町他 地内		
図 面 名	参考図(吊足場・施工ヤード図)(2/2)		
事業年度	令和 8年 6月		
縮 尺	図示	図面番号	31 / 31
京都市建設局 土木管理部 橋りょう健全推進課			